R026
26
R026-Te26ウ
1200500765779

始

119,30

昭和十五年十月

天理圖書館

稀書目錄

R
026
TE 26

天理圖書館叢書第十二輯

天理圖書館稀書目錄

天理圖書館

發行所寄贈本

序文

昭和大典を壽ぎ奉り、石上宅嗣卿の千百五十年を記念して開館に及びたる天理圖書館は皇紀二千六百年の光輝あるこの秋、開館十周年の意義深き記念日を迎ふ。まことに感慨無量なり。

この間、神明の加護と關係諸員の努力とによりて、本館負托の使命は、逐次緒につき、目錄を完成し、叢書を出版し、天理時報を發行に及ぶ等、創設期十年の業蹟は回顧するに必ずしも貧ならざるものあり。

加之、皇紀二千六百年奉讃橿原道場の計畫されるやその一施設たる橿原文庫の整備を分擔するの光榮に浴したるは、まことに奉謝すべき本館望外の名譽と云ふべし。

國立圖書館
昭 23.2.13
寄贈

茲に十周年の記念日を迎ふるに當り、稀書目錄を出版して創設期を了し、更に潑剌たる意氣と熱とを以つて躍進の第二期に入らんとするに際し、神恩を奉謝すると共に、向後彌々神助の絶大ならん事を祈念し奉る。併せて關係諸員の努力を犒ひ、ます〳〵本館使命の達成に協力あらんことを望む。

昭和十五年十月十八日

中山正善識す

稀書目錄の刊行にあたりて

今から約十年前、私が入館した當時、藏書は五萬以上あつたが、所謂稀書と稱すべきものは實に數へるほどしかなかつた。この目錄に收錄する大部分は殆んどその後に加へられたもので、その收藏にあたつては多數諸氏の、殊に天理教管長の絶大なる御援助と御指導とを忝ふしてゐる。私はその度々の情景を殆んど覺えてゐる。そしてその間幾度か本目錄の編纂を企てたことであるが、新入書の應接と館の整備とに追はれ、加ふるに菲才を以てしてはどうすることも出來なかつた。幸に光輝ある紀元二千六百年と本館十周年の佳き歳にこの目錄が刊行されるに到つたことは、私の大きな喜びである。

本目錄には六百五十部を收錄したが、その選擇にあたつては、古稀書、稿本類に重きをおいて各部門毎に選拔し、比較的あたらしければ大部貴重な所謂實のある稀書にまでは及ぼさなかつた。そこに本目錄は稍々好事的な意圖をもつてをり、利用の立場の方は本館圖書分類

目錄に讀つた。又、連哥、俳諧書並びに古文書の一切は遠からずそれ等の特殊目錄が刊行さるゝことゝて本目錄よりは除いた。然し、編纂の樣式はほゞ圖書館としての事務的立場からこれを行つた。これは多少なり本館圖書の利用に便せんが爲めである。

終りに本書の內容ともつとも由緣の深い管長樣から序文と書名とを戴いたことは洵に感謝に堪へない處である。又直接編纂にあたつて御指導を賜つた諸氏の御厚情を深謝し、本書の編纂が多少とも江湖に寄與する處あらば、その歡びをこの編纂の爲め苦心を倶にした現、舊職員とともに頒ち度い。

昭和十五年秋

富永牧太

凡例

一、所收書は日本十進分類法に準じて分類配列し、分類綱目は適宜省略、小分類は改まる毎に〇印を挿入す。尙索引に便じて書名の下に追番號を附す。

一、說明は書名・成立樣式・卷數冊數・人的關係・裝釘體裁・書名參考・藏書印記・刊記奧書識語見返し・備考の順を追ひ人的關係以下六項は句點及び改行を以つて區分す。但し該當する項を缺きたる場合は勿論、不要と認めたる場合はこれを記せず。

一、書名は內題により、內題なき時は外題に從ひ、通稱あるものは專らこれを用ふ。假に題せしは〔　〕印をほどこす。

一、成立樣式は書名の下にしるし、刊寫の別・更に勅版・古活字本・五山版・宋版・奈良繪本・繪卷物・複製本等に細別す。但し一般整版本には標記せず。

一、卷數冊數は書名の下にしるし、闕本落丁等ある時は闕の文字を以つて表す。

一、人的關係の項には、著者・筆者・序者・跋者・題辭者・畵者等を含む。之を各著・筆・序・跋・畵等と略し、著者自ら他の目に關する時は、自の文字を加ふるに止む。

一、裝釘體裁の項には、裝釘表紙用紙・縱橫寸法・丁數・匡郭寸法・行字・畵數を含む。丁數は二冊以上にわたるものにあつては省略す。

一、書名參考の項には、題簽・外題・內題・柱心を含む。題簽は有無・原替の別・所在・體裁・外題の順に述べ、外題は寫本替題簽にあつては墨朱等の料を註す。內題は書名と相違ある場合のみ之を揭ぐ。

一、人的關係裝釘體裁書名參考の各項の各目はその間に空白を置きて區分す。

一、藏書印記は代表的一、二に止めて他は揭げざる事あり。

一、刊記奧書識語見返し及びそれに類せしものにして、書誌的關係のものは悉くを揭ぐ。

一、以上各項說明の要約又は補足を備考として（　）印に括結、末に附す。

一、索引は書名著筆者名刊行者を主に、他は適宜採擇、表音式假名遣五十音順に配列し、書名の下の追番號を以つて索搜にあつ。尙標目とせし書名の下に括弧に入りしは分類番號にして本館に於ける請求番號なり。

目次

序
序
凡例
目次
圖版

總記……一
圖書學・書誌學……一
圖書解題及目錄……一
百科事彙・類書……三
叢書・全集……六

精神科學……四三
東洋哲學……四三
宗教……四三
神道……四三
佛教……四六

歷史科學……八三
キリスト教……八三
日本……八七
太古及上古史……八八
平安時代……九五
近古史……九六
室町及安土桃山時代……九七
近世史……九七
朝鮮……一〇〇
支那……一〇一
叢傳……一〇一
日本人叢傳……一〇一
支那人叢傳……一〇三
皇室—日本……一〇三
各傳……一〇五

地誌及紀行……一〇六
萬國地誌……一〇六

正誤表

頁	行	誤	正
二二頁	上五行	ものなるべし	ものなるべし
一一八頁	下五行	萬清取わたし	萬清取わたし
一一九頁	上十四行	所謂駿河版	所謂駿河版
一二〇頁	上八行	竹門散人逸志	竹門散人逸志
一三〇頁	下九行	おのこかこゝろ	おのかこゝろ
一三三頁	下十一行	岡井愼吾氏	岡井愼吾
同	下十六行	會語便覽	會話便覽
一四三頁	下最終行	和泉掾	和泉掾
一四七頁	下十二行	七寸九六寸〇分	七寸九分六寸〇分
同	下十一行	百冊百冊	百冊
一四八頁	上七行	木賊	木賊
一五一頁	下最終行	六頁分題	六頁分、
一五四頁	上十八行	水谷不倒氏	水谷不倒
一五六頁	下十一行	後者番附	役者番附
同	下十四行	けいせん竹生嶋	けいせい竹生嶋
一六九頁	下四行	岡田三郎右衛門	岡田三郎右衛門
一七五頁	下十一行	嘉永二年	嘉永二年
一七七頁	下十八行	柳水亭種清自筆	柳水亭種清著自筆
一八〇頁	上一行	岡田實德	岡田實德
同	下一行	桂太郎	桂太郎
同	下六行	園田	園田
一八四頁	下十八行	配しだる	配したる
一八六頁	上八行	伊詠之(一十)	伊詠之一(一十一)
同	下六行	和袋綴	和袋綴
索引	二頁	中九行	下十三行 村羅山 林羅山
同	四頁	中十二行	一〇 一一
同	六頁	下一行	糟居 糟谷
同	一一頁	下八行	六頁 六頁
同	同	下九行	一〇 一一
同	一三頁上十七行		一〇 三六頁
同	一三頁下二十二行		高鳥 高島
同	一四頁中十・十一行		土岐 土岐
同	一六頁上三・四行		末詳 末詳
同	一六頁上十四行		三一 三一頁
同	一七頁下十八行		同頁上段十二行目へうつす
同	一七頁中最終行		圓悟禪師 圓悟禪師
同	一九頁下二十四行		森本東鳥 森本東鳥
同	二〇頁下一行		辯証 辯証
同	下二十三行		圓石山八 圓石山人

日本地誌……一〇九
アジヤ地誌……一一七
ヨーロッパ地誌……一一七
社會科學……一二八
法律學……一二八
風俗及慣習……一二九
軍事……一三一
自然科學……一三三
産業……一三六
美術……一三七
語學……一四〇
日本語……一四〇
支那語……一四四
オランダ語……一四九
文學……一五〇
日本文學……一五〇
和歌……一五〇
歌謠……一五五
宴曲・舞曲・謠曲……一五五
淨瑠璃……一五八
俚謠……一五五
日本戲曲……一五六
平安朝物語……一五八
鎌倉時代物語……一六二
室町時代物語・小說……一六二
江戸小說……一六六
國文……一七九
書簡文・消息往來……一七九
狂歌……一八〇
笑話・一口噺……一八二
支那文學……一八五
イギリス文學……一八七
ギリシヤ文學……一八七
索引

圖版目次

配列番號

第一頁　永樂大典……二二四
第二頁　古老口實傳……二二四
第三頁　日本書紀神代卷（勅版）……二〇八
　　日本書紀神代卷（古活字本）……二二〇
第四頁　大方廣佛華嚴經入法界品第卅九之廿一……二四二
　　大方等大集經月藏分中諸阿修羅詣佛諸品第三（燉煌經）……二四六
第五頁　古事記傳三之卷……二六九
第六頁　稜威道別……一九二
　　萬葉集檜嬬手別記……一九九
第七頁　南都名所集……二七八
　　奈良名所八重櫻……二七九
第八頁　太平記拔書（キリシタン版）……二二三
第九頁　海國兵談……四二三
第一〇頁　休明光記……二二一
　　近世蝦夷人物誌……二二六
第一一頁　御製遊遙詠（宋版）……六四六
　　禪林類聚（五山版）……二七〇
第一二頁　成唯識論（春日版）……二五五
　　十住心論（高野版）……二六四
　　四部錄……二六九
　　聲明集……二五八
第一三頁　約翰福音之傳……二八四
　　路加傳福音書……二八二
　　こんちりさんのりやく……二七七
第一四頁　類語品彙……二〇七
　　言靈……四四〇
　　伊呂波字類抄……八
　　字鏡集……四五八
第一五頁　諺苑……四二一
　　廣韻（元版）……四四八
　　倭玉篇……四四二
第一六頁　萬葉集（古活字本）……四六八
第一七頁　うつほ物語（繪卷物）……五二七
第一八頁　孟津抄……五四一
　　弄花抄……五四二

第一九頁　聖德太子傳曆……三四二
　　しやうとく太子の本地……五六六
第二〇頁　保元物語……三一八
　　もくれんのさうし……五六一
　　あま物語……五五〇
第二一頁　日本書紀類聚解……三一三
第二二頁　考聲徽……四五三
　　古音律呂三類……四五二
第二三頁　紫文譯解……一七〇
　　後撰集燈……四八〇
　　栗田土滿詠草……三四
　　百人一首古說……六八
第二四頁　柳亭家集……六二七
　　雲妙間雨夜月卷二草稿……六一六
　　犬枕並狂歌……五六八
第二五頁　ますらを物語……六一七
　　繪本漢楚軍談草稿……六一五
　　戾駕籠故郷錦繪……六〇九
　　針供養御事始……六〇三
第二六頁　石橋山七騎落……五〇三
　　公平牛鬼責……五一二
第二七頁　天草の四郎……四九八
第二八頁　心中八嶋……五三五
　　けいせい竹生嶋……五三二
　　好色橋辨慶……五〇九
第二九頁　けいせい柏の大黑天……五三三
　　巖嶋姫瀧……五三一
第三〇頁　吉原歌仙……四一九
　　浪花鉦……四〇五
　　鳥原大和こよみ……四〇六
第三一頁　新可笑記……五九三
　　男色哥書羽織……五八九
　　好色大神樂……五六六
　　契情風流杉盃……五八五

圖

版

永樂大典

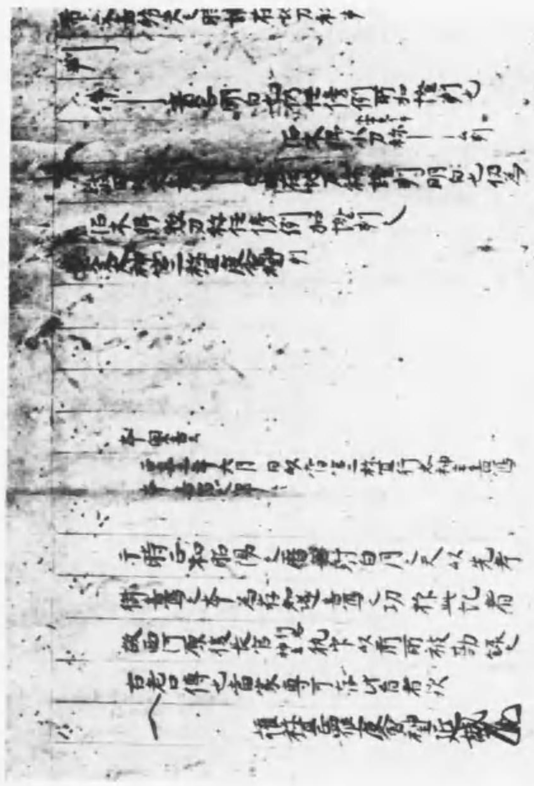
卷二千三百四十八
之二千三百四十九

六模
一百二十七

永樂大典卷之七千三百三　十八陽

郎

戶部侍郎

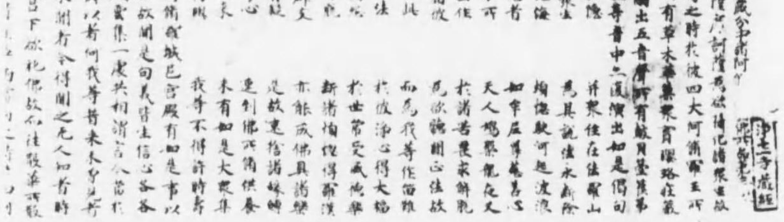


日本書紀
慶長己亥
季春新刊

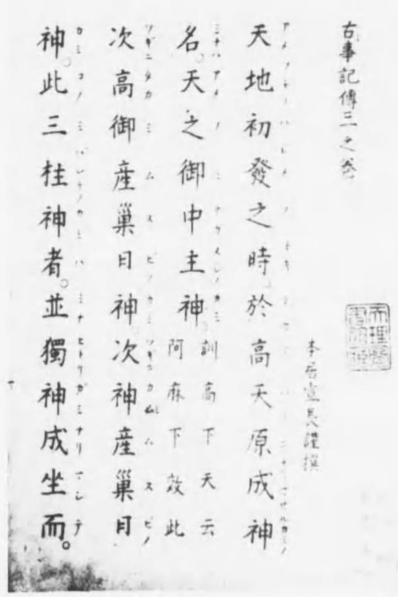
日本書紀卷第一
神代上

古天地未剖陰陽不分渾沌如雞子溟涬而含牙及其清陽者薄靡而爲天重濁者淹滯而爲地精妙之合搏易重濁之凝場難故天先成而地後定然後神聖生其中焉故曰開闢之初洲壤浮漂譬猶游魚之浮水上也于時天地之中生一物狀如葦牙便化爲神

大方廣佛華嚴經入法界品第廿九之廿一　二四三



大方等大集經月藏分中諸阿修羅品第三（燉煌經）　二四六



天地初發之時於高天原成神名天之御中主神訓高下天云阿麻下效此次高御産巣日神次神産巣日神此三柱神者並獨神成坐而

稜威道別卷第二

橘守部著

而理圖書館藏

橘本文庫

日本書紀神代上之一

古、天地未剖、陰陽不分、渾沌如雞子、溟涬而含牙、及其清陽者薄靡而為天、重濁者淹滯而為地、精妙之合搏易、重濁之凝竭難、故天先成而地後定、然後神聖生其中、

而理圖書館藏

萬葉檜嬬別記一

本集十二

○盛見津山　[illegible]

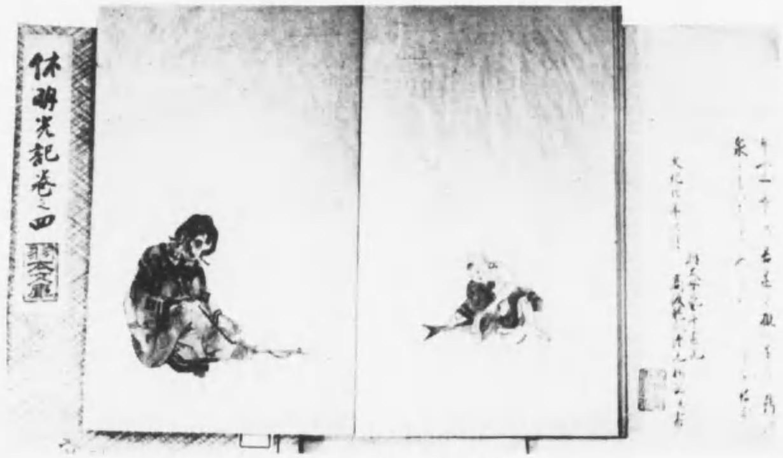
[illegible]

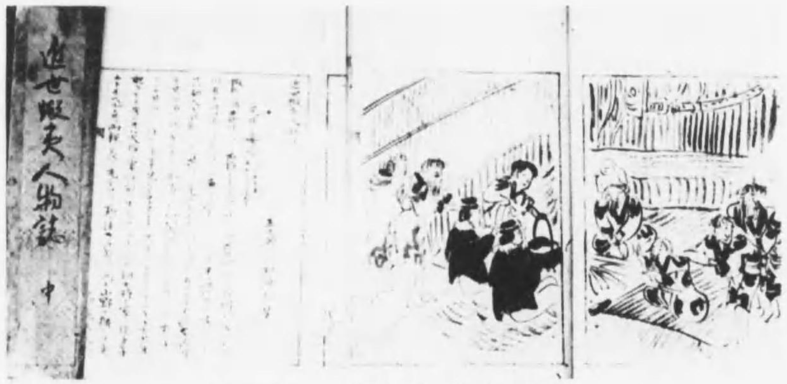
南都名所集卷第一

奈良新　南門
三笠山　芳宮社
大乙居　三十八所
春日野　紀伊門社
聖武天皇浴池　市渡殿屋
原道　水屋
車屋殿　雷山

奈良名所八重櫻　十二月録

一　猿沢の神祠
一　興福寺
一　神鹿友
一　眉間寺
一　西隆寺
一　般若寺
一　石城寺


休明光記卷之四


近世娼夫人物誌　中

御製逍遙詠第三
伊
御製逍遙詠序
玄元大道理包深遠
貫綸微
脫聽聖之餘留心緗帙
金匱玉函亦探玄奥

禪林類聚卷第一
帝王
○帝王
禪林類聚目錄終

約翰福音之傳　二八四

路加傳福音書　二八三

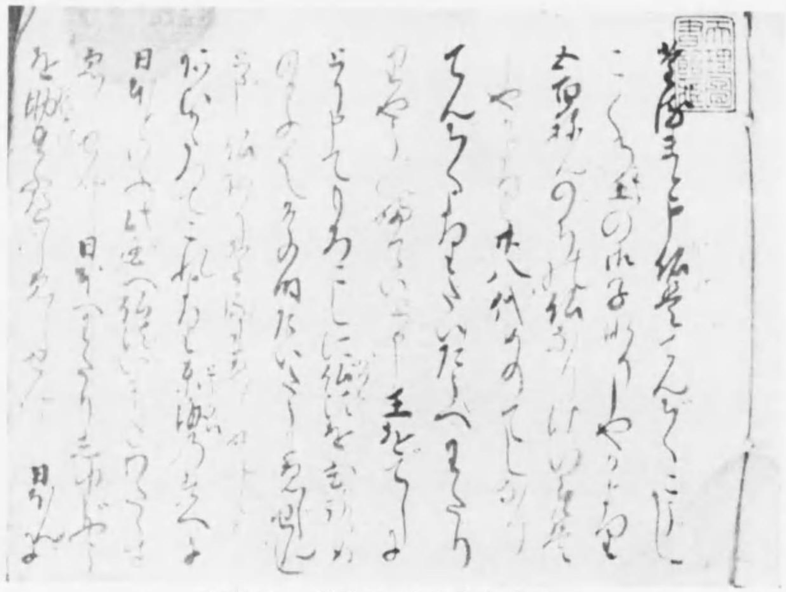
こんちりさんのやく　二七七

うつほ物語（繪卷物）　五三七

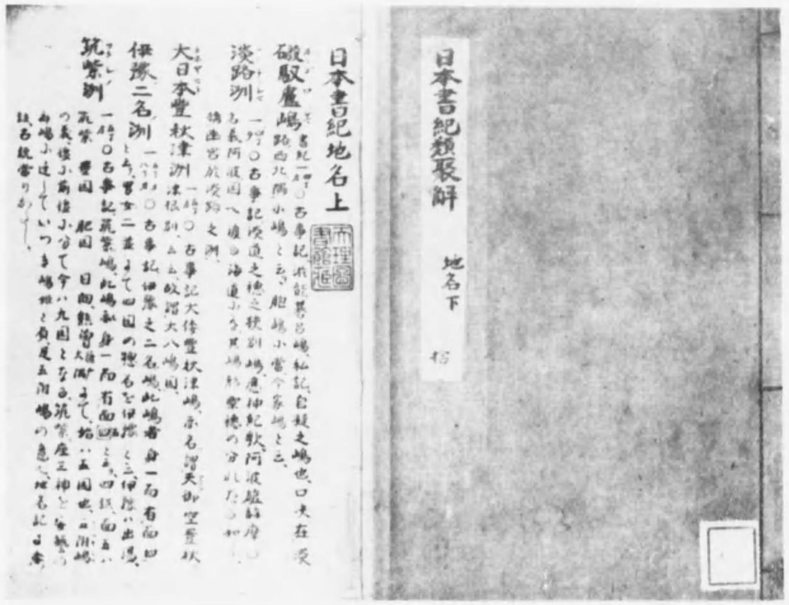
高津抄　一四五

花弄抄　三四五

聖徳太子傳暦　三四三



しやうとくたいしの本地　五六六



日本書紀類聚解　地名下

日本書紀地名上

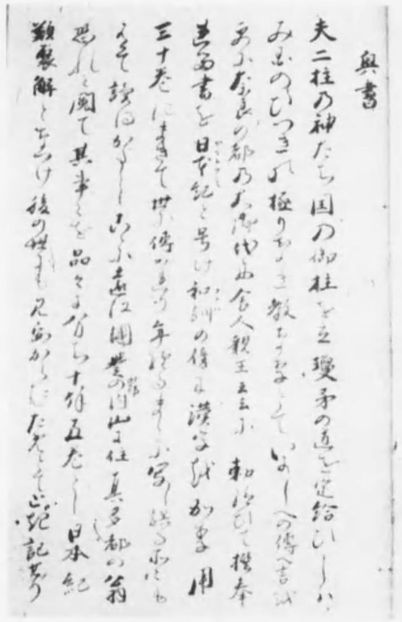
破駅盧嶋　書紀一所○古事記、淡路国の条に、胆嶋小嶋と云ふ、今家地と云ふ。

淡路洲　一所○古事記、淡道之穂之狭別嶋、是伊弉諾尊、○名義、所産国、以後海道ふる其嶋、所産の名、如此。

大日本豊秋津洲　一所○古事記、大倭豊秋津嶋、亦名謂天御虫目命、○名義、蜻蛉嶋、

伊豫二名洲　一所○古事記、伊豫之二名嶋、此嶋者、身一而有面四、各有名、愛媛、伊予、

筑紫洲　一所○古事記、筑紫嶋、此嶋亦身一而有面四、各有名、筑紫、豊国、肥国、日向、熊曾、



與書

夫二柱の神たち国の御柱を立、瓊矛の道を定給しより、みほのしつきより極りおはします数おほくおはしますなり、（中略）

文化九壬申年五月　遠江国豊田郡内山藤原真龍謹奉

五月十日　御内和　正親町大納言公明卿奉之年月姓名記書

考聲微　四五二

古音律呂三類　四五三

紫文譯解　一七〇

後撰集證　四八〇

栗田士滿詠草　三四

百人一首古說　六八

柳亭家集　六・七

雲妙間雨夜月食月座二稿草　六・六

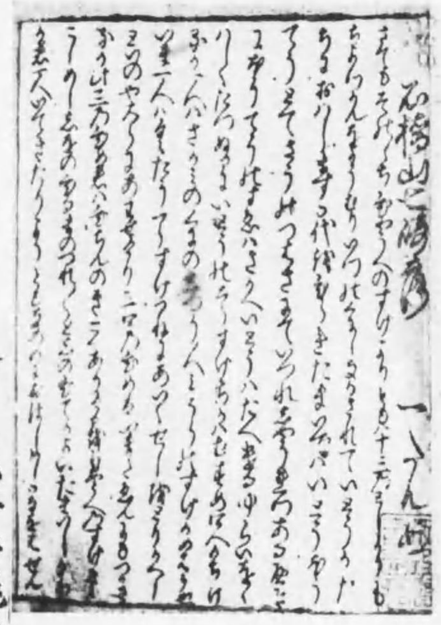
夫枕兼狂歌　五・六・八

九〇六　書画雑故記物尽

六〇六　絵事御遊作計

七・六　鯰絵

五・六　鯰絵近代美人絵本物



石橋山七騎落

五一一三

公平牛鬼責

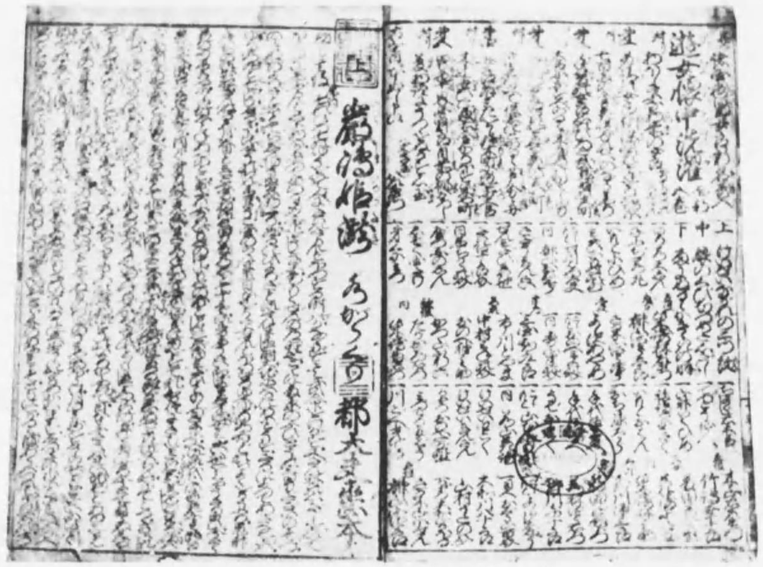
五一一二

五三五　心中八鳴

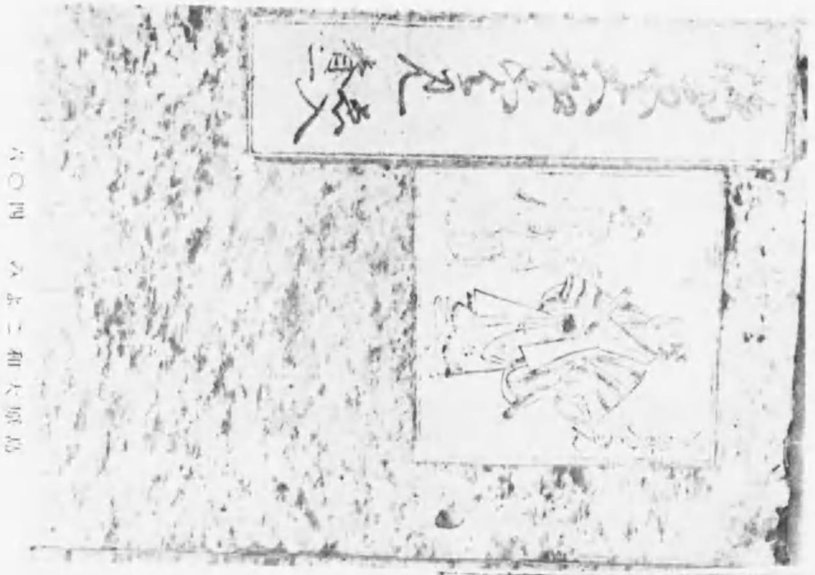
九〇五　慶辨橋色好

五三五　鳴生竹いせいけ

五三五　天黒大の柏いせいけ



五三一　鶴姫嚴



四〇九　古今百人一首

四〇五　絵花鑑

三九五　記笑可新

九八五　繊羽書哥色男

五八五　杉流風情契杉

六八五　樂神大色好

總記

圖書學・書誌學

古芸餘香　寫　十一卷十二冊　一

田中光顯編　小野彦松筆、和袋綴菊花つゝき模様つや出し丹表紙　八寸八分六寸〇分、題簽左肩摺雙邊書名同滑川澹如筆

（楓山文庫本宋版二十九種以下珍籍四百六十六種の書誌學的調査なり、卷一初め「明治十八年内閣書記官長田中光顯編纂」とあり）

玉屑集　六帖　二

折本橙色表紙　一尺〇分六寸八分、題簽左肩黄色墨書名同、「若樹文庫」

（東都愛書家の相寄りて製せし珍書版本の標本集、古くは元藥本杜工部集より草雙紙に至る、すべて原本の一丁或は數丁を示す、題簽又三村竹清加賀翠溪幸田成友等諸家の手になれり）

古書の包紙考　寫　二卷二冊　三

水谷不倒著自筆、和袋綴淡色表紙十行二十字詰原稿用紙　八寸一分五寸六分、題簽左肩雙邊書名同、「水谷文庫」

（主として江戸小說の包紙、古くは享保二年六段本三莊太夫より明治十六年祇園祭禮信功記に到る原物又は寫眞を示して、それ〴〵の特色と共に各樣式各時代の特質に迄論及しあり）

圖書解題及目錄

辨疑書目錄　闕二卷一冊　四

中村富平編　嘉永第六霜月吉旦自序、和袋綴縹表紙合綴三方裁斷　七寸二分五寸〇分　有界四周單邊五寸四分三寸七分、題簽左肩雙邊書名同　柱心辨疑書目錄

刊記

寶永七年歲次庚寅林鐘吉旦　洛陽高辻通鳥金町　中村孫兵衛壽梓（印）

（中卷欠、内容日本古典全集第四期書目集上所收、富平卽孫兵衛なり）

辨疑書目錄　三卷一冊　五

中村富平編　岩寶永第六霜月吉日自序、和袋綴改裝裏打裁斷七寸三分五寸三分　有界四周單邊五寸四分三寸七分、替題簽左肩摺單邊墨書名同　柱心辨疑書目錄

刊記

寶永七年歲次庚寅林鐘吉日　洛陽高辻通鳥金町　中村孫兵衛壽梓（印）

（內容日本古典全集第四期書目集上所收、富平卽孫兵衛なり）

本朝書籍目錄　寫　一冊　六

和袋綴鼠色表紙　九寸四分六寸三分　十一丁（中白紙一）十一行、題簽なし外題左肩書名同、「風早藏書」「姉小路藏書」

奥書

此一冊者英親朝臣本也恩許令書寫了加一校了　始三枚他筆予往々書之　承應二年三月廿一日　左中將實道

（實道は姉小路家の人　承應二年奥書本中傳來正しと云ふべし、本朝書籍目錄考證參照）

西洋學家譯述目錄　一冊　七

穗亭編　桐園校　嘉永二年桐園居士序　嘉永五年穗亭例言、

和袋綴格子模樣入經表紙　二寸七分六寸〇分　四十八丁　有界四周單邊二寸一分四寸八分　十七行、題簽なし　左肩七行に「天文地理曆學算術內外醫療本草舍密軍學雜錄隨見聞而記」とあり見返しに書名あり　柱心片假名イロハ　各丁載する人名の頭文字にして索搜に便す、「堀氏藏書」「遇德堂」

伊呂波字類抄　寫　十卷十冊　八

和袋綴薄肉色表紙　八寸八分六寸二分　八行、題簽なし外題書名同

奥書

（一）嘉永六癸丑二月廿二日藤波殿本交合了四廿四再交了藤原鄰實（朱）

弘化三丙午年八月四日以伴氏本令書寫畢山根主稅屬鄰實

（二）嘉永六癸丑四十二度交合了藤波殿本藤原鄰實（朱）

令人書寫一校了嘉永六癸丑九月廿九日三園

（三）弘化伍申年正月十日欠本交合了藤原鄰實　カ永五年壬子七月四日藤波トノ、本二度交合了

安政二年乙卯二月上澣以京師山根氏本寫之畢神谷克巳

（全部朱）

（四）右借山根氏本令摸寫一校了嘉永六癸丑年四月晦三園

（五）右竹本中卷交了カ永辛亥五廿五六ノ十九已上三度交了藤原鄰實（朱）

右嘉永五壬子年初冬令摸寫同年十二月八日一校克楨（朱）

（六）カ永四辛亥年五月廿八日竹本中卷再交了六廿五了鄰實（花押）（朱）

嘉永五壬子年十一月課人令摸寫同十二月七日一校了克楨（花押）（朱）

（七）嘉永四辛亥五九交合了已上竹本中卷再交六二三度交了六廿六鄰實（朱）

嘉永五壬子年課人令摸寫一校了　同年十二月八日三園（朱）

（八）カ永四辛亥五十三交了六ノ八再交了三度七ノ五了鄰實（朱）

右以山根本令摸寫一校了嘉永癸丑年四月晦日三園

（九）カ永四辛亥五十九竹本交了六ノ十一再交了三度了七ノ十（花押）（朱）

（十）竹本下卷交合了五月廿二日六ノ十六再交了三度交了七八カ永七甲刀五廿一藤ナミトノ、本交合了（朱）

一本奥云

中院黃門通躬卿家藏御本伊呂波字類抄全部十卷間其名尙突竊恨生前一不搢幸嘗常昭依有度孝親勤語旨趣常昭亦多余懇志而曲啓黃門恭荷恩免悉傳聞此書者洞院家之述作也干時元祿十三辰年洛東隱逸似閑

伊呂波字類抄全十号今行諸本誤寫脫漏之多殆不可讀者居多嗚乎轉寫已屢致此艱澁而已予前得三本而比視之就中今并似閑所寫之中院家本頗佳而未能無誤卽手自參互考訂其不詳者一從舊本隻字不意改義涉于兩可者或不辨是正者朱書字傍假一好士手新寫一通書未整頓別得二本因而再校之加朱書比之今行書頗爲好本獨自歡受收之書架以俟他日得善本如有要傳寫者莫委鹵莽書手而失墜余老婆心

天保四癸巳年六月四日　伴信友

弘化二乙巳年六月以福井氏藏本一校了

同三丙午年二月以所納于上賀茂文庫似閑遺本更批校畢

三卷本跋云

自天養比至于治承卅余年補綴无理部類如舊更加星點紕繆雖多愚昧雖直學者每見可摺改之抑読貴士有成入道詞字少少加朱點爲要文不迷也件人久學杏檀之風忽入桑門之月稽古有勤共說不信哉仍爲後見之不審粗所注付也內膳典膳橘忠兼撰

天保癸卯之冬吾　國君任二京都所司代一男信近有レ命翌レ家發二江戸一上レ京余已致仕亦在二行中一友人黑川春村來餞袖二示其近日所レ購色葉字類抄三卷一與レ予所二通行一十卷之物上不レ同蓋珍藉也欣羨之餘請二雇寫被一レ賜而別焉旅途逢レ春正月四日

入レ京是歳余方七十二以ニ二月廿五日生辰一信近等開レ宴爲レ壽二三友人邂ニ逅於京一者來會是日春村書偶至副以ニ彼字類抄一曰足下悦ニ此書一之色今猶在レ目托ニ之雇寫一恐延ニ數月一故今以ニ本書一呈レ之猶有ニ後言一死生不レ論ニ老少一僕若生後ニ於足下一再復レ之其誠歎之意溢ニ於紙上一余之喜不レ可レ言一坐爲レ之感歎矣余暫假ニ十卷校本一於春村一漸次寫成今春被レ返余亦手ニ抄藍ニ校三卷本一至ニ中秋一始卒業仍即復レ之嗚呼自ニ癸卯一至ニ今茲丙午一日月之久春村與レ余約以ニ死後一而彼此安全再歸ニ於本主之手一者豈不レ幸乎抑亦春村誠歎之所致也今以ニ三卷本序一與ニ十卷本一校レ之大同只十卷本曰分爲ニ十卷一三卷本作ニ分爲ニ兩卷一（此本三卷無レ可レ謂ニ分爲一是則異耳以兩卷之理ニ說見ニ於下一）意推レ之此書始無レ意ニ於著述一故先分爲ニ兩卷一而紙葉漸增披閱不レ便依亦爲ニ三卷一者未レ及レ改ニ序中兩卷之字一乎漸次增加遂至ニ於十卷一也然則三卷本前所レ撰而十卷本屬レ後所ニ考定一者上也故今以ニ十卷本一爲レ正校以ニ三卷本一又姑以ニ三卷本一稱ニ前本一以ニ十卷本一稱ニ後本一本書中後本所レ有前本無レ之者固其理也（增加之故如此）間有ニ前本所レ有後本無レ之者一蓋前本所レ載不レ可而後本改ニ削之一乎抑亦後本脫レ之乎未レ能ニ得ニ其證一故併加ニ入之一俱墨字及諸社諸寺國郡官職姓氏名字等部甚疎而且駁雜不レ能レ與ニ後本一通ニ校之上按レ之後本則如ニ添削改定者一今只取ニ後本所レ載者一校レ之其他省レ之又字傍訓註互有ニ異同一者係ニ改削與ニ寫誤一而其別自見焉故或取レ之或不レ取レ之前本有レ跋是後本之所レ無（其文附ニ於卷末一）由レ是觀レ之前本起ニ筆於天養之初一成ニ治承之末年一也（自天養元年至ニ治承四年一其間三十七年）如ニ其增加至ニ十卷一未レ可レ知レ成ニ何年一也（後本無レ跋蓋初恐有レ跋如ニ前本一者上而傳寫之久遂脫レ之）按三種神器条載ニ壽永二年藤原俊經朝臣勘文一則在ニ壽永之後一可レ知也余曾憾ニ此書亡一撰人一今因ニ此跋一得レ知ニ其名氏一併詳ニ仕履年歷一者實此書之光輝也（博似閑所聞爲ニ洞院家遠作者誤說也）聊記ニ顛末一以待ニ後賢之正一蓋亦撰者之素願也乎

弘化三丙午年八月廿一日　　信友　七十四歳再識

同五年戊申年二月廿五日以伴信友翁本令書寫畢山根主税屬輝實（花押）

竹木三卷奥書（朱）

右三冊借花山院黄門常雅卿本書寫校合了二時享保第八癸卯春八座資時

同上（朱）

右三冊以日野家本令書寫一校訖文政十年孟冬光棣

（再び三卷本跋あれど略す）

竹木中卷奥書（朱）

自以（至）無者古本在（斯室）以師卿公條卿本寫之漢和之文字不審不一連々可見直者也于時天文元壬辰年八月日通議大夫小槻判

竹木下卷奥書（朱）

自以至無志古本在斯室以師卿公條卿本寫之漢倭之文字不審不一連々可見直者也時天文元壬辰稔八月日　通議大夫小槻（花押）

朱古本　福井本　藍　三卷本　已上伴翁交合

山城名勝志　無標代赭墨　今井似閑本　竹木　已上輝實交合藤波トノ、本（朱）

（古典全集本と同じく今井似閑本を伴信友が天保四年他本と校合筆寫、更に福井氏本と校合上賀茂文庫本に合し、弘化三年黑川春村入手三卷本と校合す、その本を弘化三年山根輝實寫し竹本（竹屋光棣藏本）藤波殿の本を以つて校合、それを嘉永四年より安政二年にわたり神谷氏令寫めて藏せしものなり）

事纂　寫　百十卷十五冊　九

淺井奉政編「享保十年乙巳二月廿三日大衛郎遊伴臣淺井奉政謹識」の序、和袋綴　七寸五分五寸六分　十行、題簽左肩書名同、「椎本文庫」

（國書解題同候、紅葉山文庫と書物奉行淺井奉政の條參照）

節用集　一冊　一〇

和袋綴表紙剝脫　四寸九分六分〇分　九十八丁　四周單邊三寸五分五寸四分　八行約十字

（所謂饅頭屋本節用集、推定慶長年間奈良林家刊、一丁目オ、九十六丁目ウ、九十七丁、九十八丁補寫）

節用集　二卷二冊　一一

易林編、和袋綴焦茶色表紙裏打上下裁斷　八寸四分六寸二分三周單邊七寸八分五寸九分　七行十四字、題簽なし外題左肩墨「節用上（下）」　柱心節用集、「破亭改藏」「釣月軒藏本」「照山文庫」「釣月軒照山文庫」「貝誠藏」「國民文庫」共他二

刊記

有レ客携ニ鉅卷一曰此節用集十字九皆贋也正ニ諸於韻會禮部韻一諸則命レ工刻レ梓焉如ニ墨夫弄慶何辨ニ字畫之誤一哉惟取ニ定家卿假名遣一分ニ書伊爲越於江惠之六隔段一以返レ之云吉慶長二丁酉易林誌

（最後丁に平井休與開板のよしの陰刻なき所謂別版易林本、古本節用集の研究參照）

和訓類林（音字）　寫　三冊　一二

高井蘭山編、和袋綴地紋入老竹色表紙　四分六分六寸五分、

題簽左肩間似合紙「高井蘭山稿、和訓類林上（中、下）」、「吉田氏圖書記」（書名編者は題簽に從ふ、文中「假如へは文政三年ニ三十五歳ノ人ヲ見ルニ」などあるによれば其の頃の成立なるべし、先づ官名・名數・音文字・諸國神社等社會諸端の異說次いで以呂波順に、各部を天地・神鬼・姓氏・官名・人物等に分類各に屬する單語を配列、訓及び略注を加ふ、蘭山が節用集の稿本或はそが轉寫にてもあるか、上部に追加まゝ存す）

叢書・全集

栗田土滿雜集

（縣居鈴屋門の國學者土滿を中心として父孫四代及び一族交友の生活學術に關する古文書を一輯して假に題す、內容次の如し）

きゝ書　寫　一冊　一三

栗田土滿著自筆、和袋綴共表紙　七寸〇分五寸〇分　十五丁

（表紙共中白紙二）、題簽なし外題左肩書名同

（前半國學に關せしもの宣長の講席に於けるものなるべし、後半痼氣妙藥等雜事を記したり）

〔三河國圖〕　寫　一枚　一四

五尺八寸一分五尺五寸六分

（山川を彩色郡界を記し地名を書入れし疎圖、古典讀誦の參考とせしものか、土滿の手になりしなるべし）

〔九州地圖〕　寫　一枚　一五

栗田土滿筆、一尺八分三分二尺四寸八分

（甚しき略圖にして畸形、著名なる山川城下町を記入）

〔瀨戸內海圖〕　寫　一枚　一六

栗田土滿筆、二尺七分五分九寸九分

（略圖、九州をもあはせ記入、地名は古蹟歌枕と國名を主とせり）

通證座右　寫　二冊　一七

栗田土滿編自筆、和袋綴共表紙　八寸二分五寸六分、題簽なし外題左肩「通證座右神代（神武より）」

（谷川士清著日本書紀通證の拔萃、一冊目は神代紀、二冊目神武紀以下末に到る、神代紀葦牙著述の一準備なるか）

〔百人一首作者略傳〕　寫　一冊　一八

栗田土滿著自筆、半紙橫折七枚綴　四寸六分一尺三寸五分七丁

（百人一首の作者を時代順に配列、其の略傳と、作歌收載歌集を示し、時に歌註を摘記す、彼が著百人一首解の資なるべし）

瀧のいと　寫　一冊　一九

栗田土滿著自筆　自序　自跋、和袋綴共表紙八寸二分五寸五分　十三丁（中白紙二）

（寬政九年娘が七回忌に際し、死歿以來折々の悲しみによせし歌を一集とせしもの）

老のなくさ　寫　二冊　二〇

和袋綴共表紙　七寸八分五寸二分、題簽なし各冊表紙一面に「老のなくさ」の語入りし和歌一首を記し書名部を大書

（一は天保十一年歲暮天保十六年九月弘化二年等の作歌見ゆれど、他は年次不記の歌稿を編せしもの。所々古典又は古典研究書よりの拔萃もあれど、土滿が子孫の某が歌稿と見えたり）

遷宮能理登許登　寫　一冊　二一

栗田土滿著自筆、和袋綴共表紙、八寸〇分五寸三分　七丁

（表紙共）、題簽なし外題中央書名同

（土滿の祠官たりし廣幡八幡宮遷宮の際の祝詞集、或は安永五年遷宮の際のものか）

〔祝詞集〕　寫　一冊　二二

栗田土滿著自筆、和袋綴表紙なし　七寸九分五寸四分　六丁

奧書

寬政八年丙辰六月七日栗田土滿謹撰

（大頭龍社迂宮の際及び疫神祭の祝詞を輯す）

諸國文通所并名氏覺　寫　一冊　二三

栗田土滿筆、半紙橫折十九枚綴　四寸一分一尺一寸四分　十九丁（表紙共）、題簽なし外題右肩書名同

（土滿が交友の住所俗稱雅號等を記せしもの、當代國學者をつくすの概あり）

〔諸國文通所并名氏覺〕　寫　一冊　二四

栗田土滿筆、和袋綴四周單邊五寸四分三寸八分七行水色界紙

六寸六分四寸六分　八丁
（雜記帳の一部に土滿が交友の人名住所をしるせしもの）

〔廣幡八幡宮石鳥居奉献祝詞〕　寫　一冊　二五
栗田土滿著自筆、和袋綴　八寸〇分五寸四分　三丁
（末に「天明二年壬寅五月　某謹言」とあり、三丁裏雜記入）

〔土滿母十三年祭祝詞〕　寫　一枚　二六
栗田土滿著自筆、美濃判紙一枚半
（寛政七年、天明三年七月廿六日朝歿の母が十三年祭の祝詞草稿、二三改訂を加ふ）

をかの舍歌集　寫　一冊　二七
栗田土滿著自筆、和袋綴藍表紙を半紙にて覆ひし表紙　八寸一分五寸四分　八十三丁（中白紙四）、題簽なし外題左肩書名同
（自ら年來の詠草を整理せしもの　體裁ととのほりたり）

〔神代紀葦牙稿本〕　寫　一冊　二八
栗田土滿著自筆、和袋綴表紙なし　九寸三分六寸四分　二十四丁
（極初の稿本にして尙縱横の訂正增補あり、「於是素戔嗚尊請曰」にはじまり、本文は文頭のみに止めて註を詳記す）

〔神代紀葦牙校正刷〕　一冊　二九
栗田土滿著　同校、和袋綴但し綴ほぐれ表紙なし　九寸五分六寸八分　四十丁　四周單邊六寸八分五寸一分、柱心神代紀葦牙
（葦牙上卷の自序四丁と本文の大部分、校正をほどこせしは序のみにして、欄外に「此彫刻けしからぬ下直ほりと見ゆ」「土滿ノ書躰ハやはらかなる字躰なり此彫ハ𛀁ヲ𛀁ノ如クニキビシクスルドクナレリカナシムヘキヿ也」など見ゆ、現行板本はこの版と相違す、彫改めしものなり）

思ひのまに〳〵　寫　一冊　三〇
栗田土滿著自筆、和袋綴共表紙　八寸一分五寸五分　三十七丁（表紙共）、題簽なし外題中央書名同
（土滿の思想的隨筆、神道に秘といふ事・儒佛の流行行はるる事・等數十條、末甚だ亂筆）

安永五年當社迂宮次第　寫　一冊　三一

栗田土滿著自筆、和袋綴共表紙　八寸三分五寸五分　五丁、題簽なし外題中央「安永五年申八月當社迂宮之次第」
奥書
安永五丙申秋八月　神主土滿
（安永五年七月朝日より八月十四日に到る平尾村廣幡八幡宮迂宮の記錄）

〔神拜行事〕　寫　一冊　三二
栗田土滿著自筆、和袋綴共表紙　八寸三分五寸七分　三十一丁（表紙共）
貼紙
（表紙　栗田運之進筆）右著明治元年辰十一月八日　辨事御役所江上候同月廿九日御呼出ニ而同晦日御所非藏人口御奥ニ而御書付一同御渡シ相成候
（土滿のつかへし廣幡八幡宮の神拜年中行事の記錄）

〔神拜行事〕　寫　一冊　三三
栗田土滿著自筆、和袋綴共表紙　八寸〇分五寸三分　三十二丁（表紙共中白紙一）
（前書と同內容）

栗田土滿詠草　寫　六冊　三四
栗田土滿著自筆、和袋綴表紙各間似合　八寸一分五寸五分
（一冊目自天明八年正月至寛政四年十月、二冊目自寛政四年十一月至同八年四月、三冊目自寛政八年五月至同十一年十二月、四冊目自寛政十二年正月至享和四年五月、五冊目自文化元年六月至文化四年十一月、六冊目自文化四年十二月至文化八年六月の詠草帖なり、天明八年より終焉の前に到る二十三年間、折にふれ作なるに從つて記載せしものにして、縣居門の歌人土滿の全貌を傳へたり）

縣居鈴屋兩翁添削岡廼舍詠草　寫　二冊　三五
栗田土滿著自筆　賀茂眞淵・本居宣長校、外題函上部中央書名同
（詠草以外に祝詞作文の添削或は紀記の疑問を質せし回答等も同函せり、眞淵宛と思はるゝ八通宣長宛と思はるゝ同じく八通、多くは半紙横折三四葉のものにして「土滿上」としたためあり）

伊藤氏老母追善詞序　寫　一冊　三六

栗田土滿著自筆、和袋綴表紙なし　八寸一分五寸三分　十丁
（天明六年伊藤氏老母一回忌知人追善歌集の序下書き、土滿が歌一首をも合せ記す、以上二丁以下は雜記なれども、中に栗田家家系に關する記錄あり）

〔明和七年雜記〕寫　一冊　三七
栗田土滿著自筆、和袋綴媚茶表紙　六寸六分四寸七分　七十五丁、題簽左肩白紙「明和庚寅禰生」
（讀書の際の拔書を主として諸事聞書、交友詠草交友住所錄等をも記す）

雜記　寫　十冊　三八
栗田土滿著自筆、裝幀雜多和袋綴多けれど半紙二つ折美濃判四つ折等種々
（內容も或は講筵聞書、讀書拔萃、備妄錄等あり　しばらく合せて雜記とす、土滿が私生活と學問的生活とを知る資料なるべし）

〔安永四年大和巡り〕寫　三冊　三九
栗田土滿著自筆、和袋綴一冊目黑茜表紙中本、二三冊目共表紙半紙本、題簽一冊目替題簽左肩白紙「やまとめくり上」二冊目題簽なし外題左肩「日記」三冊目同外題左肩「雜記」
（安永四年正月十五日門出京都大和を巡りて四月六日濱松着の紀行日記）

〔天明三年伊勢日記〕寫　一冊　四〇
栗田土滿著自筆、和袋綴　六寸五分四寸五分　五十丁
（天明三年五月十七日發松坂鈴屋にて講席にはべり六月二十一日歸着の紀行日記）

〔天明七年濱名行雜記〕寫　一冊　四一
栗田土滿著自筆、和袋綴　八寸一分五寸四分　十一丁
（天明七年三月濱名濱松方面に遊びし折の雜記）

〔寬政元年京都紀行〕寫　一冊　四二
栗田土滿著自筆、和袋綴四周單邊五寸三分三寸七分七行水色界紙　六寸一分四寸〇分　三十八丁
（寬政元年四月八日發六月四日かと思はるるに歸宅、上洛日記にして橋本經亮との交涉最も注目さる）

〔寬政二年日記斷片〕寫　一冊　四三
栗田土滿著自筆、半紙橫折綴　四寸二分一尺一寸二分　二丁

（表紙共）、題簽なし外題中央縱「寬政二年庚戌正月」
（表紙をのぞけば一丁の斷片にして、正月神社來訪者等を記す）

〔寬政四年三月神祭日記〕寫　一冊　四四
栗田土滿著自筆、和袋綴　八寸二分五寸四分　十丁（中白紙三）
（寬政四年三月廿七日より卅日にかけての祭祀次第、廣幡八幡宮の祭なるべし）

〔寬政十年伊勢日記〕寫　一冊　四五
栗田土滿著自筆、和袋綴水色表紙　六寸四分四寸五分　二十二丁（中白紙二）
（寬政十年三月五日門出伊勢松坂の宣長の講席に列し四月廿七日濱松泊り迄の日記、末は雜記に用ふ）

〔文化二年上洛日記〕寫　一冊　四六
栗田土滿著自筆、列帖經縮紬紙表紙　六寸三分四寸〇分　六十丁
（文化二年五月十九日門出上洛官位を受け、大阪堺大和より伊勢に出で七月十日歸路迄の日記、末は例の如く雜記）

さつきの日記　寫　一冊　四七
栗田土滿著自筆、和袋綴共表紙　八寸〇分五寸四分　二十四丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同
（文化二年「官位まうし」に五月十九日上洛大阪大和伊勢を巡りて七月十三日歸宅迄の紀行を雅文にてものせしもの）

文化二年乙丑上京一件　寫　一冊　四八
栗田土滿著自筆、和袋綴　八寸〇分五寸三分　七丁、題簽なし外題中央書名同
（文化二年六月京にて從五位下壹岐守を許されたる手續次第の記錄）

〔年次未詳上洛日記〕寫　一冊　四九
栗田土滿著自筆、和袋綴　五寸七分四寸〇分　六丁
（何年何月か不明なれど、京都に於ける九、十、十一、三日間の名所巡見日記）

〔年次未詳日記〕寫　一冊　五〇
栗田土滿著自筆、列帖青表紙　五寸四分三寸九分　百二十丁
（何れの年か不明なれど一年間の記、主として神事家事に就

きて）

〔神代紀葦牙資料〕 寫　一束　五一

栗田土滿著自筆

（日本書紀の詞句語句の註を紙片にしたゝめしを束ねたり葦牙作述の資料に用ひしと云ふ）

〔神代紀葦牙稿本〕 寫　一冊　五二

栗田土滿著自筆、和袋綴表紙なし　八寸〇分五寸五分　二十二丁

（前掲稿本より更に初めのものと思はる、素戔嗚尊の條りにして　上部貼紙訂正多し、前後欠）

內宮儀式帳 寫　一冊　五三

大中臣眞繼編　栗田土滿筆、和袋綴間似合表紙　九寸一分六寸三分　六十六丁（中白紙二）十二行、題簽なし外題左肩書名同

（群書類從所收皇太神宮儀式帳に同じ、異本と校合主として荒木田久老の說を書入る）

外宮儀式帳 寫　一冊　五四

大中臣眞繼編　栗田土滿筆、和袋綴間似合表紙　九寸一分六寸三分　四十九丁（中白紙一）十行、題簽なし外題左肩書名同

奥書

度會等由氣太神宮儀式帳者桓武天皇延曆二十三年春三月禰宜五日曆與大內人等共編次之神宮司眞繼臣勘署以進神祇官卽檢察焉同年秋八月內宮禰宜內人等亦撰太神宮儀式帳蓋各依　詔旨而備　天覽者也爾以來累　帝籙六十餘代經年所八百七十載是轉寫之訛謬不爲不多延經雖淺陋苟以不忍見之竊校正如此但自山口祭至高宮地鎭所須祭物及三祭供給之儲備共員數雖計會此條猶恐誤乎其餘有疑殆者闕以俟來者而已天和元年十月十一日　豐受宮權禰宜正五位下度會神主延經同年辛酉十二月廿五日　如太神社祠官紀朝臣

（群書類從所收止由氣宮儀式帳に同じ、上部に考案を加へたり）

外宮子良館祭奠式 寫　二卷二冊　五五

度會益弘著・栗田土滿筆、和袋綴間似合表紙　九寸一分六寸四分　八行、題簽左肩水色書名同、「柳園書室」「依平藏書」

（神宮年中行事大成後篇所收本に同じ、上部に考案を加へたる所あり）

〔荒木田氏系圖〕 寫　一枚　五六

栗田土滿筆、美濃半紙二枚つなぎ折、九寸二分二尺五寸四分

（天御中主尊より初めて荒木田姓をたまひたる神主最土迄の系圖）

本朝事始 寫　二卷一冊　五七

栗田土滿筆、和袋綴共表紙　九寸一分六寸二分　九丁（上四下五）、題簽なし外題左肩書名同

奥書

本朝事始二卷信西入道之家記也其書法專倣江平之二家尤袖珍之秘記也　建武二年乙亥下浣日

本朝事始二卷依梶井御門主之本傳寫焉尤有識之一助也　天正三年十月廿五日　從四位上中原師富

明和二年八月初旬於左京極四條坊門外市中借高孟彪之本寫之　源昌貞

（卷頭「葬給事法官信西撰」とあれど、夙く貝原益軒以來僞作と認めらる）

野宮宰相問答 寫　一冊　五八

野宮定基著　栗田土滿筆、和袋綴用紙薄藁　七寸七分五寸五分　二十八丁　十二行、題簽なし外題中央書名同

（野宮定基の有職問書の名を以て流布せる書の寫し）

職原抄支流畧書 寫　一冊　五九

栗田土滿筆、和袋綴共表紙　八寸二分五寸五分　二十七丁

（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同

奥書

右支流五卷用なき言を略きてあほかたに寫せり中に三ノ卷は知れたる事なれは大かた畧宮城禁外禁裏八省今ノ內裏等ノ圖五枚別紙に寫ぬ明和六うしの十月ほのくらきともし火の影にいといそかしくかかれは落文落字も多かるへしこれあらたむへきほとのものならねはさておきぬ

（天和三年刊本あり後刷も多き職原抄支流の拔書）

大嘗會次第記 寫　一冊　六〇

栗田土滿筆、和袋綴間似合表紙　八寸八分六寸三分　三十五丁、題簽なし外題左肩書名同

奥書

（次第記末）元文三戊午年十一月中旬

（御屏風和歌末）元文四年丙午正月下三日寫之

（貞享四年東山天皇大嘗會の次第記に、その折の御屏風和歌

を附す、元文三四年寫本よりの轉寫）

幣里神官慎終記 寫 一冊 六一

齋間信幸著 栗田土滿筆、和袋綴 九寸二分六寸五分 三十丁、題簽なし外題左肩書名同

奥書

明和六年己丑歳冬十二月 遠江磐田郡見附國府天神神官
菅原信幸

（信幸が祠官たる國府天神社に於ける神事の際の心得を漢文にて記し、更に敷衍説明せしもの、轉寫）

〔中臣壽詞附御元服祝詞、倭語釋傳正義畧〕 寫 一冊 六二

栗田土滿筆、和袋綴表紙なし 九寸二分六寸六分 五丁

（中臣壽詞には校合を加へあり、近衛天皇御元服祝詞他に倭語釋傳正義の拔書二丁を附す）

古事記歌 寫 一冊 六三

栗田土滿筆、和袋綴共表紙附表紙 九寸三分六寸四分 十六丁、原表紙題簽なし外題左肩書名同

奥書

すへてなにはの契仲の説なり荷田東万呂の説はすかはらの信幸の書入しをうつしつ

（古事記の歌百七首を摘出契沖東麻呂の説におくれて眞淵の説をも併せ書入 古事記諸註集成の感あり）

佛足石歌 寫 一冊 六四

文室眞人智努著 栗田土滿筆、和袋綴共表紙 八寸〇分五寸六分 五丁、題簽なし外題中央書名同

（表紙裏に碑の説明ありて歌詞のみ）

〔萬葉集佳調〕 寫 一冊 六五

栗田土滿筆、和袋綴 九寸七分六寸六分 二十五丁

（萬葉集中數十首を摘出平假名まじりに書下せり、秀歌を選びたるかと思はる）

和歌會式 寫 一冊 六六

栗田土滿筆、和袋綴共表紙 七寸八分五寸四分 十一丁、題簽なし外題中央書名同

奥書

右天明四年甲辰四月七日美濃人田中道麿の木を高林方朗寫し同五年小國の秀穂うつし同六年午の九月中山よし雄うつ

したるを文化六年十一月十日にうつす

（歌會の作法を述ぶ）

古今和歌集春の歌の下 寫 一冊 六七

栗田土滿筆、和袋綴 八寸三分五寸五分 十一丁、題簽なし外題中央「古今歌集春の哥の下」内題「古今倭歌集卷二」

（古今集卷二の寫し）

百人一首古説 寫 一冊 六八

栗田土滿筆、和袋綴 九寸五分六寸六分 二十七丁、題簽なし外題左肩「百人一首」

（百人一首各歌に註釋事項を細字もて一面に書入たり、先人の説によるなるべく、百人一首解の一準備と思はる、栗田眞年の古翁書入百人一首古説と墨書せし袋に入れり）

篋繻輪 寫 一冊 六九

田中千梅編 栗田土滿筆、和袋綴共表紙 八寸二分五寸七分四十九丁、題簽なし外題左肩書名同

（寶暦二年刊本よりの轉寫なるべし）

伊勢物語 寫 二卷二冊 七〇

栗田土滿筆、和袋綴改裝 九寸二分六寸五分、題簽なし外題左肩「いせ物かたり」内題「いせものかたり」

（さしたる異本とも認めず書入本用に寫せしものか）

紫家七論 寫 一冊 七一

安藤爲章著 栗田土滿筆、和袋綴 九寸二分六寸一分 三十丁、題簽なし外題左肩書名同

葛花 寫 二卷一冊 七二

木居宣長著 栗田土滿筆、和袋綴 九寸一分六寸二分、五十九丁（上二十七下三十二）、題簽なし外題左肩書名同 内題「くすばな」

奥書

天明六年丙午十一月廿日書寫畢

（安永九年成り當時未刊の同書の轉寫）

麻賀能比禮 寫 一冊 七三

市川鳴鶴（匡）著 栗田土滿筆、和袋綴 九寸一分六寸二分二十五丁、題簽なし外題左肩書名同

奥書

天明六年丙午十一月十日寫畢

（末賀能比連の寫し、當時未だ刊本はなかりき）

玉くしげ　寫　二卷一冊　七四

本居宣長著　栗田土滿筆、和袋綴　九寸〇分六寸三分　六十八丁、題簽なし外題右肩「玉くし氣寸」

奥書

寛政七年七月二十九日寫畢

（天明七年成同書の寫し）

〔古事記傳抜書〕　寫　一冊　七五

本居宣長著　栗田土滿筆、和袋綴青表紙　九寸二分六寸三分　百六丁

奥書、

寛政十年午三月十六日ヨリ四月廿日マデ古事記傳廿四卷ヨリ四十三卷マテ鈴屋大人ノ元本松坂旅宿ニテ一覽書抜畢

土万呂

（註のみ、刊行以前の事にかゝる）

鈴の屋集近調の部はし書ある哥ども　寫　一冊　七六

本居宣長著　栗田土滿筆、和袋綴　八寸一分五寸四分　十七丁、題簽なし外題中央書名同

〔古事記傳版下書反古〕　寫　一束　七七

本居宣長著　栗田土滿筆、墨書反古八枚原稿用紙古事記傳九枚神代紀葦牙二十二枚下敷用紙十三枚を紙袋に收む

識語

（袋表）本居翁遺跡古事記傳版下認用紙翁の依賴を受け岡の舍記傳廿貳の卷の版下を認めし事ありき　又土滿自著葦牙の版下紙もあり（栗田眞年筆）

（古事記傳現行本の其の條に比するにやゝ少字なり）

上古男女髻辨・國歌八論　寫　一冊　七八

國つち考・國歌剩言

栗田土滿筆、和袋綴　九寸一分六寸二分　四十六丁、題簽なし外題中央三行に「上古男女髻辨」「國歌八論國つち考」「國歌剩言」

（某氏上古男女髻辨　在滿國歌八論　眞淵國つち考　田安宗武國歌剩言の寫本）

〔菅原信幸母八十賀歌〕　寫　一冊　七九

栗田土滿筆、和袋綴共表紙　八寸一分五寸六分　七丁、題簽

なし外題中央「賀の哥」

（彼の友齋間信幸の母八十賀屏風の歌の寫）

續日本紀宣命　寫　一冊　八〇

日本逸史抜書

栗田土滿筆、和袋綴　九寸三分六寸五分　七十二丁（中宣命四十三）　十一行、題簽中央間似合紙書名同　内題は各卷頭「續日本紀宣命」「日本逸史抜書　自延曆十年至天長十年」

（宣命は五十九を數へ　鴨祐之が逸史にあつては内題に示す年間の抜萃）

新刻古今疑問　寫　一冊　八一

田中道麿著　栗田土滿筆、和袋綴共表紙　五寸四分七寸〇分七丁（表紙共）、題簽なし外題中央「新刻古今疑問道麿」

（蚊田某の校刊本古今集に對して疑問反駁を揭げたるものの轉寫、附箋多し）

道万呂隨筆に對ていふ　寫　一冊　八二

栗田土滿著自筆、和袋綴表紙なし　五寸四分七寸〇分　五丁

（道丸隨筆—萬葉學叢書第一編所收—各條に對する土滿の考を述べしもの）

〔中臣祓氣吹抄抜書〕　寫　一冊　八三

多田利見（義俊）著　植松次親編　栗田土滿筆、和袋綴　八寸四分五寸五分　十丁

奥書

明和なゝとせかのえとらのはつきはかり多田利見か氣吹抄ところ〳〵書つ猶いまたしとおほゆることあれと後のかうかへのため也

（多田南嶺が氣吹抄の抜書）

〔麥搗うた〕　寫　一冊　八四

栗田土滿筆　和袋綴表紙なし　八寸二分五寸八分　三丁

（麥搗うた、奥州田植うた、苗取以下民謠八つを收む）

やすらひ花の歌　寫　一冊　八五

栗田土滿筆、和袋綴表紙なし　九寸五分六寸六分　二丁

奥書

是は南都やすらひ花の祭のうた（二字不明）の筆して西京ありしをある人寫したる也南都此祭今も有やなきや

〔俊明・枝直文集〕 寫 一冊 八六

栗田土滿編同筆、和袋綴共表紙 八寸二分五寸五分 十三丁
（表紙に墨「安永未六月うつす」山岡俊明加藤枝直の文各二三と末に諸家の詠草を收む）

民部省圖帳 寫 一冊 八七

栗田土滿筆、和袋綴 九寸七分六寸八分 二十一丁、題簽なし外題左肩「民部省圖帳」と大きく以下左傍二行に割り「尾張薩河攝津備中備前美作因幡筑前」
奥書
文化八年辛未四月駿河國之國府惣社神主家之本ヲ以而寫之
土萬侶
（外題に見ゆる國郡の全部或は一部の民部省圖帳の寫、元享二年民部省史生源忠勝奏行宗の手を經或は今一度の轉寫あつて貞享五年に寫せしものよりのうつし）

東國式内大社拜神帳 寫 一冊 八八

〔若宮美津吉〕著 栗田土滿筆、和袋綴 八寸一分五寸四分十四丁、題簽なし表紙中央三行に「美濃國郡上長瀧村白山權現神主若宮美津吉 東國式内大社拜神帳」寛政五年丑三月十六日寫之」
（東國式内著名神社に所在地由來を註記せり）

〔繁子道行振の歌〕 寫 一冊 八九

栗田土滿筆、和袋綴半紙横折表紙なし 一尺三寸五分五寸一分 二丁
（末に「繁子の道行ふりの哥也」と、繁子未詳）

おもひのまゝの日記 寫 一冊 九〇

二條良基著 栗田土滿筆、和袋綴 八寸二分五寸四分 二十三丁、題簽なし外題左肩書名同
（群書類從四百八十九所收、少しく語の出入あり）

〔祝詞集〕 寫 一冊 九一

栗田土滿・賀茂眞淵著 土滿筆、和袋綴 九寸五分六寸七分 三十丁
（土滿の八月十四日・正月朔日・毎月朔日十五日の三祝詞とそれの淨寫、廣幡八幡宮神輿奉迎祝詞・同社下馬場乃理刀期登・同社總馬場祝詞・同社八月十五日雨天ニテ出御無之時御門ニテ奉拜時ノ祝詞・月並の祝詞を淨寫せしを眞淵の濱松五社遷官祝詞三と合す）

〔朗詠今樣譜〕 寫 一冊 九二

栗田土滿筆、和袋綴表紙なし 八寸一分五寸四分 三丁
（朗詠今樣の斷片に譜をほどこせしもの）

〔日本靈異記拔書〕 寫 一冊 九三

栗田土滿筆、半紙横折綴 五寸二分一尺三寸六分 二丁
（景戒の日本靈異記中卷第廿五「閻羅王使鬼受召人之靈而報恩」の條摘出、本文校正訓を附す）

〔寛政二年新嘗祭新内裏遷幸行列〕 寫 二卷二冊 九四

和袋綴共表紙 六寸八分二寸四分、題簽なし外題中央「新内裏遷幸行列」
（寛政二年十一月廿一日御行列次第順序を記す）

〔寛政二年新内裏遷幸行列〕 寫 一冊 九五

和袋綴共表紙 六寸五分二寸九分 四十五丁（表紙共）、題簽なし外題中央二行に「寛政二年庚戌十一月廿二日新内裏遷幸行列」
（天明八年京都大火後松平定信總理の内裏造營完成この日聖護院假皇居より還幸御行列順序）

内侍所渡御行列 寫 一冊 九六

和袋綴共表紙 六寸九分二寸四分 七丁（表紙共白紙二）、題簽なし外題中央二行に「廿二日夜 内侍所渡御行列」
（寛政二年十一月廿二日夜かと思はるる御行列順序の記）

〔寛政二年仙洞新殿御幸行列〕 寫 一冊 九七

〔五鳥吉雄〕筆、和袋綴共表紙 六寸八分二寸四分 二十四丁（中白紙四表紙共）、題簽なし外題中央三行に「寛政二年仙洞新殿御幸行列 十一月廿六日」
奥書
（裏表紙）霜ふり月旅宿にて寫しつゝよし乎
（御行列順序）

〔寛政三年新嘗祭中院行幸行列〕 寫 一冊 九八

和袋綴共表紙 六寸八分二寸四分 七丁（表紙共）、題簽なし外題中央四行に「寛政三年辛亥十一月二十日卯ニ御再興 新嘗行列」

祭中院行幸行列　大膳大進　久視　大膳少進　小野久明」
（同年十一月二十日御行列順序　久視久明は係なるべし）

〔天明七年大嘗大祀之由被告於三社奉幣宣命〕 寫　一冊　九九

橋本經亮筆、和袋綴共表紙　六寸七分四寸八分　四丁（表紙共）、題簽なし外題左肩三行に「天明七年十一月五日　大嘗大祀之由被告於三社奉幣宣命」
奥書
天明七年十一月寫之　橋經亮
（同年十一月廿七日光格天皇大嘗會の三社御奉告の宣命の寫、經亮の土滿に送りしなるべし）

天明七年十一月踐祚大嘗會悠紀主基風俗歌以下御屏風歌幷御棒頭本文御屏風本文 寫　一冊　一〇〇

橋本經亮筆、和袋綴共表紙　四寸八分六寸七分　十七丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同
奥書
天明七年十一月寫之　經亮
（同年同月光格天皇大嘗祭の折のもの上滿に送られしものなるべし）

天明七年大嘗大祀（卯日辰日巳日豐明）**等次第** 寫　一冊　一〇一

（橋本經亮）筆、和袋綴　四寸八分六寸八分　二十一丁（表紙共）、題簽なし外題書名同
（同じく土滿におくりしものなるべし）

天明九年正月廿四日和歌御會始歌 寫　一冊　一〇二

（橋本經亮）筆、半紙横折表紙なし　四寸九分一尺三寸二分五丁、題簽なし
（土滿に送りしものか）

堂上地下雪月花歌合 寫　一冊　一〇三

和袋綴　七寸八分五寸三分　十七丁、題簽なし外題「（堂上地下）雪月花歌合」（判者大愚）
（享和二年慈廷—大愚—を判者とし廣幡大納言儀せし堂上地下歌合の詠草判詞と、爲におこりし問題一件書類の寫）

傳來聞書 寫　一冊　一〇四

和袋綴表紙なし　八寸三分五寸六分　四丁
（横須賀七人衆の傳記逸話）

賀のうた十二月繪題 寫　一冊　一〇五

和袋綴　八寸一分五寸六分　五丁（表紙共）、題簽なし外題中央書名同
（時は不明なれど土滿等が賀十二ヶ月屏風歌なりその他も數首）

負文龜奏議 寫　一冊　一〇六

柴野栗山・五條爲德著　櫻井繁筆、和袋綴　八寸一分五寸七分　六丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同
奥書
土滿老師　繁
（負文龜に關する栗山爲德の問答、櫻井繁の師に書寫し送りしもの）

御神樂 寫　一冊　一〇七

櫻井繁筆、和袋綴　八寸一分五寸七分　十三丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同
奥書
原木あやしくして不詳おそらくは誤字多かるべし　櫻井繁
丘屋翁大人
（神樂目錄・內侍所御神樂略次第・梁塵愚案抄拔書・當代神樂出仕之家・地下當時參勤之人々ありて末に「安永己亥冬十月」とある書を繁、師土滿のために書寫したるもの）

〔上田百樹答書〕 寫　一冊　一〇八

上田百樹著自筆、和袋綴表紙なし單邊十行界紙　八寸一分五寸七分　二丁
奥書
文化五年九月廿三日　百々幾　栗田君
（日本書紀中の土滿の疑問に對せし答、欄外に「一體ノ訓ノコトハ近頃當方ニテモ訓付居候ヘハ此度ハ申上ズ候校合古訓神代紀ヲ出板仕候樣そんし候已上」など見ゆ）

疑問 寫　一冊　一〇九

和袋綴共表紙　八寸一分五寸五分　九丁、題簽なし外題中央書名同
（古鈴禁脈に關せる問答なれど何人の手になるや不明）

袖の言の葉　寫　一冊　一一〇

和袋綴　八寸六分五寸六分　二十六丁、題簽なし外題左肩書名同

（富士山麓の旅の日記、何れの年か不明、土滿の手にはあらず、子孫の某のものなるべし）

五雜組拔萃　寫　一冊　一一一

和袋綴四周單邊六寸二分四寸一分十行裏葉色界紙　八寸七分五寸九分　十二丁、題簽なし外題中央書名同

蝦夷話　寫　一冊　一一二

和袋綴表紙なし　八寸〇分五寸六分　五丁

（箱館歸りの人より蝦夷風俗の聞書二三條）

赤蝦夷風說考　寫　一冊　一一三

工藤平助著、和袋綴　八寸〇分五寸六分　二十四丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同

（ヲロシヤ人來寇風說かきとめ）

三國通覽　寫　一冊　一一四

林子平著、和袋綴　八寸二分五寸五分　六十二丁　畫十五枚、題簽なし外題左肩書名同

奥書

文化五辰年三月寫之

（天明六年須原屋市兵衛板本よりのうつし）

今川狀　寫　一冊　一一五

和袋綴　八寸〇分五寸二分　六丁（表紙共）、題簽なし外題中央「今川狀栗田龜吉」

紅毛文字覺書　寫　一冊　一一六

平尾某筆、和袋綴　八寸二分五寸七分　七丁（表紙共）、題簽なし表紙中央三行に「明和八年冬　紅毛文字覺書　平尾」

（オランダ字母、數字に若干の漢字にオランダ訓を片假名にて附せり）

十二朝（軍談）書拔　寫　一冊　一一七

和袋綴　九寸四分六寸六分　十二丁（表紙共）、題簽なし外題中央「十二朝書拔」

（刊本通俗十二朝軍談の拔書）

〔書家大略〕　寫　一冊　一一八

和袋綴表紙なし八行四周雙邊界紙　八寸八分六寸六分　五丁

（小篆・八分・隸書以下書の各體を諸家の說により說明せり、何れの書より轉か不明、末に『右言書家大略云々』とあり假に題す）

おひつきの考　寫　三冊　一一九

〔本居宣長〕著自筆、和袋綴表紙なし、八寸八分六寸四分

（各數葉、內容は古事記に關せるもの、一は八尺勾璁二は千引石擊三手末　以下四條三は高千穗峯に就きての考證）

姓氏錄目錄　寫　一冊　一二〇

本居宣長著、和袋綴　九寸三分六寸七分　十一丁

奥書

寶曆十二年壬午後四月十六日　清舜庵宣長

酒之古名區志考　寫　一冊　一二一

荒木田久老著　大江千穎筆、和袋綴　九寸四分六寸六分　十六丁（表紙共）、題簽なし外題中央「酒の古名考」、「大江千穎藏」

野荒問答　寫　一冊　一二二

野宮定基・新井白石著、和袋綴共表紙　九寸二分六寸三分　二十一丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同

奥書

（野荒問答末）安永十年暮春上旬令書寫　速水房常相尹

同暮春勸番隊書寫畢　經亮

（樋口氏雜說末）右者樋口氏雜說之中鈔出之畢　速水房常

樋口主水者僧契仲門人也好學万葉集居住六波羅　大禁勉亭

（世に云ふ新野問答に樋口宗武の雜說を抄出合綴せり）

四十五番歌合　寫　一冊　一二三

赤堀たゝ廣筆、和袋綴共表紙　九寸一分六寸八分　二十三丁

題簽なし外題中央書名同

奥書

文化八年二月　あかほり多々廣うつす

（高園定基・木間清行・木野嶺滿・栗田美元と云ふ人々の歌合）

五十四番歌合　寫　一冊　一二四

本居大平編、和袋綴共表紙　九寸二分六寸五分　十七丁（表紙共）、題簽なし外題中央書名同
（寛政七年卯六月廿日稲掛大平が判せし歌合）

纂集玉篇偏傍形似釋疑文字　寫　一冊　一二五

和袋綴表紙なし　九寸五分六寸七分　十六丁（中白紙一）

服假令鈔（天和改正）　寫　一冊　一二六

和袋綴　九寸四分六寸八分　十五丁、題簽なし外題左肩「服假令鈔（天和改正）」

〔竹村茂雄父六十賀歌集〕　寫　一冊　一二七

文化三年十一月朔日いせ人本居大平序　文化の三とせといふとしの父の御いのち長月の六日の日かきしるしたるは竹村におひいてたる子の茂雄歟、和袋綴共表紙　九寸二分六寸一分　十二丁（表紙共）
（出歌者には濱臣千蔭躬弦季鷹千楯土萬侶春庭等各地國學者多し）

つぼのいしぶみ　寫　闕一冊　一二八

和袋綴薄青表紙　九寸〇分六寸一分　三十九丁（中白紙一）、題簽左肩短冊紙書名同
奥書
　文政のとゝせといふとしいぬやよひうつす
（下卷のみ、奥羽紀行なり）

〔多賀城碑〕　寫　一冊　一二九

和袋綴　九寸四分六寸〇分　十一丁
（碑文を籠文字にうつし出せしもの、刊本よりの轉寫なるべし）

葬送記　寫　一冊　一三〇

和袋綴共表紙四周單邊五寸三分三寸八分七行水色界紙　六寸一分四寸〇分　十丁（表紙共）
奥書
　右葬送之記殘簡者天武之聖朝改天下之法式定二拾階一之時、定法也實可下傳二後世一珍重上之書也因書二寫之一云　永長二年七月廿六日　萬壽允常在判
　享保十年乙巳三月請求高橋子敬之珍藏書寫訖

芳州先生覽此書云嘗聞攝州幾田社有此書之殘簡二卷今所寫之者恐亦出於彼社者乎　享保十九龍集甲寅校正畢墨附七葉松下翁行練。
　右一冊將軍家扈從隊士日下部勝美之本備用令書寫訖　天明七丁未歲八月　梅宮正繩宜正五位下橘經亮
（卷第一のみ、葬式の作法を階位毎に述ぶ）

〔古器圖說〕　寫　一冊　一三一

和袋綴　九寸四分六寸九分　四十六丁
（鳥帽子・武器・古鈴・古鏡・其他各種古器具の圖示と說明、諸書より拔書せしものなり）

近代宣命拔粹　寫　一冊　一三二

（橘本經亮）筆、和袋綴共表紙　九寸五分六寸七分　六丁、題簽なし外題左肩書名同
（安永九年十一月廿三日、大治二年九月十四日石清水臨筥損之時等の宣命十數を收む）

造菓子圖　寫　一冊　一三三

和袋綴共表紙　四寸九分六寸九分　六丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同
（古式の菓子の形を圖示す）

狩衣抄　寫　一冊　一三四

栗田宣秋筆、和袋綴共表紙　四寸七分六寸七分　十一丁、題簽なし外題左肩「狩衣抄（裝束之事）」
奥書
　本云以陽明本書寫畢應永己卯曆應鐘三五天以公務隊任木馳筆者也　鶏首左大丞藤原判
　應永卅年南呂吾借請一位大納言藤宣卿自筆寫本課命管城毛錐子掃鴉虬了于時清風颯々頻挑一點之殘燈秋夜沉々既徙三三更和歸焉　鳳城官藤原判
　康正二年浩渚念五日借請前内槐時房公自筆本以他筆書寫畢始右奥書者祖父入道故御抄也正本撰失之間重紅寫置也三春奥漸百菓香已撫矣　諫議蘭臺藤原判
　此一冊御家門御本校合之序卽時令書寫之依爲早筆無正躰重而得寡暇之節可校合者也元錄四辛未天初冬初九匠作少尹判
　右一冊者以或人之祕藏本寫之于時寛政七年六月下旬　大膳少進小野朝臣久明
　右一冊者小野朝臣之本乞得而書寫之文化元年甲子四月下旬　源重年
　右一冊者先年重年翁之本乞得而文政七年後ノ八月上旬寫し

ぬ藤原宣秋
（狩衣の種類　重の色の考證）

寛政三亥年新嘗祭次第

寫　一冊　一三五

小國重年筆、和袋綴共表紙　四寸八分六寸九分　十一丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同
奥書
享和三年亥十二月　大膳職大膳大進小野朝臣久明以本寫之
源重年

〔寛政三年大殿祭次第〕

寫　一冊　一三六

和袋綴共表紙　四寸九分六寸八分　七丁、表紙に六行に「寛政三年十一月廿日大殿祭神饌行立神饌供進西舍座饗次第大膳職久視」
（同年同月日大殿祭諸行事の次第の記）

〔祝詞集〕

寫　六枚　一三七

紙形各様
（土滿及び其子孫のと思はるもの内容も亦各様なり）

畧祓次第覺

寫　一通　一三八

卷紙　五寸一分一尺八寸五分
（祓に於ける神前の次第書）

〔駿河國蜂ケ谷村若宮八幡宮棟札書〕

寫　一枚　一三九

八寸八分一尺一寸九分
（永享十二庚申上葺以下十四回の修覆造營の際の棟札の寫）

記錄之覺

寫　一通　一四〇

栗田運之進著自筆、卷紙　五寸三分二尺九寸四分
（栗田家の由緒書にして卷頭裏に「嘉永元年四月朔日紀州樣江差上候招」とあり）

記錄之覺

寫　一通　一四一

栗田運之進著自筆、卷紙　五寸九分二尺八寸八分
（前記に同、卷頭裏に「嘉永元年三月十七日寺社御奉行木々中務大輔殿江差上御役人原田彌右衛門樣江應對同人御受取ニ相成候招此外願書共四通」と）

記錄之覺

寫　一通　一四二

栗田運之進著自筆、卷紙　五寸二分一尺八寸一分
（前記に同、初め裏に「嘉永元年三月十七日御奉行所江差上候寫し招」と）

奉願口上書

寫　一通　一四三

栗田運之進著自筆、奉書卷紙　六寸〇分四尺一寸二分
（末に「嘉永元申年四月遠州平尾八幡宮神主栗田運之進　御屋形樣御役人中樣」と、久しく中絶のまゝなりし平尾廣幡八幡宮を德川家祈願所として再認ありたしとの口上書のひかへ）

奉願口上之覺

寫　一通　一四四

栗田運之進著自筆、奉書卷紙　六寸〇分四尺三寸五分
（前記に同、卷頭裏に「此願書并大須賀五郎左衛門殿御證文寫シ一通右文書寫シ一通武藤萬休殿書付一通記錄書寫シ一通合テ五通　嘉永元年三月御月番御奉行本多中務大輔殿江願候處御役人原田彌右衛門殿ト云人應對十七日書面受取同月廿二日呼出シニ付出候處矢張同人應對其上御證文所江罷出御調役戸田嘉十郎殿被申渡候ハ奉行所ニテ間置候ト云フ容易ナラサルフニ付相對ニテ掛合可申旨被申渡書面五通共差戻ニ相成候」とあり）

〔栗田家由緒書〕

寫　一通　一四五

栗田宣秋著自筆、奉書卷紙　五寸九分四尺六寸〇分
（八代土滿迄に至る、末に「右之通リ代々男子相續仕候以上栗田主膳」とあり主膳は宣秋にして九代、その次細字「文政之度故障之節（數字虫浸）庄屋役相勤候段申立候何之度之頃之事と御章御座候間此書付差出し庄屋役相勤候爲無候段申候養老ゟ連綿として被居候哉と被申候間左樣と申候へば寺社役敷田源之丞殿名譽之家と被申候書付型日被戻候節也」と）

〔和歌選集計畫書〕

寫　一冊　一四六

大和綴共表紙　四寸七分六寸五分　九丁（中白紙三）
（末に「右ノ如クニテ古風ヲ一首ヅツ載一集撰タキ存念ニ御座候縣居御門人方御僉議可被下候て古風ハ書置可被下候今少シ大名ナトニモ可有之候（下略）」とあり、本居大平八十浦玉編の際土滿に送り助力を乞ひしものか）

〔五十番歌合判詞〕

寫　一冊　一四七

栗田土滿筆、半紙横折綴　四寸六分一尺二寸四分　三丁

〔新古今集拔書〕寫 一冊 一四八

栗田土滿筆、半紙横折綴 四寸五分一尺一寸四分 四丁

（他の歌集よりの摘出をも混じたれど、多きに從ひ假に題す語學研究上の資料として拔くか、所々傍線あり）

問答のことば 寫 一冊 一四九

栗田土滿筆、美濃判薄葉横折綴 六寸〇分一尺六寸六分 二丁

（一向宗信者の問に古神道の論もて答へしもの）

〔土滿母歌集序〕寫 一冊 一五〇

栗田土滿著自筆、和袋綴表紙なし 八寸一分五寸三分 三丁

（初めに題して「母のみつからよみ玉ひし哥ともをつぶ〳〵と書つけ玉ひたりしをのちに見侍りてそのはしに書つけたることは 土万呂」）

〔國學雜記〕寫 一冊 一五一

和袋綴表紙なし 九寸〇分五寸七分 二丁

（神國・神道・日本などに就きての略說）

本居先生著述目錄 一枚 一五二

九寸三分一尺二寸九分

（伊勢松坂書林柏屋兵助藏の本居先生著述目錄に、土滿朱にて代價を書入あり）

〔菅原信幸著述序草稿〕寫 一冊 一五三

栗田土滿著自筆、和袋綴表紙なし 八寸一分五寸三分 二丁

（信幸が後撰集より新古今集迄の歌を選び一著述をなすと云ふに對し送りし序、末に「安永八年八月廿五日土万呂いふ」）

縣居鈴屋兩翁書翰 寫 一函 一五四

（兩翁に土滿問を書して出し、各返事を書込みて送りかへされたる十通と、古事記傳完成にあたり門人の詠草を集めんとして 探題古事記による八題を包みし一通を同函す）

〔平尾八幡再建補助願〕寫 一冊 一五五

栗田宣秋著自筆、卷紙 五寸〇分三尺一寸一分

（初め「以書付を奉願上候 遠江國城東郡平尾八幡宮神主栗田主膳」と、同八幡宮の由來を述べ、再建概容とその計畫を述べ補助金を乞ふ願の下書）

岡部翁十七會忌歌會歌題 寫 一通 一五六

卷紙 五寸一分一尺四寸一分

（初め「岡部翁十七會忌天明五十月晦日なれと前方に務八月十八日手向會」として、當日の兼題月と探題かと思はれる數題の下にそれにあたりし人名をしるす、土万呂・秀穗・方朗・春栖等）

〔淺間山噴火被害狀況〕寫 一通 一五七

卷紙 五寸三分二尺四寸〇分

（未に「天明三癸卯十月八日寫之」と、天明三年三月七日の噴火の際なるべし）

〔鈴屋翁七周忌追善和歌〕寫 一通 一五八

薄納戸鼠卷紙 五寸五分二尺三寸三分

（兼題對菊惜秋の諸家詠草、前波默軒・橋本稻彥等十三首）

平田大人竝門人著述書入費目錄 一枚 一五九

九寸四分一尺三寸五分

刊記

皇京麩屋町通御池下ル 池村久兵衛願 東京小傳馬町三丁目新道 吉岡十次郎配

（未六月改とある本屋が配りたる定價つけ目錄）

〔肥後國岩戸山出土品圖〕寫 一枚 一六〇

九寸七分一尺三寸五分

（天明二年壬寅四月八日肥後國岩戸山靈巖洞の巓より出でし壺一人形一の圖と說明）

德川將軍家五十御賀和歌 寫 一枚 一六一

一尺四分一尺四寸二分

（芝山持豐風早公雄冷泉爲泰の堂上家諸卿詠草、天明六年家治五十の賀なるべし）

〔土滿祖父五十年祭祝詞〕寫 一枚 一六二

栗田土滿著自筆、一尺五分一尺三寸七分

（元文六年歿祖父重信五十年祭を寛政二年行ふ際のもの）

日置流弓假目錄　寫　二通　一六三

（日置流弓許狀ケ條書　假目錄　栗田求馬殿參とせし包紙の中に收む、一は「日置流弓許之條々」として　末に「上村幽意（花押）安永二年巳九月吉日　栗田求馬殿參」他は「就御弓御指南之條々」として「栗田民部樣　五反左野右エ門」とあり、求馬民部共に土滿の通稱なり）

栗田土滿書簡集　九通　一六四

（三月十二日栗田主膳宛（壹岐守）・八月二日主膳宛（壹岐守）・五月十八日夜主膳宛（壹岐守）・六月十八日龜吉幾之進宛（壹岐守）・五月廿二日主膳宛（栗田求馬）・十月廿八日田中金右エ門宛（栗田民部）・六月五日龜吉幾之進宛（民部）・卯月七日主膳宛（壹岐守）・十月二日山田造酒宛（中山將監吉埴・栗田民部土滿　吉植筆）

栗田土滿來簡集　百六十八通　一六五

稲掛大平	二六	木居宣長	七
木居春庭	二	賀茂眞淵	二
蓬萊雅樂氣形	一六	青木寸賀ね	八
齋藤主膳	二	橋本經亮	七
小篠敏	七	内山眞龍（眞立）	二
宇治五十槻（荒木田久老）	五	竹村平右衛門茂雄	四
河南儀兵衛	四	菊池武敦	四
青木茂房	二	栗田嘉七	二
鈴木仙藏	三	青柳種信	二
糟谷大輔	七	高山重藏	二
綿屋彌兵衛	二	森六兵衛	二
加藤千蔭	二	夏目甕麻呂	二
左中ゝ（カ）	二	和泉眞國	二
市川善輔	一	石塚龍麻呂	一
石川依平	一	石坂	一
上田百樹	二	小國秀穗	一
大館高門	一	桿取魚彦	一
和田作大夫邦孝	二	秀き	一
名嶋政守	一	内藤兵庫	一
糟屋磯丸（貞良）	一	上村幽意	一
加藤宇万伎	一	秀世	一
清さだ	一	栗田幸八	一
栗田郎儀（カ）	一	近藤春彦	一
齋間信幸	一	齋藤石近	一
齋藤監物	一	忍縫殿之介	一

鈴木彈正	一	田中大秀	一
高林舍人方朗	一	田丸屋重助	一
竹村尙規	一	土岐因輔	一
土岐建雄	一	直樹	一
橋本稻彥	一	伴州五郎（信友）	一
羽倉民子	一	帆足下總	一
三橋藤右衛門	一	みち秋	一
有能天	一	渡邊堅磐	一

諸家書簡集　五十三通　一六六

（土滿以外に宛てしもの指出人不明のもの等を總括す）

竹川左兵衛宛		栗田主膳	三通
栗田左兵衛宛		栗田主膳	二通
栗田信安宛		栗田重信	一通
栗田主膳宛		本居三四右衛	一通
お里津さま宛		加茂眞淵	一通
石川樣宛		河南（儀兵衛）	一通
八幡宮神主宛		安西源兵衛	一通
栗田右近宛		栗田治左衛門	一通
栗田佐兵衛宛		栗田利兵衛	一通
栗田加平太宛		小島四郎兵衛 向坂兵衛	一通
竹十郎宛		萬休	一通
本居先生宛		木國造	一通
栗田宣秋宛		小國重年	一通
（立原翠軒識語ヲ附シテ橋本經亮ニ送リシモノ）		伴香竹	一通
文通先生		溯田景福	一通
賀茂眞淵宛		霜村	一通
花嶋文藏宛		岡田三郎兵衛	一通
宛名差出人明記なき書簡			三十二通

諸家詠草　寫　三十六枚　一六七

（來信もあり轉寫もあり、和歌もあり俳諧もあれど、詩歌を重とせし斷片を集めて假に云ふ、中に荒木田尙賢・帆足下總眞月法師・石川依平・近藤春彥・上野俊香・戸田忠雄等のもあり、諸家の詠を集めて土滿の寫せしもあり或は土滿自身の稿もあるべし）

土滿文反古　一束　一六八

（内容各種の斷片、諸家來信包紙等を一束す、手又まち〳〵なり）

宣長翁殘芳　一函

（木居宣長自筆稿本類と大平關係若干を同函して假に題す、函中央題字は紫影藤井乙男筆）

古事記傳三之卷　寫　一冊　一六九

木居宣長著自筆、和袋綴共表紙　九寸〇分六寸二分　四十三丁、題簽なし外遺左肩「古事記傳　三」、「須受能屋藏書」

奥書

明和四年丁亥五月九日謹考穴可長　本居宣長（花押）

（古事記傳卷三の草稿にして刊本と比較するに內容相違なけれど措辭、意見に可成りの程遥を認む、又所々改訂の跡あり）

安波禮辨　紫文譯解　寫　一冊　一七〇

木居宣長著自筆、和袋綴三周單邊一邊雙六寸五分四寸八分十行界紙　九寸三分六寸六分　十丁（安三紫三白紙四）、題簽なし外題左肩書名同、「本居藏書」

（前はあはれの用例を古典に求め、後は源氏物語用語若干の考、源語研究の初期に屬すもの、藤井乙男「鈴屋遺響」—日本文化第十六號—參照）

莊子摘腴・列子拔萃　荀子摘萃・老子・雜抄　寫　一冊　一七一

木居宣長編自筆、和袋綴三周單邊一邊雙六寸四分四寸三分十行界紙　八寸二分五寸七分　九十三丁、題簽なし外題中央三列にならぶ書名同、「本居藏書」

奥書

（表紙裏）寶曆六年丙子三月二十二日始

（莊子）（初）乙亥季秋　（末）寶曆六年二月廿一日莊子會讀畢同月廿七日拔書畢

（列子）（初）丙子季春本居宣長識　（末）寶曆六年丙子十一月十二日列子會業卒焉十三日拔萃畢勢州後家舜庵本居宣長書于平安寓居

（荀子）（末）右荀子全篇以寶曆六年丙子三月二十二日始會業同七年丁丑五月十四日卒業及拔萃畢矣　清（後に消）舜庵

（莊、列、荀、老の拔萃、ただし老子は「老子林希逸註本居宣長識」とのみにて白紙五丁、雜抄は淮南子、揚子法言孔子家語、遊仙窟、本艸綱目、一本堂藥選、秉燭談、南嶺子等より摘出）

紀平重盛切（諫）父淨海事　寫　一冊　一七二

木居宣長著自筆、和袋綴表紙なし四周單邊十行罫紙　八寸一分五寸四分　五丁、「本居藏書」

（平家物語重盛諫言の條の漢澤、朱筆添削は堀景山か、本居宣長全集第九所收、「鈴屋遺響」參照）

嶺松院會和歌序　寫　一冊　一七三

木居宣長著自筆、和袋綴表紙なし四周雙邊界紙　七寸七分五寸三分　三丁、「本居藏書」

（松坂嶺松院月次歌會の序、「鈴屋遺響」參照）

梅櫻草の庵の花すまひ　寫　一冊　一七四

木居宣長著自筆、和袋綴共表紙　八寸二分五寸八分　十五丁

題簽なし外題左肩書名同、「本居藏書」

（外題下に「玉帶出來之後鈴屋翁手ッカラ棟隆（稻掛）翁へ授タルモノ也」とあり、梅月堂の草庵集註「蒙求諺解」と櫻井某がその雜註とを取合せ判定せしもの、「鈴屋遺響」參照）

鈴屋哥集卷二　寫　一冊　一七五

木居宣長著自筆、半紙二十三丁紙より綴、「須受能屋藏書」

奥書

午ノ正月五日此卷板下書了

（表は鈴屋哥集の二にして刊本とやゝ出入あり又改訂のあとあり、裏は、末に「寶曆十一年辛巳仲夏　舜庵本居宣長撰」とある字音假字用格の初稿かと思はるる十五枚、歌稿三枚、「享保二十丙辰年二月四日夜講義中庸三」—宣長筆にあらざるか—一枚、「天明四年辰三月十四日漢字三音考第二度稿」として目錄のみある一枚、玉の小櫛卷五の草稿三枚、以上なり）

千五百森傳說　寫　一冊　一七六

木居宣長著自筆、和袋綴表紙なし　五寸九分四寸〇分　六丁

「本居藏書」

（伊勢國飯高郡千五百森鎭座瑞穗宮の傳說を述べ我が考を加ふ、公命による調査の控なるべし、「鈴屋遺響」參照）

夕のおひ風（てにをは紐鏡稿本）　寫　一枚　一七七

木居宣長著自筆、美濃紙四枚を縱につなきしもの折つて四寸九分二寸五分とす

（明和八年刊「てにをは紐鏡」の初稿にして細部刊本と相違內題「雲きりもはるゝ夕のおひ風にとまりたとらぬ和歌の浦船」として「夕のおひ風」を大きくせり、「鈴屋遺響」參照）

てにをは紐鏡　一帖　一七八

本居宣長著　明和八年卯十月自跋、折本青表紙　四寸八分二寸四分、題簽中央單邊「てにをは紐鏡再板」
刊記、
　干時文化十三年子五月再板　皇都書林五車樓藏　華箋堂藏
（明和八年刊の再板、夕のおひ風と比較のために同畝されしものか）

享和元年辛酉上京日記　寫　一冊　一七九

本居宣長著自筆、和袋綴共表紙　八寸一分五寸六分　二十六丁、題簽なし外題左肩二行に書名同、「本居藏書」
（享和元年上洛堂上家間に講筵を開きし折の日記、内容本居宣長稿本全集所收、「鈴屋遺響」參照）

〔歌詞展開表其一〕　寫　一枚　一八〇

本居宣長著自筆
（半紙一枚に日本文藝各樣式を史的に系統づけし表、「鈴屋遺響」參照）

〔歌詞展開表其二〕　寫　一枚　一八一

本居宣長著自筆
（美濃紙一枚に其一に比してやゝ詳に同じ試みをなせし表、「鈴屋遺響」參照）

〔古訓古事記序草稿〕　寫　一通　一八二

本居宣長著自筆
（十一月廿九日附竹村平右衛門出大居大人宛書簡の裏面に細字にて認む、數ヶ所の推敲の跡をたどれば、ほゞ刻本に等しき形を得、「日本精神關係古書解說」—日本文化第十六號—參照）

撰集作者考上　寫　一冊　一八三

本居宣長著自筆、和袋綴共表紙　四寸二分五寸一分　七十七丁、題簽なし外題左肩書名同
（八代集及び新勅撰集の歌人名を摘出配列、三代集にては各人收載歌を算せんとて黑印を以て歌數を示す、新古今の末に「寶曆九年己卯十二月廿一日　舜庵」と書す、けだし、新勅撰集は後の添加）

〔假名遣手控〕　寫　一冊　一八四

和袋綴共表紙　四寸五分六寸六分　三十三丁（中白紙一）、題簽なし
（四部にわかる一は五行相通音韻轉化の略記一丁、何よりの轉寫か不明、二は宣長の字音假名用格の字音假名の部分を目錄を附して摘出せるもの、三は魚彦の古言梯の文字と訓のみを摘出、四は紀記万葉の假名文字を五十音順に摘出列記、所謂特殊假名遣に屬するものは二回にわたり朱にて頭部に附記す。その數　キ（ギ）ケコ（ゴ）ソト（ド）ヌヒ（ビ）ヘミメヨロの十二に及べり、末に半丁分「右師ノ古言梯ノアハヒニハサミ入レアリ」とて假名遣に關せる注意書の寫あり、師は宣長を指すべけれども、本書何人の筆になるか不明）

與谷川淡齋書　寫　一冊　一八五

本居宣長自筆、和袋綴表紙なし，九寸五分六寸七分　五丁、内題「與谷川淡齋」、「本居藏書」
（末に「乙酉八月　明和二年也本居舜庵」と、内容は國學者傳記集成谷川士清の條にあり）

〔本居家譜〕　寫　一冊　一八六

半紙四つ折横綴　四寸七分六寸四分　十丁
（道觀居士本居左兵衛武秀より宣長の子に到る迄の系圖、今「本居家譜」と假題す）

〔本居大平宛書簡二通〕　一枚　一八七

卷紙　二通を張りつなぐ
（共に享和元年宣長上洛の際、同伴の門人よりの書、一は四月晦日夜附石塚龍丸植松有信等四人より健亭大平宛中山大納言家の講義の事、他は五月廿二日附植松有信より大平宛　同じく中山家講義出席の人々に關して）

稲掛のぬしへまゐらする書　寫　一冊　一八八

村田春海著自筆、和袋綴共表紙間似合紙附表紙四周單邊七寸七分五寸五分九行の界紙　九寸二分六寸二分　三十一丁（原表紙共）、原替表紙共に題簽なし外題左肩書名同後人筆、「藤垣内印」
（末に「三月廿八日　平春海稲掛のぬしの御もとへ」とあり、有名なる寛政十一年縣居歌風をめぐる春海大平論爭の第一書の原物、内容續歌學全書所收）

村田君の御もとにまゐらする返事　寫　一冊　一八九

本居大平著自筆、和袋綴共表紙間似合紙附表紙用紙は石塚龍

暦の古言清濁考の用紙を用ふ四周單邊六寸九分五寸一分十行界紙　九寸〇分六寸五分　十九丁（原表紙共）、題簽なし二表紙共外題左肩書名同後人筆　柱心「清濁考」、「藤垣内印」
（末に「八月朔日　稲掛大平　村田君の御もとにまるらす」とあり、三月廿八日附春海の書に對する駁論の寫し、内容本居大平全集藤垣内答問錄の二所收、假名漢字の用ひ方相違あり）

稲掛の君の御返事に更に答へまゐらす書　寫　一冊　一九〇

村田春海著自筆、和袋綴原表紙上に附表紙　八寸九分六寸五分　二十六丁（原表紙共）、　題簽二表紙共なし外題共に左肩書名同後人筆、「藤垣内印」
（末に「かみなつき七日　平春海　稲掛の君の御許へ」八月朔日附大平の答に更に答へし書、内容續歌學全書所收）

大平筆枝折　一　一九一

本居大平自筆、樺材長さ五寸四分幅九分のもの上分に直徑四分の穴あり
（表に「しをりしてやすらひゆかはよし野山」裏につゞき「岩のかけ道ふみもたとらし大平」とあり）

大平宛書簡　三　通　一九二

本居宣長自筆、巻紙
（一は　九月十八日附「十介樣　中衞」宇治綾談に關して、二は「十二日　十介樣　春庵」重祝をかりに使にもたせし一通、三は「七月十日　本居中衞　稲掛大平樣」中元御祝儀の禮狀）

橘守部稿本集　四　箱

（守部稿本をあつめて同箱し假に題す、所收書次の如し）

稜威道別　寫　八卷八冊　一九三

橘守部著自筆、和袋綴花淺葱行成表紙　八寸八分六寸三分、題簽左肩白紙書名同、「椎本文庫」
（極淨書、版本と等しく三序あり自序あり但守部とのみ署す、全集本に比するに、全卷殆ど同内容なれど、なほ措辭に可成りの出入、卷三上部には補筆もあり、屢々稿を改めてやゝ終稿に近きものなり、總論末「天保十五年五月廿五日　橘守部長々謹識」）

〔稜威道別異本〕　寫　闕一卷一冊　一九四

橘守部著自筆、和袋綴薄淺葱表紙裏打　九寸三分六寸五分　二十丁、題簽なし、「椎本文庫」
（巻頭「稜威道別一巻　橘守部謹撰　日本書紀巻第一神代上」とあり、全集所收本巻三に相當すれど、比して解說詳密にして冗漫なり、未だ總論を附せざる前の稿本なり）

神代直語　寫　三卷一冊　一九五

橘守部著自筆　「御代の名を弘化と申す三とせの後の五月つこもりの日しるす（桐畠生樂園主人橘守部以上消）橘守部謹識」の序、和袋綴丹行成表紙　八分九分六寸二分　百三十九丁（上四十二中四十九下四十八）、　題簽左肩灰色短冊紙書名同、「椎本文庫」
（衣羅備邪麻の末にも弘化三年五月廿八日の日附あり、全集所收原本なり）

神代直語　寫　二卷二冊　一九六

橘守部著自筆、和袋綴薄淺葱表紙裏打　九寸二分六寸五分、題簽左肩剝脫、「椎本文庫」
（二卷にて完、序なし、下卷は「素盞嗚尊降二出雲國一段」よりおこる、上卷衣羅備邪麻の末に弘化三年五月廿八日とあれど、本文朱の改訂を所々に見る、改訂に從へば、全集所收本即前掲本に甚だ近き詞章を得、前掲本に先んずる稿なり）

稜威言別（紀記歌解）草稿　寫　三卷三冊　一九七

橘守部著自筆「御代の名を弘化と申す三とせの冬をこかましくはあれとみつから言擧してしるす　橘守部」との序、和袋綴共表紙　九寸一分六寸一分、題簽なし外題左肩書名同　内題「稜威言別」、「學問所改」の印
（三卷體裁板本に等し、卷十にいたる目錄二丁は板本に比して簡略、本文尙些少の相違あれど、板本に甚だ近き稿　擬狀の末「弘化三年六月」と）

萬葉集檜嬬手　寫　六卷六冊　一九八

橘守部著自筆、嘉永のはしめの年のやよひの廿日自序、和袋綴瓶覗色表紙用紙薄葉　九寸一分六寸六分、題簽左肩白紙書名同、内題二卷以下「萬葉檜楓」
奥書
（一卷）此卷三月九日に筆を立はしめて廿日にかきをへつ得よみも得すしてちらしうてつ
（二）此卷三月廿五日に筆を立はしめて四月六日にかきをへつ下がきもせすよみも見ねはもらしゝ事多からん
（三）此卷四月七日より艸しそめて十三日にかきをへつい

たく急きたれは直すへき事多からん

（四）此卷四月十三日夕さりかたより艸しそめて同廿日の夕へにかきをへつ此とし改元　守部とし六十三

（凡例末に「嘉永元年三月廿一日」全集所收原本）

萬葉集檜嬬手別記　寫　一卷一冊　二九九

橘守部著自筆、和袋綴黄布目表紙　八寸八分六寸四分　三十一丁、題簽左肩白紙書名同後人筆　内題「萬葉檜孤別記」

（末に「橘守部艸」、全集所收原本）

神異例　寫　三卷三冊　二〇〇

橘守部著自筆、「天保十四年七月下旬池室主人」の自序、和袋綴　八寸八分六寸〇分、題簽左肩路考茶色「神異例初稿（卷數）」卷一のみ題字の下「原本」と加ふ、題簽は後人の附せしものなり、「椎木文庫」

（全集所收歴朝神異例の一草稿、對比して本文説明簡略、序及び全七卷の目錄の次の詞句も相違、所々に弄正の跡を見る）

稜威雄詰　寫　五卷五冊　二〇一

橘守部著自筆、和袋綴薄藍表紙　七寸七分五寸四分、題簽左肩摺上下に「池庵」「文庫」とある罫邊白紙墨「稜威雄詰稿一（一五）」「いつの雄たけひ稿」（二）「いつのをたけひ稿」（四）、「椎木文庫」

（全集解題に署名別補後身す邑子謹撰とありと云ふ書、全集所收本に先んする草稿、所々の改訂により全集本に近き得、大詔の末「天保十年四月八日」と）

神樂歌入文卷二　寫　一冊　二〇二

橘守部著自筆、和袋綴白表紙黑すみたり　九寸二分六寸五分三十七丁、題簽左肩剝脫、「椎木文庫」

（板本の卷上の末より卷中の半に到る　採物之中、篠・弓より韓神迄の註、朱筆改訂多く改訂によつてたどれば　板本に接近するを得る一稿本）

催馬樂入綾卷四　寫　一卷一冊　二〇三

橘守部著自筆、和袋綴改裝　九寸〇分六寸四分　二十六丁、題簽なし、「椎木文庫」

（板本催馬樂譜入文の極初の稿本にして、「催馬樂入あや卷四呂ノ下」の名の下に美作より我家迄、板本入文の下の半より末に至る部分、反古紙の裏を用ふ附箋墨朱の改訂多し）

〔俗語考草稿本〕　寫　二十二冊　二〇四

橘守部著自筆、和袋綴共表紙　八寸四分五寸九分、題簽なし外題左肩「俗語考」下に冊數及び五十音順の所收部を萬葉假名にて示す二十二冊目「廿三」とあるは誤記、内題「俗語考」

（淨書本になき部分は、全集所收原本、各語の用例を反古の裏に書して貼付しもの、中に本朝俚諺の如く書物を切貼りせしもあり、まゝ他筆を混ず）

〔俗語考淨書本〕　寫　十三冊　二〇五

橘守部著　守部・橘冬照・同道守筆、和袋綴瓶覗色表紙　七寸八分五寸五分、題簽左肩白紙「俗語考」内題「俗語考」、「椎木文庫」

（凡例奥「天保十二年十一月十四日守部」と、全集所收原本、同書解題云「守部翁自身が整理し淸書したと思はれるのは、阿の部から已の部までゝ、佐・志は翁の子冬照の淨書、須・勢・曾・多・知・都は冬照の子道守の淨書した本である」、守部八冊、冬照二冊、道守三冊となる）

〔雅言考草稿本〕　寫　十二冊　二〇六

橘守部著自筆、和袋綴共表紙附表紙種々　七寸九分五寸五分、題簽なし外題左肩「雅言考」

（外題の下にその書所收の五十音順に配列せし部を示し、表紙には又橘守部集又は逑、草などとあり、時に旣成の本を裏紙として反古に書せし用例を貼る、裏紙となれるに池庵月次兼題并當座詠草の寫本、爾然齋玄無法師家集上の刊本等、全集所收原本）

類語品彙　寫　五十六冊　二〇七

橘守部著自筆、和袋綴灰色表紙　七寸六分五寸五分、題簽左肩黄紙書名同、「椎木文庫」

（山岡俊明の類聚名物考に類して、全卷天文・時令等二十九門に分類、各門の各項目の用例解説を諸書に求めたる百科事彙的編纂、守部自筆は一・二・三・四・五・六・九・十・十五・十九・二十一・二十二・二十三・二十四・二十七・二十八・二十九・三十八・四十三・四十四・四十八・五十二・五十三の二十三冊、他は自筆他筆まじり　又は男冬照、其の妻東世子の筆なり）

古事記傳考異　寫　五卷五冊　二〇八

橘守部著自筆、和袋綴共表紙　九寸一分六寸八分、題簽なし外題左肩書名同

（巻頭「古事記傳考異巻一　北畠源守部謹撰」、意保牟禰にて選述の意を明かにし、古傳意哀武泥をあけ以下各條古事記傳の說を掲げ「今云」として自說を述ぶ、雜古事記傳初度の試みと思はる、墨朱の改訂多し）

古事記傳考異　寫　一巻一冊　二〇九

橘守部著自筆、和袋綴白紙表紙　柱心に記傳考異とある摺込ある用紙　九寸三分六寸五分　四十二丁、題簽なし外題左肩朱「古事記傳雜註四十二了」

（前掲古事記傳考異巻一の淨書、前書加朱の部分を訂正す、從つて一段と雜古事記傳に近し、古傳意哀武泥の末「天保十年九月廿五日　守部筆を執て卒に草」と）

記傳慨言　寫　三巻三冊　二一〇

橘守部著自筆、和袋綴白紙表紙用紙薄葉　九寸三分六寸六分　題簽なし外題左肩書名同

（標初の草稿、古事記傳巻三より十七に至る間の雜註　斧正のあとあり）

記傳慨言　寫　四巻四冊　二一一

橘守部著自筆、和袋綴鐵色表紙　九寸四分六寸八分、題簽なし外題左肩朱「記傳慨言初稿第一（—四）」

（前記三冊本を淨書して四冊とす　されど於爽牟涅四丁を附し、論說詳密の度を加ふ、於爽牟涅の末「天保十三年三月十八日」と本書にも墨朱の改訂甚し）

勝地徒跳　寫　七巻六冊　二一二

橘守部著自筆、和袋綴薄藍布目表紙巻六巻七は合綴　八寸一分五寸六分、題簽左肩白紙書同但巻數及び「自山城至大和一國」の如く內容を注記す、「椎木文庫」

（凡例初めに云「一此巻行囊抄をぬき書しつれはたゝに行囊抄拔萃なりと題すへきをおのれか考へをもこれかれくはへつれはいたつかすして名所を經つるこゝろもて勝地徒跳とは名つけたるなり」と、巻一「自山城至大和一國」巻二「自山城至攝播中國西國」巻三「自山城至東海下毛奥羽伊勢志摩在此中」巻四「自江戸至中仙道中國」巻五「自伊勢道分至宇治」巻六七「九州四國北越并海上（一字不明）」に分る）

三大道辨　寫　一冊　二一三

橘守部著自筆、和袋綴共表紙　八寸〇分五寸八分　三十丁

（中白紙一）、題簽なし外題左肩ペン書書名同

（巻頭云「世間ニ道ハアレト三大道ホドノ巨大ナル道ハアラス三大道トハ所謂天命幽明鬼神ノ三ヲ云」と、その三大道により古代精神を論ず、朱・藍・墨にて縱橫に訂正を加へたり）

三大道辨　寫　一冊　二一四

橘守部著自筆、和袋綴共表紙用紙薄葉　八寸六分六寸一分　三十五丁、題簽なし外題左肩書名同

（前掲本の淨書、なほ朱の書込あり）

神代卷古今顯要鈔　寫　一冊　二一五

多田南嶺著　橘守部筆、和袋綴改裝　八寸五分五寸七分　八丁、替題簽左肩書名同、「椎木文庫」

（顯要鈔の拔萃）

〔神代紀心覺〕　寫　一冊　二一六

橘守部著自筆、和袋綴改裝裏打　八寸二分五寸五分　九丁、替題簽左肩書名同、「椎木文庫」

（神代紀の詞句を摘出、上に筆の尻にて朱印をおし、その中に注・見・敎など書入、所々切りとりたるあり、何かの資料にあてたるなるべし、書名後人の假題）

〔神代紀索引〕　寫　一冊　二一七

橘守部著自筆、和袋綴灰色に金箔をほどこせし表紙　七寸九分五寸四分　二十二丁、題簽左肩外題なし、「椎木文庫」

（神代卷の主に名詞を書拔き五十音順に切貼りせしもの、もとづきし書の丁數をしるす、例せば「天津彦　下二オ」の如し）

〔古事記夜都米佐須の歌の辨〕　寫　一冊　二一八

橘守部著自筆、和袋綴改裝　九寸二分六寸四分　五丁（中白紙一）、替題簽左肩「古事記夜都米佐須の歌の辨」、「椎木文庫」

（後人の假題、夜都米佐須云々の倭建命の御歌の解にて諸說を駁して自說を主張す）

〔菊之名之考〕　寫　一冊　二一九

橘守部著自筆、和袋綴改裝裏打　八寸四分五寸六分　六丁、題簽なし、「椎木文庫」

（後人の假題、「白菊」「甞賀菊ノ名」「菊ノ古名を不知波加麻と云ヒし事」の三考證を收む）

上古の髮の考　寫　一冊　二二〇

橘守部著自筆、和袋綴表紙なし　八寸〇分五寸五分　十五丁

（うなゐ・はなり・めざし等上古髮十二項の考證、朱の改訂多し）

古代の髮の考　寫　一冊　二二二

橋守部著自筆、和袋綴共表紙　八寸一分五寸八分　十九丁（中白紙一）、題簽なし外題左肩「古代髮考」橋道守筆　表紙右下隅に「蓬壺艸本道守之印」とあり、獅子形の一印

（前掲本の淨書、尙附箋や墨の改訂、又他筆の朱の書入あり）

〔續難語考殘簡〕　寫　一冊　二二三

橋守部著自筆、和袋綴改裝裏打　九寸四分六寸五分　五丁、題簽なし、「椎本文庫」

（鐘のひゝき續稿の斷片なりといふ、鐘のひゝきと同體裁にて、「第十五段びさうなきいへとうじ」「第十六段かいじろ」など十二・十四・十五・十六の四段を收む、後人の假題）

神蹟考　寫　一冊　二二三

橋守部著自筆、和袋綴改裝　六寸八分四寸六分　八行、替題簽左肩書名同、「椎本文庫」

（諸々の神を五十音順に配列し、諸書によつてその鎭座ます處を示す）

○

永樂大典　寫　闕六卷三冊　二二四

解縉（明）等編、唐袋綴茶黃布張表紙用紙赤線有界四周雙邊一尺一寸八分七寸四分一界二行計十六行　一尺六寸六分一尺、題簽左肩青郭入黑雙邊「永樂大典卷二千三百九十八　二千三百九十九」他二冊は剝脫　尙表紙上右肩正方形青郭入黑雙邊に「六摸一百二十七」「十八陽六百五十七」「六暮七十八」と冊數を示す　柱心永樂大典

（永樂帝勅撰原本にして「六摸一百二十七」には二千三百九十八、二千三百九十九の二卷、「十八陽六百五十七」には七千三百三・七千三百四の二卷、「六暮七十八」には一萬四千六百二十八・一萬四千六百二十九の二卷を收む、昭和十一年九月十二日　重要美術品に指定さる）

精神科學

東洋哲學

大學問　古活字本　四卷三冊　二二五

王陽明（明）著、和袋綴疑冬色唐紙料紙　九寸二分五寸四分　四周雙邊七寸一分四寸五分　八行十七字、題簽左肩墨「大學問一（二・三）」内題「大學問卷之一」「王文成公卷之一」「陽明先生遺言逸事」、「尙舍源忠房」「文庫」其他二

（寛永木活字版にして、大學問・王文成公・陽明先生遺言逸事並に明陽先生辯證を收む）

○

老子經　古活字本　二卷二冊　二二六

老聃（周）著　葛洪序、和袋綴改裝　九寸一分六寸五分　有界四周雙邊六寸九分五寸二分　七行十七字、題簽なし　内題「老子道經上」「老子德經下」　桂心老子經、「妙安藏書」「帷釋之印」其他一

（河上公注の老子にして、推定慶長年間刊、數種の活字を混用せるが如し）

宗　教

神佛影守目錄　寫　一冊　二二七

山中共古著、和袋綴丹表紙　四周雙邊七寸〇分四寸八分十行界紙　八寸七分六寸二分　七十丁（外白紙二十九）、題簽左肩書名同

識語

（一丁表）此目錄は余が集し神佛影守集の目錄にして隨而得れば隨而冊に粘したれば順序もたゝず何れの冊に何々の守があるや知ることの不便をさけん爲に此目錄書をなしたるなり出所不明も多く誤りも定而澤ならんとは思へどそは知るごとに改んとてかくはものしつ　明治三十二年の四月共古齋主人

（共古自筆本よりの轉寫）

神　道

日域本紀　寫　一卷　二二八

卷子本表紙なし　八寸五分二十二尺一寸六分、題簽なし　内

題末に「日諱貴本記」
奥書
永德元年辛酉九月六日於法隆學問寺西園院以堅盤殿御本令書寫之了　相似沙門宗樹（花押）
（末に右大臣從二位神主天智天皇三世孫志貴皇子之孫榎井親王之五男也とあるは著者に擬せられし人なり、禁蹴槲傳章・現相日前章・在所靈示章以下奉臣檢越章迄十七章よりなる、兩部神道家の僞書の一なり）

〔神道灌頂印信〕寫　闕三卷　二二九

賀茂季好筆、卷子本表紙なし一尺、題簽なし　初卷冒頭破損
内題不明假題
奥書
（目錄の末）元和三年十月吉日授與從五位下賀茂縣主季好
根來寺小池坊傳燈法印大阿闍梨性慶示者
（初重末）元和三年十月五日授與　季好　傳燈法印大阿闍梨性慶示者也
（二重第六末）元和三年十月五日　授與從五位下季好　傳燈法印大阿闍梨性慶示者
（三重）なし
（四重末）元和三年十月五日　授與從五位下季好
（九重末）元和三年十月吉日授與從五位下季好　根來寺小池房傳燈法印大阿闍梨性慶
（極秘末）元和三年十月五日
（神道灌頂印信を初重より九重迄及び極秘の十部、各部又十數條にわかちて傳授せしものにして、初卷目錄初、卷二三重の大部及び五・六・七・八重の四部にあたる卷を欠けり）

〔神鋭事〕寫　一卷　二三〇

卷子本表紙なし　八寸六分十七尺六寸五分　題簽なし　内題なし假題
奥書
永德元年辛酉九月六日於西園院書寫了
（卷頭の文字によりて假に題す、先づ神代三面寶鏡より五座神躰事にて諸神の神體たる寶鏡をとき、天神七代梵號事三十二神梵號事等を合せ記す、西園院は法隆寺内の一院なり）

天地麗氣記　寫　十八卷二冊　二三一

和袋綴布張表紙　九寸一分六寸七分　八行　上（二圖二頁分）下（三十頁分）、題簽中央「神號麗氣記」、「圓福寺見性宗般」
「圓福寺住職見性宗般之印」、「山城國綴喜郡八幡町圓福寺什物」（墨）

奥書
（卷一）（本云）欲開九識心連結五智果實散以此妙喜模矣
（四）爲蒙威光菩薩擁護破四魔三障難項預天照太神冥威增非福延壽聲橫此抄矣妙書矣
（九）奥書云爲開眞如理宮耕木學惠光謹以模此書高野山金剛三昧院長者坊之御本以寫之享祿五年三月六日空普
（十四）右　此麗氣十八卷先醍醐天皇御制舍人親王調奏也神道肝要已位目定也　右段々朱點ヲ加ル分ハ御靈法眼所持本也但不定分ハ點不加也（朱）
（最末）皆慶安貳己丑暦十二月上旬書寫校合畢散位賀茂保可
右朱點加之分ハ上御靈法眼秘本點也畧字已下加之也乍然不足卷數多在之猶重而以他本校合可致者也
（本文弘法大師全集第五輯等に所收、作者に弘法大師・傳教大師等の諸說あれど皆信すべからずと云ふ）

○

忌詞内外七言事　寫　一冊　二三二

竹屋光棣・足代弘訓著、和袋綴共表紙鳶茶色附表紙　八寸三分五寸七分　九丁（表紙共）、原表紙題簽なし外題左肩「忌詞内外七言事」附表紙題簽左肩「忌詞問答足代弘訓自筆稿」
（外題傍に二行「御問竹屋右兵衞佐光棣朝臣奉答　弘訓」とあり、内容「内外忌詞事」と題し光棣の問四丁「謹申」として「外宮權禰宜度會神主弘訓」の答四丁、事は延喜式齋宮式中の忌詞に關してなり）

〔伊勢神宮行事繪卷草稿〕　寫　闕五十一枚　二三三

（早くは三拾六年一月二月になり遲くは第六拾九號に「三拾七年三月十八日出來」と日附見ゆ、明治三十五年頃より三十七年にかけての作成にして、伊勢大神宮年中諸儀禮繪卷の草稿、出刊や否や不明）

古老口實傳　寫　一卷　二三四

度會延誠筆、卷子本裏打織物藍表紙　一尺〇寸四分二十八尺一寸九分　原物九寸七分二十六尺四寸六分　有界四周單邊天地八寸一分、題簽なし
奥書
木奥書云　正安二年六月日以當宮二禰宜行忠神主書寫本書留之畢云々
于時正和昭陽之厤無射白月之天以先考御書寫之本爲存知遂書寫之功抑此記者故西河原後長官行忠神主執印以前所被勘錄之古老口傳也當家專可存此旨者歟　權禰宜正四位上度會神主

延誠（花押）
（新校群書類從神祇部所收の校勘本、永仁五年頃に於ける公私の文書をつなぎし裏に記す、その文書二三を云はゞ「永護渡山林田地事永仁六年十一月廿一日荒木田清時在判」「法福寺別當僧慶觀重言上　永仁五年十二月日」など）

佛　教

飜譯名義集　古活字本　七卷七冊　二三五

法雲（宋）編　唯心居士荆谿周敦義序、和裝綴改裝　九寸二分六寸六分　有界四周雙邊七寸六分五寸五分　十二行二十字　題簽なし外題左肩墨書名同但一冊目欠　柱心翻譯、「林盤寺」（墨）「英規」「目饒（花押）」（墨）
（推定寛永年間刊、使用活字大形　朱の句讀點あり）

○

大毗盧遮那成佛經疏附大毗盧遮那經供養次第法疏　高野版　二部二十二冊　二三六

胡蝶裝改裝　八寸一分五寸一分　七行十七字、題簽なし外題左肩墨「大日經疏第一（——二十）」、大毗盧遮那經供養次第法疏上（下）」　柱心大疏、「高野山龍光院」「北宝院快盤」（墨）或は「快盤」
刊記奥書（刻）
（第一）建治三年丁丑五月四日於金剛峰寺信藝書斯疏舊版既刻文字殘缺仍今新加彫刻大功云成論肆學場慧燈長照一天四海法寶廣施捧此洪勳奉祈聖朝敷厥利濟令度群類敬白
貞和第五暦己丑結制日　幹緣比丘阿吽捨財玉峯正琳彫工法眼和尚住宗應
（二）（次ぎ紙の上）應永廿二年乙未六月一日　大傳法院惠淳
（四）建治三年丁丑七月六日於金剛峯寺信藝書
（五）建治三年丁丑七月廿五日於金剛峯寺信藝書
（九）建治四年戊寅正月八日於金剛峯寺信藝書
（十一）建治四年戊寅二月四日於金剛峯寺信藝書
（十二）弘安元年戊寅四月二日於金剛峯寺信藝書
（十三）弘安元年戊寅八月廿二日於金剛峯寺信藝書
（十四）弘安元年戊寅後十月四日於金剛峯寺信藝書
（十六）弘安元年戊寅十一月十六日於金剛峯寺信藝書
（十七）弘安元年十一月晦日於金剛峯寺信藝書
（十八）弘安二年正月三日於金剛峯寺信藝書
（十九）弘安二年四月四日於金剛峯寺信藝書
（二十）爲續三寶惠命於三會之出世廣施一善利益於一切之

衆生是則守大師之遺誡倫令逢小心之心願謹以開印板奚弘安二季己卯四月日從五位上行秋田城介藤原朝臣泰盛　大經疏一部廿卷招學侶十許輩廣者覆其文字於是願主學閣啓仁和寺二品大王賜證本兩惜兼得當山中院明等闍梨書本今彼兩本以爲准畇若猶致有疑則間披諸本審快差當第九疏翻梵文博吃叉義援字諸本有異魚魯難辨第十二卷疏引線完方位拼字可用緋敷加之麁註相襍廻文紛綸並周證本不得自由又至文字作者以切韻及玉篇所勁載也但鏈字則獨載和書猶指當蹤亦憂准多本此例稍非一依深謹慎之思不顧加題五功者也弘安元年十一月十一日金剛峯寺良和記之弘安二年四月廿三日於金剛峯寺信藝書
（供養次第法疏卷下）爲續三寶慧命於三會之出世廣施一善利益於一切之衆生是則守大師之遺誡倫令逢小僧之心願謹以開印板奚
（鎌倉期高野版の足利期後刻、二十卷奥書は原版刻のものと思はる、第二卷より見るに根來版經の餘紙を用ひて刷りたるなるべし）

大般涅槃經　寫　四十卷四十冊　二三七

蓮運筆、折本草模樣格子入香色表紙、八寸四分三寸一分　有界四周單邊六寸八分三寸〇分　五行十七字、題簽なし中央書名同
奥書
（第一）一交了
右書寫之志者爲三界衆生皆令入佛道也　永德二年壬戌三月廿六日　北京流蓮運冊六
享保十一丙午於鷹峯源光禪庵再校了焉者也
（二）一交了
右志者爲天下泰平國土安穩村内繁昌心中所願成就圓滿奉一筆書物也　永德二年壬戌卯月十七日　蓮運冊六
享保拾一丙午鷹峯於源光庵再校了焉者也
（三）一交了
右書寫之志意趣者爲二世悉地成就圓滿也　永德二年壬戌卯月三日沙門蓮運冊六
享保十一丙午京北洛鷹峯於源光禪庵重校了焉者也
（四）一交了
右志者爲三界衆生皆令人佛道奉一筆書物也　永德二年壬戌卯月　沙門蓮運冊六
享保丙午於鷹峯源光清舍重校之
（五）一交了
（六）一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌五月

七日　北京流運運
享保丙午晩秋日於鷹峰神堂重校焉
(七)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年
五月十日　北京流沙門運運冊六
享保丙午秋晩日於鷹峯源光蘭若重校焉沙門某記
(八)一交了
右志者爲法界衆生皆令入佛道奉一筆書物也
(九)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌二年六月十五日　北京流運運冊六
享保第十一丙午季秋重校於洛北鷹峰源光庵焉者也
(十)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　壬戌永德二年六月廿日　北京流　運運
享保十一丙午秋九月於洛北鷹峰源光庵重校者也
(十一)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　壬戌永德二年六月廿八日　運運冊六
享保十一丙午季秋於洛北鷹峰寶樹林源光菴重校了
(十二)一交了

右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也
(十三)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌二年七月九日　運運冊六
享保十一丙午季秋於鷹峯源光庵重校了
(十四)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌二年七月廿八日　運運冊六
享保十一丙午季秋十有二日於洛北鷹峰源光精舍重校畢
(十五)一交了
享保十一丙午孟冬初八於鷹峰源光庵重校了
(十六)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年八月五日　運運冊六
享保十一丙午京鷹峰於源光禪庵重校了者也
(十七)一交了
(十八)一交了
右志者爲法界衆生皆令入佛道奉一筆書物也
(十九)重校了　一交了　永德二年八月九日
(二十)一交了
享保十一丙午季秋於洛北鷹峰源光庵重校也

右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也
(二十一)一交了
享保十一丙午季秋於洛北鷹峰源光精舍重校畢
(二十二)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌二年八月廿五日　沙門運運冊六
享保十一丙午季秋十六日於洛北鷹峰源光精舍重校了
(二十三)一交了
享保十一丙午季下旬　於洛北鷹峰源光庵重校焉也
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌二年八月廿七日
(二十四)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌二年九月二日　運運冊六
享保十一丙午歳孟冬七日於洛北鷹峰源光精舍重校了
(二十五)一交了
享保十一丙午歳孟冬六日於洛北鷹峰源光精舍重校畢
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永德壬戌二年九月四日　沙門運運冊六
(二十六)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　右永德壬戌二年九月五日　沙門運運冊六
享保十一丙午季秋於洛北鷹峰寶樹林源光精舍重校了
(二十七)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書者也　于時永德壬戌二年九月七日　沙門運運冊六
享保十一丙午天洛北鷹峰源光庵重校終
(二十八)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月八日　沙門運運冊六
享保十一丙午孟冬八日於洛北鷹峰源光庵重校畢
(二十九)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也
(三十)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月十一日　沙門運運冊六
享保十一丙午歳季秋於洛北鷹峰源光庵重校焉
(三十一)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月十三日　沙門運運冊六
享保十一丙午季秋廿三日於洛北鷹峰源光精舍重校畢
(三十二)一交了

享保十一丙午天洛北鷹峰重校了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月十九日　沙門蓮運冊六

(三十三)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月廿日　蓮運冊六
享保丙午暮秋日於鷹峰源光嶺藂重校了

(三十四)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月廿二日　蓮運冊六

(三十五)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月廿三日　沙門蓮運冊六
享保丙午秋盡日於鷹峰源光僧堂重校焉

(三十六)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年九月廿四日　沙門蓮運冊六
享保丙午冬初於鷹峰重校了

(三十七)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　于時永德壬戌二年六月廿五日　沙門蓮運冊六
享保丙午初冬日於鷹峰源光精藍重校焉

(三十八)一交了
享保十一丙午季秋晦日於洛北鷹峰源光庵重校畢
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書者也

(三十九)一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書者也　于時永德壬戌二年九月廿七日　沙門蓮運冊六
享保十一丙午孟冬五日於洛北鷹峰源光精舍重校了

(四十)一交了
此經永德年間沙門蓮運所熏沐敬寫後人共奉持之無汚蔑自取佛罰云　昭和十一年歳次丙子二月二十八日花園晦宗謹識
享保丙午九月於鷹峰源光庵重校了

(永德二年中書寫　享保十一年重校了)

大般若波羅蜜多經　六百卷六百帖　二三八

折本薄橙色表紙　八寸二分三寸〇分　五行、題簽なし外題中央墨書名同、三室戸寺舊藏
(室町時代の刊本にして第二・第四五三・第四五八は寫本、奥に各冊書込有、表紙「施主山田宗好」「表具施頭山田宗好」等墨にてあり)

大般若波羅蜜多經　寫　六百卷六百帖　二三九

折本草模樣及格子入杏色表紙　八寸四分三寸一分、題簽中央書名同
奥書
(卷一)一交了
此經貞治應安年間貴紳緇徒所熏沐敬寫後人共奉持之無汚蔑自取佛罰云　昭和十一年歳次丙子二月二十八日花園晦宗謹識
(二)一交了
右意趣者爲乃至法界平等利益也　貞治六年丁未五月十八日心田僧敬白
(三)貞治五年丙午七月廿一日書之釋古月超輪
一交畢
(四)右意趣者爲二世所願成就也心田僧敬白　貞治第六丁未五月十日書寫畢
一交畢
(五)一校了
執筆　光慶敬白
(六)一交了
貞治六年丁未五月書寫了心田
(七)一交了
(八・九・十、七に同じ)
(十一)一校了
貞安法名背宗書之
(十二)一校了
右筆當寮領公文貞安法名背宗書之
(十三)一交了
當寮公文貞安法名背宗書之
(十四)一交了
當寮領小野山公文貞安書之
(十六)一交了
右意趣者爲所願成就也心田書寫了　貞治五年臘月七日
(十七)貞治五年丙午大呂廿日僧明全
一交了
(十八)右意趣者所求所願圓成圓滿爲也心田僧書寫了　貞治五年臘月四日
(十九)一交了
右意趣者爲所求所願圓成圓滿也於下小野々藏書寫了當卷施主沙門三〔河殿〕敬白
貞治五年霜月廿三日雲水客書寫了
(二十)右意趣者所求所願圓成圓爲也於下小野藏書寫了當

卷施主源氏女敬白　貞治五年霜月廿七日雲水客書寫了
（廿四）一校了　重校了
（廿五）一校了　再校了
（廿六）貞治二二年卯月廿九日書寫畢從四位下行大藏大輔大中臣朝保貞八十歳
一校了　再校了
（廿七）貞治四年乙巳五月十九日書寫畢金剛佛子相惠春秋六十二
一校了　重校了
（廿八）貞治二二年四月晦日書寫畢散位大中宮紘忠二十歳
一校了　再校合了
（廿九）一校了　再校合畢
（三十より三十六に至る各卷廿九に同じく一校再校了の由を記す）
（三十七）貞治五年六月十八日
一校了　再校合畢
（三十八）貞治二二年乙巳八月廿六日　於西山栗生觀音寺書寫畢
執筆朝賢
一校了　重校合了
（三十九）一校了　重校合了
（四十より四十七に至る各卷三十九に同じく一校重校了の由を記す、四十二は「一校了」のみ）

（四十八）貞治第四三月七日書寫了
一校了　享保戊戌冬重校了
（四十九）一校了　再校了
（五十）一校了　重校了
（五十一）享保戊戌冬重校了經中无字靈成元字
（五十二）一校了　再校了
貞治六年丁未五月十五日書寫了心田
（五十三）一校了　再校合畢
于時貞治三年甲辰十一月十三日長安城花山院御所近邊聊依世俗之緣令閑居隱士染老愚筆端彼經卷令結緣而已　沙門
（梵字署名）五十二
（五十四）□就異本佐熟　一校了　重校
貞治六年丁未五月廿五日書寫了僧心田生年廿四歳
（五十五）一校了　再校合畢
貞治六年丁未五月廿八日書之僧心田生年廿四歳
（五十六）一校了　重校了
貞治三年十二月十三日之寫了
（五十七）一校了　再校了
貞治三年十一月十五日書寫了
（五十八）一校了　享保戊戌冬於寶樹禪林重校
（五十九）一校了再校了

貞治第三壬辰仲呂始五日所願爲成就書寫之從三位平朝臣
（花押）
（六十）一校了　享保戊戌歳重校了
貞治六年丁未林鐘一日僧心田生年二十四才　右意趣者爲過去生靈願證菩提也
（六十一）一校了　享保戊戌冬於寶樹禪林重校
（六十二）一校了　享保戊戌冬寶樹林重校了
（六十三）一校了
（六十四）一校了　再校了
（六十五より七十に至る、各卷六十四に同じ）
（七十一）一校了
（七十二）一校了
（七十三）一校了
貞治三年八月十五日書寫了
（七十四）一校了
貞治三年十月十三日爲所願成就之寫了
（七十五）一校了
貞治三年乙巳四月二日書寫了沙門圓道（花押）
（七十六）一校了
貞治三年八月十八日書寫了
（七十七）一校了

貞治三年十一月十五日爲所願成就書寫了
（七十八）一校了　享保三年極月廿三日再校畢
貞治三年十一月廿日書寫了
（七十九）一校了
貞治三年十二月廿一日書寫了
（八十）一校了
貞治三年十二月廿一日書寫了
（八十一）一校了　再校了
（八十二）一校了　再校了　圓道（花押）
（八十三より八十九に至る各卷八十二に同じ、八十七のみ「再校了」なし、圓道はけだし書寫せし者なり）
（九十）一校了　享保三戊戌年十二月廿二日再校畢
于時貞治三年甲辰十二月八日書寫之了圓道（花押）
（九十一）貞治四年正月廿四日松尾社奉孝頼
一校了　享保三戊戌臘月十九日於洛北鹿峰源光精舍再校了
（九十二）右意趣者爲二世所願成就圓滿也　貞治第六丁未五月十六日書寫了心田僧二十四歳敬白
一交了　於源光精舍沙門金淳再校了
（九十三）貞治六年丁未十一月十三日書寫了
一交了　享保三戊戌臘月十九日於寶樹禪林再校合了

(九十四)享保三戊戌臘月廿二日於源光精舍重校
(九十五)一交了　於寶樹林重校合了
般若書寫　以功德力　生々値遇　無上佛果　二世悉地
皆令滿足　小比丘曇英謹誌　貞治四季仲秋中旬比書寫了
(九十六)一校了　享保三戊年再校畢
貞治三年甲辰七月廿四奉書寫了執筆覺舜
(九十七)一校了　享保三戊戌臘月廿有二日再校了
貞治三年七月廿日奉書寫畢執筆廣隆寺住盛舜
(九十八)一校了　享保三戊戌臘月吉日於寶樹禪林圓明等再校
貞治三年甲辰七月廿四日奉書寫畢執筆阿闍梨盛舜
(九十九)一校了　享保三戊戌年臘月廿二日沙門益淳敬再校合
貞治三年辰仲秋廿日時正卯初於廣隆寺北室房奉書寫了執筆阿闍梨盛舜
(百)一校了　享保三戊戌臘月廿三日再校合了
貞治第三之天仲秋中十之日干時時正初日於廣隆寺北室僧坊奉書寫畢執筆阿闍梨盛舜
(百一)一校了　享保四年二月朔旦再校了
(百二)一校了　享保四年二月朔日再校了
(百三)一校了　享保四年二月朔日再校了

(百四より百七迄、百三に同じ)
(百八)一校了　享保四年二月二日再校了
(百九)一校了
(百十)一交了　享保四年二月初二日再校了
(百十一)一交了　享保第四年二月朔日在源光庵再校了
貞治五年八月八日於高山寺善財院奉書寫畢執筆金剛佛子澄覚生年三十
(百十二)一交了　享保第四己亥春二月初一日沙門益淳再校合干洛北鷹峰源光精舍
(百十三)一校了　享保四己亥二月初一日再校合了
(百十四)一交了　享保四年二月朔日於洛朔寶樹禪林源光精舍再校
(百十五)一交了　享保第四己亥春二月初一日於洛北寶樹名林沙門益淳謹再校合
右意趣者所求所願圓成圓滿爲也貞治五年極月廿四日心田僧書寫了
(百十六)一交了　享保四己亥二月初二日於洛北源光精舍再校了
(百十七)一校了　享保四己亥二月初二日洛北鷹峰寶樹禪林再校畢了
貞治三甲辰年九月廿五日結緣書寫之正四位下行神祇權大副

大中臣朝臣實直　願以此功德諸神三寶諸天十界群生殊二親々類有緣無緣衆生平等利益
(百十八)一校了　享保第四年二月二日於寶樹再校畢了
貞治三年八月十六日爲所願成就書寫了
(百十九)一校了　享保四年春二月於鷹峰寶樹再校了
貞治四年正月　日書寫了
(百二十)一交了　再校了　再校合畢
貞治四年閏九月八日任本書書寫畢
(百二十一)一交了
右筆當寮領小野山公文貞安法名肯宗書之
(百二十二)享保己亥中春朔旦於寶林重校了
(百二十八)一交了　享保己亥二月上旬再校合了
(百二十九・百三十は百二十八に同じ)
(百三十一)一交畢　二交畢
(百三十二より百三十九迄百三十一に同じく一校再校了を記す)
(百四十)一交了　享保四年四月廿六日重校了
(百四十一)一交了　享保四年四月廿七日重校了
(百四十二より百四十五迄右に同じ)
(百四十六)一交了　二交了
(百四十七より百五十四迄、百四十六に同じく一校重校了を記す)
(百五十五)本云延文二年抄龍黑月城南久我大明神社壇唐本申請右幕下重交合了　貞治四年二月十二日書之了則交合了　金剛佛子源觀
一交了　享保四年四月廿六日重校畢
(百五十六)一交畢　重校了
(百五十七)一交了　享保四年四月廿六日重校了
貞治第四曆蕤賓二九候終寫功畢所謂雖恥禿筆之拙不堪與善之志且又依一卷摸寫功力成二世安穩願望而已　是西法師歳廿
(百五十八)一交了　享保四年四月廿六日重校了
(百五十九)一交了　享保四年四月廿六日重校了
(百六十)貞治五年十一月十九日僧明全
一交了　享保四年四月廿六日重校了
(百六十一)一交了　再校了
(百六十二より百六十五迄、百六十二に同じ)
(百六十六)一交了　重交了
右志者無病自在身心安樂爲也　貞治六年三月十九日心田僧二十四歳書寫了
(百六十七)右意趣者爲無病自在身心安樂也　貞治六年丁未五月七日心田僧二十四歳敬白

享保第四己亥秋八月寶樹林某甲重校了
(百六十八)一交了
(百六十九)校了　重校了
右意趣者爲無病自在身心安樂也　貞治六年姑洗二十四日
心田僧二十四歳書寫了
(百七十)右志趣者爲身心安樂也心田僧二十四歳書寫了　貞治六
年丁未三月十六日書寫畢
一交畢　重校了
(百七十一)一交了　重校了
貞治五年十月廿一日書寫了
(百七十二)一校了　重校了
(百七十三)一交了　重校了　時享保第四己亥歳秋八月上弦寫
鹿峰僧某甲等於寶樹林竹窓下重校了
(百七十四)一交了　重交了
(百七十五)貞治五年十一月廿二日僧明全
一交了　重交了
(百七十六)一交畢　重校了
(百七十七)貞治五年十一月廿五日僧明全
一交了　重交畢
(百七十八)一交了　時享保三己亥秋寶樹林某甲僧重校了
(百七十九)一交了　重校畢
(百八十)一交了　重校畢
(百八十一)一校了　再校了
貞治四年二月廿五日爲結緣如形書寫了
(百八十二)貞治三季十月十九日廣隆寺住沙門覺舜
一校了　再校了
(百八十三)貞治四年乙巳正月廿三日於廣隆寺北室坊奉書寫畢
執筆阿闍梨盛舜
一校了　再校了
(百八十四)一校了　再校了
貞治第三之天仲冬下十之朝於廣隆寺北室坊同書寫畢阿闍
梨盛舜
(百八十五)一校了　再校了
(百八十六)一校了　再校了
(百八十七)貞治四季正月十九日廣隆寺住沙門覺舜
一校了　再校了
(百八十八)一校了　再校了
貞治第四之天乙巳上陽中旬之作於廣隆寺北室坊奉書寫畢右
筆阿闍梨覺舜
(百八十九)貞治三季十一月廿六日廣隆寺住覺舜
再校了
(百九十)貞治四暦乙巳之候仲春朔日之天於廣隆寺北室坊奉書

寫畢阿闍梨盛舜
一校了　再校了
(百九十一)享保四己亥年七月廿三日重校畢　一交了　重校了
(百九十四)一交了
(百九十五より百九十八迄、「一校了」)
(百九十九)一交了　再校了
(二百一)貞治第三甲辰八月七日奉書寫畢重阿敬白
享保四己亥孟冬朔旦再校了　一校了
(二百二)干時貞治第三甲辰八月十日奉書寫畢重阿敬白
享保四己亥孟冬朔旦再校了　一校了
(二百三)干時貞治三甲辰八月十三日奉書瀉畢重阿敬白
享保己亥孟冬朔旦再校了　一校了
(二百四)干時貞治第三甲辰八月十六日奉書瀉畢重阿敬白
享保己亥孟冬朔旦再校了　一校了
(二百五)干時貞治三甲辰年八月十八日奉書瀉畢重阿敬白
享保己亥孟冬朔旦再校了　一校合了
(二百六)干時貞治三甲辰八月廿四日奉書寫畢重阿
享保己亥孟冬朔晝再校了　一校了
(二百七)貞治第三甲辰八月廿七日奉書瀉畢重阿
享保己亥孟冬朔晝再校了　一校了
(二百八)干時貞治三甲辰九月二日奉書瀉畢重阿
享保己亥孟冬初二再校了　一校了
(二百九)干時貞治三年甲辰九月七日奉書瀉畢重阿
享保己亥孟冬初三日再校了　一校了
(二百十)干時貞治第三甲辰九月十一日奉書瀉畢重阿
享保己亥孟冬初三日再校了　一校了
(二百十一)貞治五年丙午歳六月十七日書瀉了　施主小野中村
禰祇
一校合了　享保己亥孟冬初八日再校了
(二百十二)享保四年重校了　一校了
干時貞治四年乙巳七月廿四日奉書瀉所也重阿　施主中村禰
祇
(二百十三)享保己亥孟冬初八日再校了　一校了
貞治五年丙午歳六月十七日奉書寫了　施主中村藤内三百内
(二百十四)享保己亥孟冬初八日再校了　奉加一校了
貞治五年丙午歳六月十七日奉書寫了　施主小野中村禰祇
(二百十五)貞治五年丙午六月十七日奉書寫了　施主中村禰
祇七百内
奉加一校了　享保四己亥十月吉日重校了
(二百十六)貞治五年丙午歳六月十七日奉書寫了　施主中村藤
内三百内
一校合了

(二百十七)貞治五年丙午六月十七日奉書寫了　施主中村藤内
三百内
奉一校了　享保四己亥十月初日重校了
(二百十八)奉一校合了　享保己亥孟冬初八日再校了
貞治五年丙午六月十七日奉書寫了　施主小野中村繡祇
(二百十九)貞治五年丙午六月十七日奉書寫了　施主小野中村
繡祇三百内
奉一校了
(二百二十)貞治五年丙午歲六月十七日書寫了　施主小野中村
繡祇
加一校了　享保四己亥十月初日重校了
(二百二十一)一交畢　享保己亥孟冬初三日再校了
(二百二十二)一交了　享保己亥孟冬初五日再校了
(二百二十三・四・五は二百二十二に同じ)
(二百二十六)右志意趣者爲子息臺丸至靈成佛也又發起菩提
心爲也心田僧二十四歲書寫了　貞治六年丁未卯月六日敬白
一交了　享保己亥孟冬初五日再校畢
(二百二十七)一交了　享保己亥孟冬初五日再校了
右意趣者爲無病自在身心安樂也僧心田二十四才　貞治六年丁未
七月七日書寫了
(二百二十八)一交了　享保己亥孟冬初五日再校了

右意趣者爲無病自在身心安樂也　貞治六年丁未卯月十五日
心田僧二十四歲書寫了
(二百二十九)一校　己酉應安第二林鐘下旬於山城國小野山居
染翰江湖散人比丘昌和　享保己亥孟冬初五日再校了
(二百三十)一交了　重校了
(二百三十一)一交了　享保己亥孟冬下八再校了
(二百三十二)右同
(二百三十三)一交了
(二百三十四)一交了　享保己亥孟冬下八再校了
貞治五年十一月十九日於西野照明禪寺万年山書之
(二百三十五)一交了　享保己亥孟冬下八再校了
(二百三十六)一交了　享保己亥孟冬下八再校了
貞治二三乙巳年卯月廿八日近江州於延福寺書了
(二百三十七)一交了　享保己亥孟冬下八再校了
(二百三十八)右同
(二百三十九)一交了
貞治四年乙巳卯月念六日
(二百四十)一交了　享保己亥孟冬下八日再校了
貞治三年十一月念五日浮雲流水之客書之
(二百四十一)一交了
貞治六年歲次丁未黃鐘上旬之候

(二百四十二)享保三年十月洛北寶樹林而重校了
貞治第六曆大呂下旬之候於高山寺觀海院奉書寫畢沙門實
慶
(二百四十三)一校了　享保四年己亥十月洛北寶樹林僧某甲重
校了
貞治第三歲爲結緣染老筆畢　願以此功德普及於一切我等
與衆生皆共成佛道自他法界平等利益　聖阿
(二百四十四)一校了　享保四年己亥十月洛北源光庵僧某甲等
重校畢
(二百四十六)重校畢　一校畢
貞治四年十二月廿三日書寫了右筆玄譽
(二百四十七)一校畢　享保己亥孟冬下八再校了
(二百四十八・九・五十、右同)
(二百五十一)一交了　享保己亥孟冬下七再校了
(二百五十二・三・四、右同)
(二百五十五)一交了　享保己亥孟冬下七再校了
貞治五年丙午五月　日
(二百五十六)一校了　享保己亥孟冬下七再校了
(二百五十七より二百六十迄、右同)
(二百六十一)一交畢　享保五庚子正月於應峰源光庵重校了
貞治三年十二月　日書寫了慶盛

(二百六十二)享保庚子正月於應峰源光庵重校了　二交了
貞治二二年二月六日書寫了慶盛
(二百六十三)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
(二百六十四・五・六、右同)
(二百六十七)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
備之後州牧牛　筑之前州性海
(二百六十八)一交畢　享保五年子正月下旬重校了
(二百六十九)一交了　筑之前州性海　備之後州牧牛　享保
五庚子正月下旬重校了
(二百七十)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
(二百七十一)校合了
(二百七十二)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
(二百七十三・四、右同)
(二百七十五)享保庚子正月下旬重校了　一交了
(二百七十六)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
右意趣者爲發起菩提心也心田僧二十四才書寫了　貞治六年丁
未四月三日
(二百七十七)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
(二百七十八)右同
(二百七十九)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
右意趣者令成就二世望并諸人使示爲乃至法界平等利益也

往來僧藏廿三書寫了　貞治第五霜月七日
(二百八十)一交了　享保五庚子正月下旬重校了
右志意趣爲一切所願皆人之滿足也　貞治六年丁未林鐘拾玖
日僧心田書寫了
(二百八十一)一交了　享保五庚子正月中旬重校了
貞治五年卯月十五日
(二百八十二)一交了　享保五庚子正月中旬
(二百八十三)一交畢　重校了　享保五年正月中旬
(二百八十四・五、右同)
(二百八十六)一交畢　重校了
(二百八十七)一交畢　重校了　享保五孟春下浣
(二百八十八)一交畢　重校了　享保五年正月下旬
(二百八十九)一交畢　重校了
(二百九十)一交畢　重校了　享保五年正月下旬
(二百九十一)一交畢　再校了
(二百九十二・三、右同)
(二百九十四)一交畢　重校了
貞治二二年四月五日書之了
(二百九十五)一交畢　重校了
(二百九十六)一交畢　重校了
貞治二二五月　日

(二百九十七)一交畢　重校了
(二百九十八・九、右同)
(三百)一交畢　享保五庚子正月下旬重校了
(三百一)一交了　享保五六月於洛北源光庵重校合焉
(三百二)一交畢　二校了
貞治四年乙巳五月廿二日善益書
(三百三)一交畢　又享保五年重校了
右意趣者爲乃至法界平等利益也　貞治六年丁未卯月廿六日
心田僧二十四歳敬白
(三百四)一交畢　重校了
右意趣者爲一切衆生平等利益也　貞治六丁未五月一日心田
僧二十四歳敬白
(三百五)貞治四年八月廿五日善益書寫同一交畢貞治二年八
月廿五日善益書
享保五年七月五日源光庵二交畢
(三百六)貞治二年乙巳九月十一日善益書
享保五年重校了　一交畢
(三百七)貞治二年乙巳九月十五日善益書
一交畢　重校了
(三百八)一交畢　再校畢
貞治二年乙巳九月廿三日善益書

(三百九)一交畢　享保庚子夏於北山源光禪庵重校合
貞治二年乙巳閏九月十二日善益書
(三百十)一交畢　享保庚子夏於寶樹林再校合了也
貞治二年閏九月廿四日善益書
(三百十一)一交畢　享保第五秋七月於源光精舍再校合
貞治第乙巳厝仲冬十七候於廣隆寺北室奉書寫畢右肇阿闍梨
盛舜
(三百十二)一交畢　重校畢
貞治第四乙巳年暮月之中旬於廣隆寺北室奉書寫畢阿闍梨盛
舜
(三百十三)一交畢　重校了
貞治五年二月四日於廣隆寺奉書寫畢
(三百十四)一交畢　重校了
(三百十五)一交畢　重校了
(三百十六)一交畢　享保庚子秋七月於源光精舍重校合了也
(三百十七)一交畢　重校了
(三百十八)一交畢　享保庚子秋七月上浣源光蘭若玄輔圖明校合
(三百十九)右意趣者無病自在身心安樂爲也心田僧二十四歳
貞治六年二月二十四日書寫了
一交畢　享保五初秋源光禪庵諸徒校合焉
(三百二十)貞治四年乙巳拾月五日廣隆寺住侶沙門覺舜

一交畢　享保庚子上秋上浣重校合之也
(三百二十一)一校畢　重校了
右志趣者爲天長地久御願成就也願主生年十九歳終寫功了
(三百二十二)貞治二年乙巳七月一日書寫了沙彌圓道(花押)
一校了　享保五庚子秋寶樹禪林諸徒重校合了
(三百二十三)以寫本一交了　享保庚子穐七月於源光庵重校
了圓明(花押)
于時貞治二年乙巳八月廿五日書寫了圓道(花押)
(三百二十四)貞治五年八月十八日終書寫之功者也執筆善越
州(列加)寺(花押)
一交畢　二交了
(三百二十五)一交畢　再校了
(三百二十六)貞治五年七月四日終書寫功了
一交畢　享保五秋於洛朝鷹峰寶樹林重校合了
(三百二十七)一交畢　重校了
(三百二十八)一交畢　重校了
(三百二十九)重校了
(三百三十)貞治二年乙巳九月廿三日書寫了圓道(花押)
以寫本一校了　重校了
(三百三十一)貞治四年乙巳六月廿五日於神護寺禪室爲結緣
書寫訖

享保五年庚子七月上旬鷹峰源光庵寓居僧靜水玄輔共重校
合焉願以此功德法界一切衆生成無上正眞道
貞治二年乙巳六月廿五日於神護寺禪室爲結緣書寫訖（梵字二）木寸

〈三百三十二〉重校了

〈三百三十三〉右意趣者爲所求所願圓成圓滿也　貞治五年臘月十七日心田僧書之
一交畢　享保第五秋重校合了加州沙門靜水記

〈三百三十四〉貞治五年丙午十二月十七日僧明全

〈三百三十五〉貞治四年乙巳五月廿五日於神護寺草庵書之訖
享保五年庚子七月上旬於鷹峰源光庵重校合靜水玄甫等校之
貞治四年乙巳五月廿五日於神護寺草庵書之訖（梵字署名）

〈三百三十六〉一交畢　享保五庚子重校
貞治五年丙午五月廿二日移之了（梵字二寸木）

〈三百三十七〉重校了

〈三百三十八〉貞治五年丙午大呂十四日僧明全
一交畢

〈三百三十九〉右意趣者所求所願圓成圓滿爲也　貞治五年臘月十五日心田書寫了
享保庚子上秋重校合了

〈三百四十〉一交畢　享保第五秋七月洛陽北山源光庵諸徒重校讎焉所希令法久住利益人天者也

〈三百四十一〉一交畢　重校了
貞治五年丙午十二月廿四日書寫了

〈三百四十二〉一交畢　重校乎

〈三百四十三〉一交畢　重校了
願以此一卷書寫之結緣遂彼見性成佛之望而已　貞治四年乙巳七月四日佛子觀尊

〈三百四十四〉重校畢

〈三百四十五〉一交畢　校合了

〈三百四十六〉一交畢　享保第五龍集庚子初秋六蜚重校合焉

〈三百四十七〉一交畢　重校了

〈三百四十八〉一交畢　重校了

〈三百四十九〉一交畢

〈三百五十〉一交畢　重校了
貞治五年十月二日於神護寺終寫功畢權少僧都詮忠

〈三百五十一〉貞治第四曆乙巳葉盡中旬終日雖惡筆爲後生菩提結緣奉令書寫者也右筆天台末學行敬廿三齡
一交畢　重校了

〈三百五十二〉貞治第四曆旃蒙大荒落中秋下旬之候薄暮雖爲惡筆爲
二親師匠逝主業後生菩提也右筆行敬行年廿三

一交畢　重校了

〈三百五十三〉一交畢　重校了
貞治四年十二月卅日終洛陽中御門西北町弊坊之書寫了依日迫甚剩失錯非一數可有賢察者也□□□□清行年四七

〈三百五十四〉一交畢　重校了

〈三百五十五より三百五十九迄、右同〉

〈三百六十〉近江國野州郡下中村鄉住矢嶋太郎左衛門尉行弘
法名宗源書寫之畢
一交畢　重校了

〈三百六十一〉享保五年子五月朝日於源光菴重校了

〈三百六十二〉享保五年子五月初日於源光庵重校了

〈三百六十三〉享保五年子五月初日於源光菴重校了

〈三百六十四〉享保五年子五月於源光庵重校了　一交畢

〈三百六十五〉一交畢　享保第五夏於洛北寶樹林了明二僧重校焉

〈三百六十六〉享保五年子五月於源光庵重校了　一交畢

〈三百六十七〉一交畢　享保五年子五月於源光菴重校了

〈三百六十八〉一交畢　享保五年子五月於源光菴重校畢

〈三百六十九〉校合了

〈三百七十〉貞治五年五月十九日明俊自筆也依有結緣悉不顧惡筆是之

享保第五中夏於洛陽北山重校焉

〈三百七十一〉右意趣者爲過去祖母成佛也　貞治六年五月四日心田僧二十四才敬白
一交畢　享保五子夏五朝旦鷹峰禪林再校合

〈三百七十二〉一交畢　重校畢

〈三百七十三〉重校畢
建暦元年七月晦日於伊州千戸寺書寫了願主文章生仲原盛兼右筆金剛佛子榮慶

〈三百七十四〉比叡山延暦寺東塔北谷虛空藏尾玉藏房
享保五年於洛北源光菴十七歳右筆覺徹重校了　一交畢

〈三百七十五〉重校畢　一交畢

〈三百七十六〉一交畢　重校畢
貞治五年丙午三月六日書寫了右筆天台宗徹

〈三百七十七〉貞治四年九月十二日書寫之願主敬白
一交畢

〈三百七十八〉貞治四年九月廿三日奉書寫了叡全
一校了　重校了

〈三百七十九〉一交畢　享保庚子夏五初三於洛北源光禪庵再校合畢

〈三百八十〉一交畢

〈三百八十一〉以寫本一交了　享保第五中夏鷹峰源光精舍再

校

貞治二年乙巳十月一日書寫了右筆圓道（花押）

（三百八十二）一校畢　享保庚子夏五吉旦於寶樹林重校了

應安二年五月中澣日雲月庵世燈書之

（三百八十四）一交畢　重校了

（三百八十五）一校了　重校了

貞治五年丙午卯月廿四日書寫了沙門圓道（花押）

（三百八十六）重校了　一校畢

（三百八十七・八・九・九十、右同）

（三百九十一）一交畢　洛陽鷹峰寶樹禪林重校合焉皆享保第五龍集庚子中夏梅雨天

（三百九十二）一校畢　重校了

（三百九十三）一校了

（三百九十四）重校了

（三百九十五）再校了也

（三百九十七）一交畢　重校了

（三百九十八・九、右同）

（四百）一交畢　享保第五庚子中夏洛北源光梵刹再校了

（四百一）校合了

（四百二）享保五年庚子十月二日夜鷹峰源光菴而　重校了

（四百三）校合畢

（四百四）享保五庚子秋九月三日源光庵而重校了

（四百五）重校了

（四百六）享保庚子冬源光庵校合了也

（四百七）重校了

（四百八）享保庚子初冬上浣源光禪菴小徒校合了

（四百九）重校了

（四百十）享保庚子冬校合焉

（四百十一）重校了

（四百十二）不及校了　一交了最舜　享保第五龍集庚子冬十月上浣洛陽北山源光精舍明杜多重校合了

（四百十三）享保五庚子十月五日夜於洛北鷹峰源光菴重校畢玄輔宗珊等誌　一交了

（四百十四）校合了　一交了

（四百十五）享保第五龍次庚子十月五日夜於源光菴重校了

一交了

（四百十六）享保庚子冬於源光禪菴校合了

（四百一十七）享保第五庚子十月六日於洛北鷹峰源光菴重校畢玄輔宗珊等誌　一交了

（四百十八）享保第五龍次庚子十月六菴於洛北鷹峰源光禪菴重校了　一交了

（四百十九）一交了　享保第五冬重校了

（四百二十）此御經ハ貞和五年己丑七月中旬奉迎修餝ハ九月上旬開白ハ十一月十日也檀那幸順

享保第五年冬十月初六日鷹峰源光菴重校合

（四百二十一）享保第五庚子十月七日於源光菴重校了

（四百二十二）一校畢　享保第五庚子冬於寶樹林重校合了也

（四百二十三）一交畢　享保五年冬十月初八日源光菴中重校之

貞治六年丁未正月十四日書寫之畢爲二親兄姉出離生死頓證菩提乃至法界平等利益頓寫畢右筆舜貞敬白

（四百二十四）一交畢　享保庚子冬寶樹林而再校合者也

爲先師並二親聖靈出離生死頓證菩提乃至法界平等利益書寫了　貞治五年九月二日執筆玄本

（四百二十五）享保五庚子十月於洛北源光菴玄輔宗珊等重校之

小野村兵庫宇右衛門並村中若干人損貲修補此經仰願法界衆生同圓種智者　一交畢

貞治六年丁未正月十七日書寫畢右筆舜貞　爲二親兄姉頓證菩提乃至法界平等利益所頓寫之也

（四百二十六）享保第五龍次庚子十月八日於源光菴重校了

一交畢

貞治六年丁未太歲六日僧明全

（四百二十七）貞治六年丁未太族十日僧明全

一交畢　享保第五星次庚子冬十月初八日於鷹峰源光禪庵重合焉

（四百二十八）貞治六年丁未太族十七日僧明全

一交畢　重校畢

（四百二十九）享保五庚子冬十月十日重校合焉了也

（四百三十）右意趣者爲無病安穩身心安樂也　貞治六年丁未正月十二日書寫畢心田僧

一交畢　享保第五庚子冬源光精舍重校合了

（四百三十一）享保第五庚子冬寶樹禪林重校合焉　一交了

（四百三十二）於源光菴重校了

（四百三十三）享保庚子冬十月再校合了

（四百三十四）享保五庚子十月於源光菴重校了　校了　最舜

（四百三十六）山城州小野邑所藏大般若六百卷軸者貞治年中幸順明全等書寫之畢享保年中於洛北鷹峰源光菴重校合焉且小野邑中信男信女捨財以卷本爲方壓經修補之願以此德法界衆同圓種智者

（四百三十七）於源光菴重校了

（四百三十八）享保五年庚子十月於源光菴重校了

（四百三十九）重校合了

（四百四十）重校了

(四百四十一)享保五庚子十月於源光菴重合畢
(四百四十二)享保第五年初冬重校了
(四百四十三)享保庚子冬安居日寓源光精舍明杜多再校合之者也
(四百四十四)享保庚子冬十月十七日於應峰源光禪菴重校合了
(四百四十五)享保五年十月下旬於源光菴重校了　一交了
右意趣者所求所願圓成圓滿爲也雲水客敬白　貞治五年霜月十四日
(四百四十六)享保五年十月下旬於源光菴重校了
(四百四十七)享保五年十月廿二日於源光菴重校畢
(四百四十八)重校了
(四百四十九)享保第五龍次庚子冬十月廿三日於源光菴玄輔重校了
(四百五十)一交畢　享保庚子冬於應峰寶樹林再校合焉
右志意趣者爲所願成願也雲水客敬白　貞治五年霜月十八日　書寫了
(四百六十一)重校了
(四百六十二より四百六十六迄、右同)
(四百六十七)建久元年十二月廿八日依恐鳥跡誹人奉書寫之般若第一教此經法讃者雖有重疊障必當得作佛砂門觀心重校了
(四百六十八)重校了
(四百六十九)重校了
(四百七十)假名沙門空舜書寫了　重校了
(四百七十一)重校了
(四百七十二より四百八十迄、右同)
(四百八十一)享保辛丑中春重校
(四百八十二)享保辛丑二月重校了
(四百八十三)重校合了
(四百八十四より四百九十迄、四百八十三に同じく再校重校の由を記す)
(四百九十一)貞治五季十月日
一交畢　重校了
(四百九十二)重校了
(四百九十三)貞治五季午九月日
一校畢　重校了
(四百九十五)重校了
(四百九十六)一交畢　重校了
(四百九十七)不及改也　建久元年十一月廿八日未時許書寫了求升僧願運重校了
(四百九十八)建久元年十一月十八日申刻許於全山院僧坊書

寫了偏是爲法界衆生皆成佛道也執筆沙門靜仁　如形不及改重校了
(四百九十九)重校了
(五百)一交畢　重校了　少林菴
(五百一)校合了
(五百二より五百四迄、右同)
(五百五)校合了　校了
(五百六)校了　重校了
(五百七)享保六年辛丑六月初三日校了　重校
(五百八)享保六年辛丑六月初三日校了於源光庵重校
(五百九)校了　享保六年歳次辛丑六月初三日於源光庵重校
(五百十)校合了
(五百十一)享保六歳舍辛丑夏奥州之産湛源校合焉
(五百十二)臺隨　永享庚申端月五日　惠崎之一花而筆畢
(五百十三)臺隨　似ハ信字古文　逸ハ退字古文　睜ハ眼字異　各不及改者歟　享保六年丑夏校合了
(五百十四)享保六歳次辛丑仲夏日　重校了　洛北源光精舍
(五百十五)享保第六丑次夏仲徇　再校終
(五百十六)臺隨書之　享保六辛巳年夏仲旬再校終
(五百十七)永享龍集癸丑十月八日書畢臺隨生年二十
享保丑五月日在源光禪庵校合了
(五百十八)永享五癸丑歳臘月十七日書畢釋氏臺隨壽二十
嚴角攸迫聊信禿鬼所趨恐有鼻魚刁刀之錯矣而已繙閲之次加點校正惟求　洛北之靈鷲精舍瑞竹南軒而筆終　享保六辛丑夏於應峰源光精舍校讎焉
(五百十九)永享五癸丑歳蟒月念三也臺隨生年二十
享保六辛丑夏於應峰源光精舍校之
(五百二十)永享龍集癸丑臘月念七日書畢臺隨行年二十
伏求繙看之比丘挾正加劃
譫ハ善ノイ字　逸ハ退ノイ字　耆ハ問ノイ字　似ハ信ノイ字　諸ハ諸ノイ字　又ハ必ノイ字　敏ハ般ノイ字　支ハ事ノイ字
披讀迫于暮景矣一一不及改云
享保六丑夏寶樹禪林諸徒校合了也
(五百二十一)貞治五年六月廿三日於東塔〔北〕谷虚空藏尾慈護房懇筆雖不無其憚依或仁所望書寫之畢夫台沙門忠憲
(花押)
重校了　一交畢
(五百二十二)貞治五年六月二日十八歳執筆覺徹比叡山延暦寺東塔〔北〕谷虚空藏尾玉藏房書寫了
一交畢　重校了
(五百二十三)一交畢　重校了

(五百二十四)貞治四年潤九月十三日右筆道存敬白
一交畢　重校了
(五百二十五)貞治四年潤九月八日右筆道存
一交畢　重校了
(五百二十六)貞治四年十二月十六日右筆道存
一交畢　重校了
(五百二十七)貞治四年十二月十五日右筆道存
一交畢　重校了
(五百二十八)貞治四年十二月廿一日右筆道存
一交畢　重校了
(五百二十九)貞治四年十二月十二日右筆道存
一交畢　重校了
(五百三十)貞治二二乙巳十月六日於東塔〔北〕谷虛空藏慈
護房書寫之畢執筆天台沙門忠憲(花押)
一交畢　重校了
(五百三十一)右志趣者爲身心安樂也心田僧敬白　貞治六年
正月十七日書寫了
一交畢　重校了
(五百三十二)重交畢　一交畢
(五百三十三)一交畢　一重終
(五百三十四)重校終
(五百三十五)一交了　重校終
(五百三十六)一交畢　重校終
(五百三十七)一交畢　重校合
(五百三十八)重校了
(五百三十九)享保六年歲次辛丑仲夏日重校終
(五百四十)右意趣者身心安樂爲也　貞治六年三月十八日心
田僧二十四歲
一交畢　享保六年辛丑仲夏日重校畢
(五百四十一)享保六辛丑年仲夏日重校終
(五百四十二・三、右同)
(五百四十五)校合了
(五百四十六・七、右同)
(五百四十八)享保六辛丑夏鷹峰寶樹林下肥州大曉伊州圓明
校合焉
(五百四十九)校合終
(五百五十一)重校了
(五百五十二)一交畢　重校了
右意趣者所求所願圓成圓滿爲也　貞治五年極月十九日心
田書了
(五百五十三)右意趣者所求所願圓成圓滿爲也　貞治五年十
二月二十五日書寫畢心田僧

一交畢　重校終
(五百五十四)右意趣者爲身心安樂也心田僧　貞治六年丁未正
月廿八日書寫了
一交畢　重校終
(五百五十五)校合終
(五百五十六)享保六辛丑夏洛北鷹峰在源光精舍校合畢也
(五百五十七)一交畢　享保六年辛丑仲夏在洛北源光禪庵校合
畢
右意趣者爲萬病消滅身心安樂也心田僧廿四歲也　貞治六年
丁未仲春三日書寫畢
(五百五十八)校合畢
(五百五十九)右意趣者爲無病自在身心安樂也心田僧二十四
才　貞治六年丁未中春拾貳日書寫
享保六年辛丑中夏在洛北鷹峰源光精舍校合終　一交畢
(五百六十)享保六年歲在辛丑六月十一日於源光庵重校　享
保丙午三月廿四日再校了
(五百六十二)享保六辛丑七月暮日在鷹峰源光精舍校合之
(五百六十三)享保六年七月廿一日　重校了
(五百六十四)右意趣者爲無病自在身心安樂也心田僧二十四
才　貞治六年丁未仲春十七日書寫畢
享保六年辛丑初秋在鷹峰源光精舍校合之
(五百六十五)享保六年七月廿一日
(五百六十六)右意趣者爲一切衆生平等利益也心田僧二十四
歲　貞治六年中春書寫了
一交畢　享保六年七月廿八日於源光精舍重校者也
(五百六十七)一校了
干時貞治六年丁未三月廿九日書寫了沙門圓道(花押)
享保六年七月廿二日於源光庵重校
(五百六十八)右志趣者爲身心安樂也　貞治六年丁未三月十三
日心田僧二十四歲
一交了　享保六年七月廿一日重校
(五百六十九)校合了
(五百七十)重校了
(五百七十一)享保六辛丑仲夏日在源光禪庵重校終　一交了
沙門陽實
(五百七十二)一交了　重校了
沙門陽實書寫
(五百七十三)重校了　一交畢
右意趣者爲不退菩提心也　貞治第六丁未姑洗廿八日心田僧
二十四歲
(五百七十四)校合了　一交了
沙門陽實

（五百七十五）校合了
（五百七十六）一交了
沙門隱實　享保六年辛丑夏在洛鷹峰源光精舍校合畢之
（五百七十七）校合了
（五百七十八）一交畢　重校了
右意趣者爲一切所願成就圓滿也　貞治六年丁未卯月廿二日
文明三年辛卯季春日於龍王寺南軒六百卷從頭一一修復畢功
矣小禁山下二村之公用也
（五百七十九）校合了
（五百八十）校合了
（五百八十一）一交畢　重校了
貞治五年四月廿六日於叡山東塔北谷虛空藏尾月家房書寫
之是偏爲利益群生無上菩提也奚隆圓
（五百八十二）一交畢　重校了
願以書寫力　無始造作罪　悉皆令消除　必生安樂國　貞
治四年巳歲九月十日寫功畢右筆良算
（五百八十三）重校了
（五百八十四）重校了
（五百八十五）一交畢　再校了
（五百八十六）一交了　享保六年秋七月廿二日再校了
貞六年（治）丁未十一月廿六日書寫了

（五百八十七）一交畢　重校了　草壁　貞安　入石
（五百八十八）於干鷹峰源光精舍校合畢之
（五百八十九）一交畢　再校了
（五百九十）一交畢　再校了
（五百九十一）重校了
（五百九十二）享保第六辛丑夏洛北鷹峰源光精舍校合畢之　詞二
僧是非
（五百九十四）校合了
（五百九十五）享保第七夏五十六蒙於源光精舍校合之
（五百九十六）享保六丑夏洛北寶林緇侶校合了
（五百九十七）校合了
（五百九十八）校合了
（五百九十九）重校了
（六百）文明三年辛卯暮春日於龍王寺之南簷下六百軸修復畢功
矣
此經貞治應安年間貴紳緇徒所薰沐敬寫後人共奉持之無汚
蔑自取佛詞云　昭和十一年歲次丙子二月廿八日花園晦宗
謹識
（貞治應安年間寫　文明三年全卷修復享保年中重校了）

大般若波羅蜜多經　春日版　闕十卷十帖　二四〇

折本淺黃表紙　八寸八分三寸一分　五行十七字、替題簽左肩
外題墨「以大般若波羅蜜多經卷第（卷數）」、「雜波町正光院」
奥書
（墨）（五十七）施主御野郡上伊福村世話人小野元一郎
見嶋定二　赤木八五郎
（百四十四）施主小野清平世話人（右同）
（百四十五）施主下市村世話人（右同）
（百八十九）（右同）
（二百七十六）願主宗印（刻）施主西大寺町雜波與四郎
（二百八十一）願主宗印（刻）施主世話人小野元一郎
（三百五十三）施主上出石町元雜波氏
（三百八十三）施主上出石町元雜波姓大願主有政（壓紙）
鹽田有政
見返し共の他
（五十七表紙見返し）備前國岡山一乘山般若寺良順房
（二百八十一本文裏）賀古河鹽田有政　文明拾八季三月日
播州賀古郡四天王寺
（五百九十九裏）播州鶴林寺願主鹽田有政
（第五十七・百四十四・百四十五・百五十四・百八十九・二百七十六・二百八十一・三百五十三・三百八十三・五百九十九の十卷、ヲコト點あり）

大般若波羅蜜多經　春日版　闕三卷　二四一

卷子本煙草色表紙（七寸五分）　八寸八分（七十二卷）二十七尺
六寸四分（三百三十卷）三十尺七分（四百六十九卷）二十九尺
十七字、題簽左肩墨「大般若經第（卷數）」
奥書
（墨）（七十二）弘安八年七月日願主橘乙女
（三百三十）一乘院（刊）校合畢（梵字四字）
（四百六十九）校合畢
（鎌倉時代刊、第七十二・三百三十・四百六十九の三卷、第
三百三十卷には附箋「三百三十一乘院」とあり）

大般若波羅蜜多經卷第三百四　寫　闕一帖　二四二

卷子本　八寸八分五尺一寸六分　有界天地六寸八分　十七字
奥書
自建久六年乙卯二月十六日至于同十九日四箇日之間於粟田口
房以法勝寺紺表紙御經願主當寺權都准那大法門重永六十四
手自所書寫也（花押）
同二月十九日以書本御經一交了僧長信
嘉禎三年正月一日奉信讀了覈賢爲臨終正念往生極樂也奉爲

山王法樂閻魔法王法樂也
嘉祐四年八月十一日奉信讀了敎賢爲臨終正念往生極樂也爲過去二親所直往生淨土也爲書寫願主往生淨土也法界衆生平等利益也　廻向法樂如前十六善神哀愍證明所願成就
（本文は第三百四卷末七十五行のみ）

大方廣佛華嚴經入法界品第卅九之廿一　寫　一卷　二四三

卷子本裏打代赭表紙（六寸七分）九寸〇分三十四尺三寸　有界天地七寸二分、十七字、題簽なし外題左肩「（方）廣佛華嚴經卷第八十」、「法隆寺一切經」
（法隆寺舊藏一切經中の一にして天平時代寫と推定）

大方廣佛華嚴經　寫　六十卷六十帖　二四四

蓮運筆、折本草模樣格子入杏色表紙　八寸四分三寸一分　有界四周單邊　五行十七字、題簽中央書名同
奥書
（第一）一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　干時永和四年戊午五月三日始之沙門蓮運卌二
（二）一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永和四年戊午五月十日北京流沙門蓮運卌二
（三）一交了
（永和）四年戊午五月十二日
（四）一交了
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永和四年戊午五月廿日沙門蓮運卌二
（五）永和四年戊午五月廿二日
交了
（六）永和四年戊午（五）月廿五日
一交了
（七）一交了　享保乙巳霜月日於鷹峰重校畢矣
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　干時永和四年戊午五月晦日沙門蓮運卌二
（八）一交了　享保乙巳中冬日於鷹峰源光庵重校了畢
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　永和四年戊午六月三日沙門蓮運卌二
（九）（八に同じ、但し永和四年戊午六月五日北京流蓮運卌二）
（十）（八に同じ、但し永和四年戊午六月十五日北京流蓮運卌二）
（十一）（八に同じ、但し壬戌永德二年六月廿八日蓮運卌六

享保十一丙午季秋於洛北鷹峰寶樹林源光庵重校了）
（十二）（前半八に同じ、書寫校正の記なし）
（十三）（前半右に同じ）永德壬戌二年七月九日蓮運卌六
享保十一丙午季秋於鷹峰源光庵重校了
（十四）（前半右に同じ）永德二年壬戌七月廿八日蓮運卌六
享保十一丙午季秋十有二日於洛北鷹峰源光精舍重校畢
（十五）一校了　享保十一丙午孟冬初八於鷹峰源光庵重校了
（十六）一校了　享保十一丙午京鷹峯於源光禪庵重校了者也
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也　干時永德二年壬戌八月五日蓮運卌六
（十七）一校了
（十八）一校了
右志者爲法界衆生皆令入佛道奉一筆書物也
（十九）重校了　一交了
永德二年八月九日
（二十）一交了　享保十一丙午季秋於洛北鷹峯源光庵重校也
右志者爲三界衆生皆令入佛道奉一筆書物也
（二十一）一交了　源光庵ニ而重校
右志者爲十方法界衆生七世父母成等正覺奉一筆書處也
永和四年十月十六日北京流蓮運生年卌二
（二十二）一交了
右志者爲法界衆生平等利益七世父母成等正覺奉一筆書處也　永和四年戊午十月廿一日北京流蓮運生年卌二
（二十三）交合了
右志者爲十方法界衆生七世父母成等正覺奉一筆書處也
永和四年戊午十月廿四日北京流蓮運生年卌二
（二十四）一交了　享保乙巳冬日於鷹峰草堂重校了畢
右志者爲法界衆生七世父母成等正覺一筆書處也　永和四年戊午十月十七日北京流蓮運生年卌二
（二十五）一交了　享保乙巳冬日於鷹峰重校了畢矣
右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證并奉一筆書處也　永和四年戊午十月晦日北京流蓮運生年卌二
（二十六）一交了　享保乙巳仲冬日於鷹峰草堂重校畢矣
右志者爲法界衆生殊七世父母成等正覺出離生死頓證并奉一筆書寫處也　永和四年戊午十一月三日北京流蓮運生年卌二
（二十七）一校了
右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死證大并奉一筆書處也　永和四年戊午十一月十三日北京流蓮運生年卌二
（二十八）一交了　享保乙巳冬日於鷹峰重校了畢矣
右志者爲法界衆生平等利益七世父母成等正覺奉一筆書處也　永和四年戊午十一月七日北京流蓮運生年卌二
（二十九）一交了　重校　享保十一丙午晩春於鷹峰源光庵功

成右志者爲法界衆生平等利益殊七世父母成等正覺奉一筆書處也　永和戊午四年十一月十六日北京流運運生年卅二

(三十)一交了

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死證大并奉一筆書寫處也　永和戊午四年十一月十八日北京流運運生年卅二

(三十一)一校了　享保丙午春晩於鷹峰源光菴重交了畢矣

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證并奉一筆書處也　永和戊午四年十一月廿六日北京流運運生年卅二

(三十二)交合了　享保丙午春晩於鷹峰源光庵重校了畢焉

右志者爲三界衆生七世父母草木國土悉皆成佛道奉一筆書處也　永和戊午四年十一月廿八日北京流運運卅二

(三十三)一交了　享保丙午春晩於鷹峰源光禪寺重校了畢焉

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺奉一筆書處也　永和戊午四年十一月晦日北京流運運生年卅二

(三十四)一交了　享保丙午晩春於鷹場源光禪寺重校了畢

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死證大并奉一筆書處也　永和戊午四年十二月三日北京流運運生年卅二

(三十五)一交了

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證并奉一筆處也　永和戊午四年十二月六日北京流運運生年卅二

(三十六)一交了　享保丙午春晩於鷹峰源光精藍重校了畢焉

右志者爲法界衆生七世父母平等利益奉一筆書寫處也　永和戊午四年十二月十日北京流運運生年卅二

(三十七)一交了　享保丙午鷹峰之於源光禪舍校重此者也

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證并奉一筆書處也　永和戊午四年十二月十二日北京流運運生年卅二

(三十八)一交了　享保丙午十一鷹峰於源光菴重校之

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證并奉一筆書寫處也　永和戊午四年十二月十六日運運生年卅二

(三十九)一校了　享保十一丙丁歲晩春於鷹峰源光庵重校畢

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死諸大并奉一筆書處也　永和戊午四年十二月十九日運運

(四十)一交了

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證并往生極樂奉一筆書處也　永和戊午四年十二月廿二日運運

(四十一)一交了

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證并奉一筆書處也　永和戊午四年十二月廿九日運運生年卅二

(四十二)一交了　享保十一丙午歲春晩於鷹峰源光庵重校了畢也

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺奉一筆書寫處也　永和己未五年二月六日北京流運運生年卅二

(四十三)一交了　重校　享保十一丙午歲春晩於鷹峰源光庵功成焉者也

右志者爲三界衆生七世父母出離生死往生極樂奉一筆書處也　永和己未五年二月十三日北京流運運生年卅二

(四十四)一交了　重校　享保十一丙午春晩於鷹峰源光庵功成焉者也

右志者爲法界衆生七世父母成等正覺奉一筆書處也　永和己未五年二月十九日北京流運運卅三

(四十五)一交了　享保丙午晩春鷹峰之於源光禪舍重校之者也

右志者爲三界衆生七世父母成等正覺出離生死頓證菩提奉一筆書處也　永和己未五年三月十日北京流運運生年卅三

(四十六)一交了　享保丙午洛北鷹峰之於源光庵重校之

右志者爲三界衆生七世父母成等正覺出離生死往生極樂奉一筆書處也　永和己未五年三月十三日北京流運運生年卅三

(四十七)一交了　享保十一丙午三月二十九日重校于洛北鷹峰寶樹林源光菴者矣

右志者爲三界衆生七世父母頓證菩提往生極樂奉一筆書寫處也　永和己未五年三月十五日北京流運運生年卅三

(四十八)一交了　享保丙午十一於鷹峰源光禪房重校之

右志者爲三界衆生七世父母奉一筆書寫處也　永和己未五年三月十八日北京流運運生年卅三

(四十九)一交了　享保丙午四月　日重校于鷹峰源光禪師

右志者爲三界衆生七世父母往生極樂奉一筆書處也　永和己未五年三月廿日北京流運運生年卅三

(五十)一校了　享保丙午十一鷹峰於源光禪舍重校之

右志者爲三界衆生七世父母往生極樂奉一筆書寫處也　永和己未五年三月廿二日北京流運運生年卅三

(五十一)一交了　享保十一丙午三月廿五日於洛北鷹峰源光精舍化城軍益淳焚香重校

右志者爲法界衆生七世父母也　康曆己未元年卯月六日北京流運運生年卅三

(五十二)一交了　享保十一丙午四月朔日重校于源光精舍

右志者爲三界衆生七世父母也　永和己未五年卯月八日北京流運運生年卅三

(五十三)一交了　享保丙午四月日重校于鷹峰源光菴

右志者爲三界衆生七世父母也　康曆己未元年卯月十日北京流運運生年卅三

(五十四)一交了　享保丙午十一於鷹峰源光禪舍重校

此右志者爲法界衆生七世父母成等正覺奉一筆書寫處也

康曆己未元年卯月十二日北京流運運卅三

(五十五)一交了　享保丙午春盡日於鷹場源光禪寺重校焉某記

右志者爲三界衆生奉一筆書寫處也　康暦己未元年卯月十四日北京流運運

（五十六）一交了享保丙午孟夏朔於應峰源光寺重校焉

右志者爲三界衆生成等正覺奉一筆書處也　康暦己未元年卯月十六日北京流運運冊三

（五十七）一交了　享保丙午夏初於應峰源光寺重校

康暦己未元年卯月十八日北京流運運冊三

（五十八）一交了　享保丙午四月日重校于應峰源光禪師

右志者爲三界衆生生成佛奉一筆書處也　康暦己未元年卯月廿日北京流運運冊三

（五十九）一交了　享保丙午四月日重校于應峰源光禪師

右志者爲三界衆生成佛奉一筆書處也　康暦己未元年卯月廿一日北京流運運冊三

（六〇）一校了　重校　享保十一丙午晩春於應峰源光庵功成焉者也

右志者爲三界衆生皆共成佛道奉一筆書處也　康暦己未元年卯月廿三日北京流運運冊三

此經永和康暦年間沙門運運所煮沐敬寫後人共奉持之無汚蔑自取佛罰云昭和十一年歳次丙子二月二十八日花園晦宗謹識

（永和四五年の間僧運運筆享保年中重校了、前遠同裝の大般若波羅蜜多、涅槃二經と共に洛北應峰源光庵に納められたりしもの）

大方廣佛華嚴經卷第十六　寫　一帖　二四五

折本木板表紙　九寸五分七寸五分　廿一折　有界四周單邊七寸六分七寸三分　十二行十七字、題簽なし

（明代の寫にかゝり、もと卷子本を改裝せしかと思はる、內題下に「章二十一紙大和寺國藏」と）

大方等大集經月藏分中諸阿修羅詣佛諸品第三　燉煌經　寫　一卷　二四六

卷子本別の寫經にて裏打原軸存表紙なし　八寸四分二十四尺二寸六分　界紙天地六寸四分　十七字、題簽なし、「淨土寺藏經」

（唐代寫所謂燉煌經、奥書なくして彩色佛像畫存す）

大寶積經卷第一百七　宋版　一帖　二四七

宋版經式紺色包表紙　九寸六分三寸七分　三十二折　天地單邊八寸二分　一折六行十七字、題簽なし外題中央金泥「以大寶積經卷第一百七　文」　柱心文一百七卷（板數）林國華・陳孟・安撫賈侍郎捨俊・泉州施主捨・賓・正・十鄭客爲妣翁二娘

捨

刊記

勾當僧集成崇信慧隆　勸首生持傳法慧空大師沖眞　請主恭知政事元綽

（宋版一切經東禪寺版の一、「福州東禪經生陳宥印造」、柱心下に刻せしは施主の名なり）

大莊嚴經論　宋版　闕二卷二帖　二四八

宋版經式紺色包表紙　九寸六分三寸七分　天地單邊八寸七分　一折六行十七字、題簽なし外題中央金泥「以莊嚴經論卷第（卷數）君」　柱心君（卷數板數）案平

刊記

（二卷末）詳對經弟子黃端　詳對經沙門道鄭　都檢校經板沙門契璋　同勾當住聖泉寺傳法沙門紹登　同勸緣住光化賜紫眞覺大師仁遜

（卷第二第十の二卷、宋版一切經東禪寺版の一、序に云ふ「福州東禪等覺院住持傳法賜紫智華沙門契璋等謹募衆緣恭爲今上皇帝太皇太后皇太后祝延聖壽國泰民安開鏤大藏經印板一副計五百餘函元祐九年三月日謹題」「福州東禪經生邦保印造」）

陀羅尼　四枚　二四九

原裝葉花模樣入布山吹茶表紙模樣に用ひし厚金箔嵌在す　一寸八分

（天平寶字八年百萬塔中に納めし陀羅尼、根本陀羅尼・自心陀羅尼・相輪陀羅尼・六度陀羅尼の四種）

金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大敎王經卷第三　根來版　一卷　二五〇

卷子本代赭色表紙（七寸五分）　九寸四分二十四尺八寸六分十七字、題簽なし外題左肩墨「金剛頂大敎王經卷第三」

刊記

應永廿四年十月廿七日大傳法院惠淳

（返點ヲコト點振假名を附す）

妙法蓮華經　七卷一帖　二五一

折本灰色表紙　六寸七分二寸九分　九十七折半　界紙天地六寸二分　十二行三十三字、替題簽中央書名同

刊記

奉納報恩藏千部之內也

これは人丸赤人を始たてまつり萬の冥仙は申に及はす過去現在未來の歌よみ連歌俳諧に至まて此敷島の道に心をよする一切の貴賤上下道俗男女殊には曆か御恩を蒙りし登師連

の菩提皆具成佛の御爲也　南無三寶諸天善神　慶安三稔庚寅正月廿八日長頭丸敬白

（長頭丸松永貞德刊する所）

妙法蓮華經勸持品第十三斷簡

寫　二枚　二五二

紫紙金泥鑞紙天地六寸八分界紙　全五十七行十七字

（天平書寫と推定）

四諦論卷第二　宋版　一帖　二五三

建中靖國元年十二月日序、宋版式鳶色紙包表紙　九寸六寸三寸八分　四十三折　天地單邊八寸　一折六行十七字、題簽なし外題中央墨「以四諦論卷第二渭」　柱心渭四諦二（板數）

刊記

詳對經弟子黃端　同詳勘經沙門元興寫比禹　都勾當藏主沙門靈肇

（宋版一切經東禪寺版中の一、序云「福州東禪等覺禪院收諸方印經板頭錢恭爲今上皇帝祝延聖壽闔郡官僚同資祿位彫造大藏經印板計五百餘函時建中靖國元年十二月日謹題」、「福州東禪經生何嗣印造」）

諸品積呪經　活字　二卷一冊　二五四

葉綴緞子張板表紙共上を唐草牡丹飛龍模樣ある三枚の緞子にて覆ふ　七寸七分二尺三寸八分　三百五十二丁　一丁三十一行　二圖別に畫一丁、題簽なし外題表紙彩色雙佛像間金泥蒙文字（活字蒙文經、表に上卷裏に下卷を印刷、清代官製のものなるべし）

成唯識論　春日版　十卷　二五五

卷子本焦茶に銀線を配せし表紙　綴各卷八寸內外、題簽卷五六・八・九存左肩外題墨書名同

書入

（五卷末）模寫明詮僧都（一字不明）本安和元年十一月十六日點此品了興福寺僧眞興

元仁二年五月三日移點了　道略抄了　沙門能舜

弘長三年癸亥三月廿九日於東菩提院井房移點此品了　興福寺沙門尊英

同廿九日卅日・校了

（六卷末）應永廿一年戊午八月廿九日　相模也善定法師春（好）

（九卷末）大和南都興福寺極樂院住持比丘高順堯珠相傳也

（推定鎌倉時代刊、チコト點附）

釋摩訶衍論　高野版　十卷十冊　二五六

胡蝶裝落葉色表紙　八寸〇分五寸二分　六行十七字、題簽なし外題左肩墨書名同　柱心論、「慧龍」

刊記

（五卷末）比丘普觀回施長財開論板一卷追薦師祖佛母禪師先師嘉會和尙　先禀神鑒法師　先禀妙空華嚴和尙各超登佛地

（十卷末）酬四恩之廣德興三寶之妙道此吾願也云云加之竊窺密鑽仰之窓徒疲書寫校合之勞漬既疎千文義暗誦之學業因玆且奉守　高祖之遺誡且爲扶末學之稽古謹開卯板敬報祖德矣

于時建長八年二月　日　高野山金剛佛子快賢

（讀法上の朱を加へたる多し）

○

聲明集　寫　闕一卷　二五七

卷子本軸なし表紙（七寸四分）八寸七分二十七尺一寸、題簽なし外題左肩「聲名集諸讃共兩軸」

（一卷缺、內容、四智讃・心略讃・四波羅蜜讃・金剛薩埵讃・金剛寶讃・金剛法讃・金剛業讃・吉慶梵語讃・吉慶漢語讃・四智漢語讃・心略漢語讃・佛讃・阿彌陀讃・文殊讃・不動讃・孔雀經讃・天龍八部讃、推定鎌倉中期寫、紙背並びに行間字句及び發聲技術に關する書込、朱の音點及び墨朱の節譜を附す）

聲明集　高野版　一冊　二五八

粘綴煙色表紙　五寸〇分五寸〇分　八十丁　四行、（表紙右下隅）「釋清因」（墨）

（音譜附の梵唄集にして吉野朝室町初期刊と推定、墨朱書入あり、表紙左肩墨「魚山」）

○

三國佛法傳通緣起　古活字本　三卷一冊　二五九

凝然著、和裝綴改裝合綴　九寸二分六寸一分　計六十二丁

（上二十二中二十一下十九）四周雙邊七寸四分五寸三分　十行二十字、題簽剝脫　柱心三國傳起、藏書印四

（應永己卯年正月日の奥書刻されあれど前本のものにして慶長年中刊と推定—古活字版之研究—末に「寶曆九己卯秋九月歸之京師此本乃應永年月所と印之舊物也」、「カナヨミノ目錄ノサノ部ニ村上板トアリ云々」（朱）などあり、墨朱句讀訓點等書入多し）

諸家鐵槌論　五卷一冊　二六〇

白眼居士著「貞享第四龍集南紀住白眼居士」自序　貞享四丁卯夏五月廿八日端什跋、和袋綴合綴菊花壽字模樣灰色表紙七寸四分五寸四分　四周單邊六寸四分四寸八分　十一行、題簽左肩剝脫　柱心鐵槌

刊記

貞享四年六月吉日　攝州道八梓

（日本各宗派の傳來發生流行所說を論評す）

諸宗評判記　三卷三冊　二六一

和袋綴黑表紙　三寸七分五寸五分　四周單邊二寸九分四寸五分　十一行約十五字　上（二圖四頁分）中下なし、題簽左肩白紙雙邊書名同但上卷替題簽左肩墨「諸宗評判記全三冊」、「寺田實圖書印」其他二

刊記

天保四年癸巳正月吉日　並木與兵衛藏板

（挿畫には「木のまた小平正月二日初夢を見る所」、「諸宗を賴光山入に見立たる圖」と說明、內容德川文藝類聚第十二卷所收）

○

末法燈明記　古活字本　一冊　二六二

最澄著、和袋綴改裝裏打三方裁斷　八寸五分六寸三分　九丁四周單邊七寸五分五寸二分　十行二十字、題簽なし外題中央墨書名同　柱心末法燈明記、（外題左右下）「沙門」「賢俊」

（裏表紙中央同筆）「慈惠大師守護處」舊藏者の居所名なるべし

（傳敎大師全集第三所收本の對校本イに等し、元和頃の叡山版と推定、墨書訓點）

○

醍醐寺代々付法事　寫　一冊　二六三

隆勝筆、和袋綴共表紙　八寸三分五寸七分　十六丁（表紙共）、題簽なし外題左肩「醍醐寺代々付法事建長七年樓會料遺遍照院」

奧書

已上三四代各名譽不恥中古靈德雖被當時近世眼前人々ナレハ舉其德行一　還可有愃就中於成賢僧正建壇修法八十餘ヶ度之內護摩并私修法除之　修大法十四五ヶ度也每度有驗霊賞高祖弘法大師記云建壇修法五十一ヶ度云々恐越于祖師權跡一歟太上天皇爲御師範奉授无量壽導法又是一宗之負目世上之美談而已

建長七年樓會延年遍照院法印導海結構之爲若背狂物等之才學一門師資之德行可往拾之旨座主實深法印示遺之間竊馳筆令草以俊譽アサリ淸書遺之畢　盛覺アサリ書遺之哉イ本隆士在御判

以報僧正慈深御草本書之隆—御

以尺迦院僧正御自筆本書寫云々

明德元年庚午四月廿七日法印權大僧都隆宥印報恩院拾授僧正書深御草尤可令秘藏者也

（醍醐代々の大修法の記事、末に小野六流廣澤六流の事見ゆ室町末の寫、裏は永正貳年十月五日賦山何連歌　永正參年極月五日賦朝何連歌の斷片なり）

十住心論　高野版　十卷十冊　二六四

空海著、兩面摺心貼り唐草模樣入金銀泥橫引表紙　八寸二分五寸〇分　界紙天地六寸九分　六行十七字、題簽なし外題中央墨「住心論第（一—十）」內題「秘密曼荼羅十住心論」

奧書（刻）

（一卷）建長七年乙卯臘月之日高野山檢校執行法橋上人位賢眞

（五卷）爲證彼三點四德之妙果正開此十住第五之印板檢行執行理俊

（六卷）正嘉三年三月之日高野山快賢

（八卷）爲證彼三身万德之妙果正開此十住第八之印板檢校執行惠深

（九卷）爲證彼三身万德之妙果正開此十住第九之印板檢校執行眞弁

（十卷）酬四恩之廣德興三寶之妙道此吾願也云云仍謹開印板矣建長六年甲寅六月一日金剛峯寺阿闍梨快賢

（墨假名入）

建久二年御修法記　寫　一卷　二六五

經譽筆、卷子本裏打　九寸二分十二尺八寸二分　界紙天地七寸三分　十七字

奧書

建久九年臘月四日寫之求法沙門賢賢

仁治三年八月一日賜酉酉僧正御房御本書寫了　權少僧都定淸

正安四年仲春八日於香隆寺禪庵書寫了　權少僧都經譽

（建久二年十二月十四日より三七日間後白河院御惱平癒のため六條殿にて行はれし增益御修法の次第模樣を記し、次に勝賢の駄都秘決をしるしその末に「建久五年二月比得之」として註らしきを數行附す）

○

淨土宗名目　古活字本　二卷二冊　二六六

證慧著、和袋綴栗皮色表紙　九寸三分六寸四分　有界四周雙邊七寸〇分五寸一分　八行十七字、題簽なし外題左肩墨書名同　柱心淨土、「桃木書院藏」「長命寺」（墨）「幻休常住物」（墨）「白鳥長命寺安勝和尙也」（墨）は藏印の注なるべし

（「淨土教古活字版圖錄一七」に同じ、德川初期刊とすべし）

〇

佛果圜悟禪師碧巖錄　五山版　十卷六冊　二六七

圜悟（宋）著、和袋綴改裝　九寸七分六寸八分　有界四周雙邊五寸八分三寸七分　十一行三十一字、題簽なし　柱心碧岩、「但馬國養父郡糸井村光福寺」

原紙

（上部横書）宗門第一書　（中央）圜悟碧巖集（左右廓外）「杭州北橋北街東嶋中張氏書隱印行」「（破損・山城州西京妙心禪寺內正眼庵新刊

（張氏書隱印行本の妙心寺重刊、後來我が國刊本の原本なり）

大慧禪師法語　宋版　闕二卷二帖　二六八

宗杲（宋）著「徑山能仁禪院住持嗣法慧日禪師蘊上進」の序、宋版經式紺色包表紙　九寸五分四寸〇分　天地單邊七寸九分六行十七字、題簽なし外題中央金泥「大慧禪師法語卷第（卷數）寔」柱心（二十四）「寔四卷　板數」震・方（二十五）「寔五卷　板數」英・李

（宋版一切經東禪寺版の一、「福州東禪經生王惠印造」）

四部錄　古活字本　一冊　二六九

和袋綴朱茶色表紙　九寸〇分六寸二分　二十五丁　八行十七字、題簽左肩間似合紙墨書名同　柱心禪師信、證道歌、十牛（坐禪儀は丁數のみ）

（三祖鑑智禪師信心銘三丁、永嘉眞覺大師證道歌七丁、十牛圖十二丁、坐禪儀三丁、十牛圖は圜中にあり道歌を墨書加筆せり、慶長年間刊と推定、所々訓點あり、三丁裏墨「此四部書近來雖有板行字畫不正倭點多誤方令求善本以錄于梓請見者識之旨寛永八年辛未歲夏五吉旦四條京極時心堂親刊」は寛永八年刊本による補なり）

禪林類聚　五山版　二十卷二十冊　二七〇

道泰（元）等編、和袋綴經表紙　八寸四分五寸四分　有界三周單邊一邊雙六寸四分四寸二分　十二行二十二字、題簽左肩剝脫　柱心類聚、「盛嚴寺」（墨）其他一

刊記

（一卷目錄終）孟棨刊施　〇貞治六年丁未解制日幹緣僧希杲重刊京臨川寺

（貞治六年臨川寺版の陳孟棨による補刻本、柱心卷一卷二には「壹貫文大虛和尙」「弐貫文昌山」等助緣の人々の出資を刻す）

禪林類聚　古活字本　二十卷四冊　二七一

道泰（元）等編、和袋綴改裝裏打上下裁斷　九寸三分六寸五分　四周單邊七寸六分五寸五分　十行三十二字、替題簽左肩外題なし　柱心禪林

刊記

於洛陽高臺寺

（無刊記、推定慶長年間高臺寺版　慶長十八癸丑菊月吉辰刊本と字配同、大日本續藏經所收本と同じくて禪林拔類聚なり、各卷表紙見返し「爲眞運社諦譽聞良上人也」（墨）二冊目見返し「主勝國拜」（墨）とあり）

破提宇子　一冊　二七二

キリスト教

ハビアン（Fabian）著　干ゝ時元和六年庚申孟春既望江湖野子好庵謾目是爲序」の序、和袋綴改裝　四寸六分六寸三分　五十八丁、四周單邊三寸八分五寸三分　十行、替題簽左肩白紙墨書名同、「滋和助」其他二

刊記

元和六庚申孟春　ハビアン誌之

（內容は續々群書類從第十二等所收）

鬼理志端破却論傳卷下　一冊　二七三

鈴井正三著　淺井了意編　洛下野夫瓢水子序、和袋綴亂模樣黑表紙　八寸八分五寸九分　二十九丁　四周雙邊七寸二分五寸二分　十一行、題簽左肩「破鬼理至端」　柱心破却

刊記

山田市郎兵衞

（鬼理志端破却論傳中卷後部鈴木正三に關する部分「かくてのち」より以下を序とす、柱心破却序の序は入木、論傳下を木文とせし後刷改題本なり、序の瓢水子は淺井了意、寛文十年以前刊なるべし）

破吉利支丹　一冊　二七四

鈴井正三著、和袋綴格子模樣入薄經表紙　八寸二分六寸一分

十二丁、四周單邊七寸三分五寸五分　十二行、題簽左肩破損
柱心破吉利
（寛文二年刊の後刷）

夢醒眞論　一冊　二七五

貞方良助（歸正痴士）著　明治二年三月自跋、和袋綴改裝裁斷　七寸五分五寸九分　十七丁　四周單邊六寸三分四寸九分十行、題簽左肩外題なし　柱心夢醒眞論
見返し
明治二歳次己巳季春（以下破損）夢醒眞論　歸正痴士撰
（貞方良助自筆版下上海にて出刊　内容明治文化全集第十一卷所收）

○

後婆通志與　一冊　二七六

Petitjean, Bernard編、和裝附表紙　七寸九分五寸三分　四十四頁　三周單邊天雙邊六寸六分四寸三分　十行、題簽なし外題原表紙印刷「御苦難所之略」
見返し（原表紙）
御出世以來一千八百七十三年　日本明治六癸酉　後婆通志與　司教　へるなると

こんちりさんのりやく　寫　一冊　二七七

撚糸袋綴共表紙　八寸六分六寸二分　四十九丁（中白紙二）、題簽なし
書込
（表紙裏）御出せい以來千六百三年　こんちりさんのりやく
慶長八年下旬四月
（潜伏キリシタンの竊かに轉寫傳承せしものなり）

玫瑰花冠記錄　一冊　二七八

Juan de Rueda編、洋裝厚紙白表紙　八寸七分六寸六分　百二十九頁（中序一目三）四周單邊七寸五分五寸六分　十七行十六圖、替題簽左肩唐紙墨「玫瑰花」
（元和九年原著者がマニラにて邦譯上梓せるを、明治二年ブチジャン(Petitjean, Bernard) 司教の上海にて飜刻せしもの）

聖教初學要理　一冊　二七九

伯多祿（Petro Maria）著、和袋綴改裝　七寸五分五寸二分　八十三丁　四周單邊六寸〇分四寸五分　十行二十字、題簽なし　内題「天主教傳來序說」柱心初學要理
見返し

費畧降生壹千八百七十七年再版　聖教初學要理　日本司教伯多祿准
（東北區にて著者の刊行せしもの、初版未詳、從來明治十三年三版本をもつてしらる、見返しの年は明治十年にあたる）

聖教初學要理　四卷一冊　二八〇

Petitjean, Bernard編、和袋綴菊花紋壓出模樣瓶覗色表紙　七寸六分五寸八分　七十四丁（中序一目一卷一、八卷二、十二卷三、二十四卷四、二十八）四周單邊六寸二分四寸七分　十二行、内題「聖教初學要理」柱心聖教初學要理
見返し
御出世以來千八百六十九年　明治二己巳八月再板を許す
聖教初學要理　日本司教　へるなると
（明治元年長崎教會刊行の第二版　同所刊石版）

聖教初學要理　一冊　二八一

Petitjean, Bernard編、洋裝納戸鼠色表紙　七寸四分五寸〇分　百六十二頁　四周單邊五寸八分三寸九分　十行二十字、内題「天主教傳來序說」
見返し
費畧降生壹千八百七十五載録　聖教初學要理信經之解全冊　大日本司教べるなると准
（東北區刊行系本書名の第一版、「天地開闢より」より始まる見返しの年は明治八年、同十年十二年の後刷あり）

○

〔新譯聖書〕　一冊　二八二

Brown, Nathan譯、英文序一頁表二頁凡例一頁　洋裝皮表紙　一千十一頁、扉文字 "Cinyaku Zencio/New Testament," "Ex-Libris Hayashi"
扉紙
われらのすくひぬしきみゐすきりすとの志無也久世意志與、きりすとより一千八百七十九ねんめいぢ十二ねん
The New Testament/in Vernacular Japanese/ from the Oldest Existing Greek Manuscripts,/ with/interlinear notices of various readings.By Nathan Brown. Yokohama/1879
（本邦最初の新譯聖書）

○

路加傳福音書　一冊　二八三

Bettelheim譯、唐袋綴薄檜皮色表紙用紙唐紙　九寸九分七寸〇分　九十九丁　四周雙邊七寸四分五寸八分、柱心新約全書

路加傳福音書、一藏書印あり
扉
乙卯年鐫路加傳福音書往普天下傳福音與万民（書入）英人ベットロハエモン註
（ベッテルハイムの安政二年香港版、書入あり）

約翰福音之傳　一冊　二八四

Gutzlaff, Karl. F. A. 譯、唐袋綴改裝用紙唐紙原裝釘紙撚綴　九寸一分六寸一分　六十丁　四周雙邊六寸六分四寸九分　七行
題簽なし、柱心約翰之福音傳
扉
新嘉坡堅夏書院藏板　約翰福音之傳　善德纂
（邦譯最初の福音書）

○

再刻とが除き規則　一冊　二八五

Petitjean, Bernard 編　御出世以來千八百六十九年明治二巳巳二月下旬　日本主教へるなると題言、和袋綴改裝　七寸六分五寸八分　二十五丁　四周單邊六寸二分四寸八分　十二行、
原題簽雙邊「校正再刻　科除規則完」　內題「とが除き規則」柱心「とが除き規則」
扉
校正再刻とかのぞき規則
（內容明治文化全集第十一卷海表叢書第一等所收）

○

契利斯督記　寫三卷三冊　二八六

井上筑後守北條安房守著、太田方（全齋）編　寛政九年編者序、和袋綴肌色表紙　八寸六分六寸二分　四周單邊六寸九分五寸四分　十一行、替題簽左肩墨書名同、「伊東家藏」
（本書は「契利斯督記」に附するに「第廿三品々ノ學文ノ古文」十一枚太田方が朱雲龍著「率性脩道」を要約せるもの五枚を加へて中篇とし、猶下卷には雪窻宗崔著（對治邪執論）二十六枚「曆模篇」八枚及び「切支丹類族ころびの譯」一枚を以てす、なほ中篇此の餘部以下は太田方自筆の如し）

息距編　寫　闕四卷四冊　二八七

水戸藩編「万延元年庚申某月昭訓謹書時年十有三」の序、和袋綴黃表紙　七寸七分五寸三分　十行、題簽左肩「息距編元（亨利貞）」、「岡田正之」
（水戸藩所藏原本の寫しにして全廿二卷中卷八「事實文政十二年」迄を收む）

可恐錄　寫　一冊　二八八

加藤南竹著自筆、和袋綴疑冬色表紙　七寸五分五寸五分　四十四丁　七行、替題簽「可恐錄曳尾庵著　全」、「若樹文庫」「万年葛籠」
見返し
阿蘭陀通商來由　外國來船諸誌　邪宗可恐錄草稿　完
識語
文化十三といふ丙子仲春小雨の日於曳尾庵小窓下識
時天保六年二月末かた曳尾庵南竹老人より讓りをきぬ　中臣忠臣
（諸書より書拔萬編せしものなり）

歷史科學

日本

神皇正統記　六卷三冊　二八九

北畠親房著、和袋綴煎茶表紙　九寸五分六寸五分　三周單邊七寸二分五寸四分　十行約二十字、題簽なし外題左肩墨書名同題字及底の「上中下」は傳　東山天皇御染筆　內題「神皇正統記」柱心神皇正統記
刊記
慶安貳辛仲春　風月宗知刊行
（獻上の本なるべし）

神皇正統錄　寫　四卷四冊　二九〇

和袋綴改裝　九寸七分六寸五分　八行約十五字、題簽なし
（推定堂町末江戸極初寫、續群書類從第八百五十一所收と本文細部文字の相違のみ、類從本の三卷なるに本書四卷、第一天神七代より五十五代迄　第二七十七代迄　第三八十一代迄

第四以下を收む、鹽尻卷之一大須眞福寺藏書日中四卷と見ゆ、四卷を以て古體とすべきか、朱の句讀點　墨の反點振假名あり）

日本異國往來記　二卷二冊　二九一

遠山信武（素發）著　貞享丙寅松浦默序、和裝綴糸布目入經表紙　七寸四分五寸〇分　四周單邊五寸八分四寸一分　十行約二十字、題簽左肩「異國來往記上（下）」、「平出氏書室記」

（元祿九年寂木の跋及び「京都寺町通　榎並甚兵衞」版行の記缺の後刷　內容海事史料叢書卷十三所收）

太古及上古史

元々集　寫　七卷七冊　二九二

北畠親房著、和裝綴鳶色表紙　九寸〇分六寸八分　十行約二十二字、題簽左肩白紙書名同、「貞親」の印

奥書

（各冊末）慶安二年寫之

（承應本及日本古典全集第五期所收本に照合するに、本文全集校合本に近し、卷七は刊本卷七末につゞきて、一大中少社差別—左大史外正六位上阿倍志斐連東人寶龜二年二月十三日の識語を持つ—一造營制度の二條を加ふ、又七卷多賀宮の條末に「私云異本ニ有」（朱）とて式第八祝詞を引く以下七行刊本に存せず、一異本とすべし、最終に元元集所載之書目錄を附するを見れば七卷を以つて完本と認めたるが如し）

神代卷注書　寫　二卷二冊　二九三

柏亭眞直著自筆、和裝綴毘沙門格子入青表紙、八寸〇分五寸七分十二行、題簽中央上冊白色書名同下冊題簽なし外題中央朱書「神代註解」、「清風書屋」

（神代卷上下二冊の漢文註　土金の說など出で垂加神道風の註）

紀中地名古事抄類聚上　寫　一卷　二九四

巖蔭舍撰　和裝綴共表紙　七寸七分五寸三分　四十九丁（表紙共）、題簽なし外題左肩書名同

（表紙右肩二行に「天保十四癸卯年正月元日從同三月七日迄ニ撰記」外題左下に「巖蔭舍」、日本書紀の地名を摘出五十音順に配列その卷中に於ける所在を示す、云はゞ書紀地名辭典の草稿）

古事記　三卷三冊　二九五

太安萬侶編、和裝綴藍色表紙　九寸〇分六寸四分　四周雙邊七寸一分五寸一分　八行約十八字、題簽左肩雙邊書名同　柱心古事記、「圓碕藏書」

刊記

寛永廿一甲申歲孟夏吉辰　觀普町風月宗智刊行

奥書

原本奥書云（朱）文永三年二月仲旬書寫畢神祇權大副大中臣定世判　同六年九月廿九日於燈下一見畢判　建治四年仲春廿七日彼岸中日又一見畢　宿執之至猶在神事爲之如何判

借請親忠朝臣一本吉田大納言定房卿被所望之間依家君御命書寫進畢又一本書寫之正之

寫本云（朱）右古事記三卷者大須眞福寺之所藏也字形多存古體尤可謂奇本矣義稻葉通邦有開板之志參考既了圓田挺之奉　命作序然而上木未果今更寫彼藏本以舊印本庚會延佳校本及古寫本校正之其字樣一從原本誤字脫字於無疑者間改定之繕寫以獻是依故亞相公之遺命者也　寛政十三年正月檢校保己一

（朱）文化六己巳歲正月八日夜於江戸官舍校合了高木秀條文政五壬午歲三月二十九日以取田正紛藏眞寫大須本再校也

（延佳校本及び大須眞福寺本を以て寛永廿一年刊本後刷本にて校合し、宣長其の他の說を書入たり）

古事記　三卷三冊　二九六

太安萬侶編、和裝綴改裝　一尺〇寸九分九寸〇分　四周雙邊六寸九分五寸一分　八行十八字、題簽なし　柱心古事記、「翼輪堂藏書記」

奥書

寛永廿一甲申歲孟夏吉辰　二條通觀普町風月宗智刊行

（寛永版の特製本）

古事記畧解　寫　三卷三冊　二九七

半井梧庵著自筆、和裝綴共表紙　四周雙邊六寸一分四寸二分十行「文書堂版」とある罫紙　七寸五分五寸〇分、題簽左肩「古事記略解草稿一卷」

（古事記の通俗略解書、三卷末にて大國主命・須勢理毘賣命の唱和に至る）

古事記傳畧　寫　四冊　二九八

半井梧庵編自筆、和裝綴共表紙　九寸〇分六寸七分、題簽なし外題左肩「古事記傳略草稿」一冊目外題下に小さく「神代卷」とあり、「和氣忠見」「伎里乃家」

（卷頭直毘靈を揭げ以下古事記傳より適宜抄出簡略平明にな

し四卷にて古事記上卷の註を終ふ、吉岡德明が同名の書に似たり、頭部所々補あり、藏印和氣忠見は梧庵なり）

日本書紀　三十卷十五冊　二九九

舍人親王等編、和袋綴　八寸五分六寸〇分　四周雙邊七寸四分五寸二分　八行十七字、題簽左肩雙邊書名同　柱心日本紀

識語

（一冊目表紙裏朱）此書ノ朱書入ハ荷田御風ノ校本ニ據リ（冊八ウ）敏トイフ人（此人不詳十九ウニ見ユ）ノ書入レタルモノト知ラル其ノ書入中ナル春滿眞淵翁ナドノ說ハ共ニ其校本ニ在リシ說ナルベシ

日本書紀十五冊青柳種麿ノ舊藏ニシテ種麿ガ谷川士清ノ通證ノ說ヲ抄記シま、自筆ヲモ書入レタルモノ也其書入中ニ春滿翁眞淵翁宣長翁ノ說ヲ書入レタルコレハ何ヨリ轉記セルヤ其出典ヲ審知セズ本居氏ノ記傳ナドヨリ抄出セルニヤ併見スベシ御風八ウ十九オ冊オ　種麿ハ筑前ノ人ニテ鈴門ナリ其著ニハ筑前續風土記拾遺宇家考後漢金印考寛政六年防人日記等アリ四十年九月十一日記

（寛文九年整版本後刷に前揭識語の如く書入をほどこせしもの識語何人の筆か不明）

日本書紀　闕二十七卷十八冊　三〇〇

舍人親王等編、和袋綴改裝原青表紙　八寸七分五寸九分　四周雙邊七寸三分五寸〇分　八行十八字、原題簽左肩雙邊書名同　柱心日本紀、「稻川文庫」

（初三卷缺、慶長十五年寛文九年本系整版本に山梨稻川の書入あり、朱青墨を用ひ時に貼箋す、卷四の初めには稻川の補寫あり稻川書紀研究の一端を察すべし）

日本書紀　寫　三十卷七冊　三〇一

舍人親王等編　稻葉幸年筆、和袋綴薄褐色表紙　八寸〇分五寸五分　九行、題簽なし外題左肩書名同下に卷冊數を示す

（慶長十五年本系よりの轉寫にして卷四迄は筆者細密の書入あり、一冊目自一至二、二冊目自三至七、三冊目自八至十三、四冊目自十四至十八、五冊目自十九至廿二、六冊目自二十三至二十六、七冊目二十七卷以下を收む）

日本書紀　寫　三十卷十五冊　三〇二

舍人親王等編　松岡直淸筆、和袋綴淺黃色表紙、八寸八分六寸三分　八行、題簽左肩白紙「日本書紀（卷數）（卷名）」「松岡氏藏書印」

奥書

天保八丁酉秋八月良辰寫畢　松岡直淸八十五齡

（朱の書入、一冊目表紙裏「因幡華山蔭書入之元本宮地正路藏ス」）

日本書紀　寫　三十卷十五冊　三〇三

舍人親王等編　田中夢外筆、和袋綴布目淡淺黃表紙　九寸〇分六寸二分　八行、題簽左肩白紙「校註日本紀卷一（一—三十）」「芋子苑文庫」「志穀堂章」

奥書

此書紀者隣舍山本氏舊年魚彦先師有請傳不薄祕藏而愚耄屢顧求以禿筆書之焉此書世行不類板本其正誤字補脫落徵細校合無殘事尤難得之一寶可成云々　于時天明三癸卯末夏初八東武城東隱叟田中夢外愚述

（慶長十五年本系刊本を寫し全部訓を加へあり、魚彦本の本文校合書入をそれ〴〵該當する所に整備したり）

日本書紀　寫　闕七卷五冊　三〇四

和袋綴裏打　九寸五分六寸八分　七行、題簽左肩桃色「日本書紀」但一・二・五制脫　內題「日本書紀卷一」、「樂亭文庫」「桑名」「白河」

（卷一より卷七迄を平假名交りに讀み下したるもの、二冊目末に勅版系神代卷に見ゆる淸原國賢の跋文漢文のまゝあり、よみ又江戶初期刊本の訓と相違を認めず、書寫新しかるべし、三冊目卷三・四・五を收む）

日本書紀　古活字本　闕二卷二冊　三〇五

舍人親王等編、和袋綴改裝　九寸〇分六寸三分　四周單邊六寸七分四寸七分　八行十七字、題簽なし外題：冊目表紙左肩「日本記」（朱）內題「日本書紀卷第一（二）」柱心日本紀

（古活字版之研究云ふ、慶長十五年奧書版とは別版慶長年間刊日本書紀完本の神代紀二卷なり、墨朱書入）

日本書紀　古活字本　三十卷十五冊　三〇六

舍人親王等編、和袋綴栗皮色表紙　九寸二分六寸三分　四周雙邊七寸五分五寸一分　八行十八字、題簽なし外題左肩墨書名同（其下に卷數を記し別に朱にて「神代上」「神代下」以下その冊中天皇の御諡號を記す）柱心日本紀、「中野文庫」

奥書

（「此寫本者」云々の所謂慶長十五年刊日本書紀の奥書あり末に）慶長十五庚戌仲夏念八洛淸野子三白誌（刻）

（書紀通卷最初の古活字本なり、神代卷二卷は「寛文丁未仲

秋下浣新刊」の整版無訓本を以て補配す、補配本裝釘大きさ
同一、本文四周雙邊七寸一分五寸三分七行なり、朱訓讀點）

日本書紀　寫　闕八冊　三〇七

舍人親王等編、和袋綴改裝裏打　九寸七分六寸七分、題簽なし外題「日本書紀卷四」「日本書紀卷六垂仁」「日本書紀八仲哀天皇」（以上中央書入）「日本書紀十七」（以上左肩）「日本書紀十八安閑宣化」「日本紀廿一用明崇峻」「日本書紀廿六齊明」（以上中央）「日本書紀三十」（以上左肩）、「中村文庫」
（近世初期寫　朱句讀點墨假名、本文流布刊本と相違少し）

日本書紀神代卷　勅版　古活字本　二卷一冊　三〇八

舍人親王等編　慶長己亥姑洗吉辰　正四位下行少納言兼侍從臣清原朝臣國賢跋、和袋綴合綴龜甲つなぎ龍紋に菊花を配せし押出繧繝表紙　九寸六分六寸七分　九十一丁（上四十七下四十四）四周單邊八寸二分五厘五寸四分　八行十七字、替題簽左肩摺單邊「新刊日本書紀神代上下」朝倉無聲日本古刻書史に示すものに等し　内題「日本書紀卷第一（二）」柱心日本紀、「神垣舍藏書」
見返し
（雙邊刻三行）日本書紀慶長己亥季春新刊
（慶長四年後陽成天皇勅版、墨朱句讀訓點あり）

日本書紀神代卷　二卷二冊　三〇九

舍人親王等編　烏谷長庸校　享保十四年己酉臘月日從二位清原朝臣宣通跋、和袋綴茶表紙　八寸八分六寸一分　四周單邊七寸三分五寸一分　八行十八字、題簽左肩雙邊「神代卷上（下）」内題「日本書紀卷第一（二）」、「靜嘉堂文庫」
奥書
（慶長勅版の清原國賢の奥書ありて末に）（刻）以勅本板行
（墨）文化元年五月廿日京師上田百樹本以テ書入レヲヘヌ
殿邑常久
（烏谷長庸が勅版本に卜部本系統本を以てした校本に殿村常久が百樹本其他を以て書入、書入は本文注釋に關し、時に附箋詳細を極めたり）

日本書紀神代卷　古活字本　二卷一冊　三一〇

舍人親王等編　勅版に等しき清原國賢跋、和袋綴代赭色表紙　八寸九分六寸五分　八十二丁（卷一四二卷二四〇）四周雙邊七寸〇分五寸一分　八行十八字、題簽なし外題左肩墨「日本紀神代卷全一二」内題「日本書紀卷第一（二）」柱心日本紀、「靜業之印」

刊記
以勅本板行
（慶長十五年刊日本書紀完本と組方及活字を同じくする推定慶長年間刊、墨朱の書入）

日本書紀訓考第六卷　寫　一冊　三一一

關守雄著自筆、和袋綴淺蔥表紙摺込柱心に日本紀訓考とせし四周單邊七寸〇分五寸〇分十一行原稿用紙　九寸一分六寸四分　六十一丁、題簽左肩白紙「日本書紀訓考神代卷元本」（元本手ですり削す）内題「日本書紀訓考　神代卷」
（柱に墨「六」とあれと内題には「卷六」にあたる部分切貼りあり或は卷數變更ありたるか、素戔嗚尊根の國に下らるゝ一條とその條一書の部分の訓註、本文を示し、語句毎に解を下す、卷頭「越後國柏崎關四郎太謹撰」、四郎太は前田夏蔭門の關守雄、本書は六十五卷完本中の一）

日本書紀類聚解　寫　闕七卷五冊　三一二

内山眞龍著自筆、和袋綴黄櫟色表紙十一卷のみ肉筆花模樣表紙　八寸一分五寸七分　題簽左肩白紙書名同外題の下に次の如く内容を示す「地名上玖」、「地名下拾」、「詞章十一」、「天地　人林　官職　器物　船車　五穀　拾肆　業藝斗量　拾參」、「羽鱗　草木　拾貳　拾伍」

奥書
文化九壬申五月遠江國豐田郡内山廉原眞龍謹寫五月十日　御内勅正親町大納言公明卿奉之年月姓名記焉
夫二柱の神たち國の御社を立瓊矛の道を定給ひしハみ國のひつきの極りなき敎なりとていにしへの傳へ言を更に奈良の都の大御代に舍人親王云云に勅給ひて撰奉れる書を日本紀と號け和訓の傍に漢字をかり用三十卷にまきて世に傳ハれり年經るまゝに寫し誤る所々も有て讀得かたしこゝに遠江國豐田郡の内山に住眞多津の翁恐れミ聞て共事々を品々に分ち十餘五卷とし日本紀類聚解となつけ後の世にも見安からむためとてとき記せりかくて大納言公明見し給ひてこれか序の文を加へやかておほやけの御文とそなれりける
于時文化九年五月河合社權禰宜正四位下鴨楢永敬誌
かくて正親町大納言公明卿此書を内に入奉らせ大典侍局内奏、別に謠歌部かな文一卷御局へとて上るを私にとゝめむ事恐れ有とて共に　内にさゝけ奉るよし後に御局の文に出
吾眞多都御書奉る事をよろこひて詠
長濱の浦のあしたつ千代ふとも雲るまてとはおもはさりし乎とそ
五月廿日餘　御局の御文　四辻大納言卿御女也
先日御暇の御本云云さつそく御佐た申入候ら得は御滿足さ

まにてあらせられ候則御覽せられし所御めつらしくよくいたし候ものとて御なくさみニ成御かんしんの御事ニてあらせられ候　外にくわしき御書添のやう御滿足さまにてあらせられ候よくそ〳〵御あけの御事となを又よろしく私ゟ申せとの御事ニ候　大　す　け

御返事よろしく（此御文ハ公明公へ參貝たつ拜受）

（日本書紀の用語を題簽示す如く分類畧解をほどこせしもの、奥書によれば文化九年五月十日正親町大納言公明大典待局を通じて天覽にそなへ奉りしもの〻寫し、完本十五卷　宮内省圖書寮にあり）

日本書紀纂疏　寫　闕二卷二冊　三一三

一條兼良著、和袋綴改裝　八寸九分六寸六分、有界三周單邊七寸七分五寸六分　七行、題簽左肩剝脱

（割注ある所板行流布本に近けれど、卷頭「所謂日本書紀四字是通題通於一書故也」など兩足院本等に見ゆる文字も存す、全卷墨朱にて句讀訓點をほどこしあり、前後數丁落）

日本書紀纂疏　寫　闕五卷五冊　三一四

一條兼良著　新坊法印定盛筆、和袋綴押出模樣白茶色表紙　九寸五分六寸七分　十行、題簽なし外題左肩「日本書記纂疏第一（—五）」柱心寫、「蓮華堂主泰岳」「伎留本社」

奥書

（第一）　永正七年三（九として削）月廿六日以一條殿御本御自筆本（消）遂書寫之功訖　給事中清原朝臣在判

寛永第拾貳年歳舍乙亥甲申月下澣一庚午日　新坊法印定盛書寫之

（二）　永正七年三月廿六日以一條殿御本御自筆遂書寫之功訖　給事中清原朝臣在判

（三）　永正七年九月十一日以一條殿御自筆本於灯下遂書寫之功訖　少納言清原朝臣在判

大永六年九月上旬書寫之

寛永第拾二年歳舍乙亥丙戌九月朔戊申日書寫終之　新坊法印定盛之行年七旬有一也

（四）　永正七年九月十一日以一條殿御自筆本於灯下遂寫之功訖　少納言清原朝臣在判

寛永第拾二年歳舍乙亥壬午月下澣二辛未日　新坊法印定盛書寫之

（五）　永正七年三月下旬以一條殿御本御自筆遂書寫之功訖　給事中清原朝臣在判

寛永第十二乙亥年戊子月下澣三庚午日　新坊法印定盛寫之也

（第六卷欠、京都兩足院本—國民精神文化文獻四の底本—系の一本にして菊亭本神宮文庫本に次ぐの書、その底本に欠ぐ卷三の奥書を存せり、清原少納言は宣賢なりと）

日本書記撰定之事　寫　一冊　三一五

度會末雅著　上田百樹筆、和袋綴白茶表紙　九寸〇分六寸三分　九丁　十行、題簽なし、「阿豆麻呂藏」「波伯部百樹藏」

奥書

享和元年四月　度會末もと

（裏表紙見返し）此書ハ荒木田久老主ヨリカリエテウツシッ　享和二年正月九日　上田百樹（花押）

（日本書紀撰定の事を論じ、倉稲魂豐宇氣毘賣の神に關する說を附す）

先代舊事本紀　十卷五冊　三一六

和袋綴改裝二卷每合綴　一尺九分七寸一分　四周雙邊七寸〇分五寸一分　八行十八字、題簽なし、「翼輪堂藏書記」

刊記

寛永廿一甲申歳孟夏吉辰　寺町貞安前町瀧庄三郎

（特製本）

平安時代

源平盛衰紀　古活字本　闕四十一卷二十一冊　三一七

和袋綴藍色表紙　九寸三分六寸六分　四周單邊七寸六分五寸五分　十二行、替題簽左肩雲母紙墨書名同剝脱もあり　柱心盛衰記、「里口本與」

（片假名まじり、附訓なし　一ノ二、一九ノ二〇、二七ノ二八、四七ノ四八の四冊欠、元和寛永年間刊と推定さる）

保元物語　寫　三卷三冊　三一八

和袋綴灰色表紙　九寸六分七寸〇分　十二行、題簽なし、外題表紙右下方に小さく保元上（中下）、「南天莊」

（「中ころていわうましく〳〵き」ではじまる、塙本等に似て又一異本、室町時代後期の寫）

平治物語　寫　三卷三冊　三一九

和袋綴灰色表紙　九寸六分七寸〇分　十二行、題簽なし外題表紙右下方小さく「平治上（中下）」、「南天莊」

（同函の保元物語と同筆にして室町時代後期の寫なるべく、塙本などに類似せる一異本）

御堂關白記　複製本　十四卷附一冊　三二〇

（昭和十一年立命館大學創立三十年記念事業として便利堂製する所、近衛家所藏國寶藤原道長自筆日記の複製、卷子本十四、外に活字印本一冊を附す）

奥州後三年記　繪卷物　四三卷　三二一

卷子本織布表紙（各一尺八寸）縱一尺五寸三分　上（五圖）中（五圖）下（四圖）、題簽左肩金泥雲形短冊紙墨「奥州後三年記上（中・下）」

（繪は原本の色彩模樣の指定ある模寫、年代江戸時代も末と思はる、文は群書類從三百六十九所收と殆ど同文、類從本上卷半ば武衛家衞を訪ふ條より中卷末迄を收む）

近古史

太平記　古活字本　四十卷二十一冊　三二二

和袋綴改裝裁斷柿澁色表紙　八寸四分六寸七分　四周單邊七寸七分五寸六分　十二行、題簽なし　柱心太平記、「仙台信濃屋國分町」刊記

慶長十五曆庚戌二月上旬日春枝開板

（片假名交り、墨書入あり）

〔太平記拔書〕　古活字本キリシタン版　一帖　三二三

改裝折帖格子模樣表紙　九寸九分六寸九分　十一折　原物

和袋綴二葉　八寸六分六寸五分　四周單邊七寸四分五寸四分十三行、替題簽左肩「吉利支丹板太平記拔書零片」滑川達筆

（初卷八と五卷十六の二丁のみ、慶長中刊キリシタン版太平記斷片、他に本書目錄部寫眞一葉、題字二頁滑川達跋四頁コンテンツスムンヂ寫眞三葉を合載す）

增鏡　古活字本　十九卷六冊　三二四

和袋綴黑表紙　九寸四分六寸九分　十二行、替題簽中央白紙墨「益鏡一上本「增鏡二上本」「滿す鏡三中本」「ますかゞみ四中末」「滿須鏡五下本」「ますかゝみ六下末」、一印あれど消す

（整版本の原本となりたる書なれど錯簡ありて本文惡く、篇名又甚だ亂る、一冊目「第一おとろのした」より「第四三神山」二冊目「第五うちのゝ雪」から「第五けふりのすゑ」三冊目「第八（空白）」から「第十あすか川」四冊目「第十一草まくら」から「第十二老のなみ」五冊目「第十一（空白）」から「第十四春の別」六冊目「第十五むら時雨」から「第十七月草の花」迄、たゞし第六冊目は題簽と同筆によつて補配さる）

室町及安土桃山時代

信長記　古活字本　十五卷五冊　三二五

太田和泉守牛一輯錄　小瀨甫庵道喜居士重撰　自序、和袋綴改裝合綴原表紙褐色　九寸二分六寸六分　四周雙邊七寸五分五寸五分　十二行約二十三字、替題簽左肩短冊形墨書名同但外題の下所收卷數　柱心信長記、「村尾氏藏書」其他三（「一」「二三」「四五六」「七八」「九十」「十一十二」「十三十四」「十五」の八冊に合綴、川瀨一馬「古活字版之研究」に所謂第五種本にして元和寛永年間刊、末に靑にて「慶長甲辰春刊行」とせしは後人のわざくれなり、匡郭亂れて到一なけれど四周雙邊最も多し、墨振假名書入）

看聞日記　複製本　四十三卷附小冊四十四冊　三二六

（昭和七年より九年にかけ貴重書影本刊行事業として便利堂刊行せし所、後崇光院の御日記影本、卷子本四十三卷外に解說一冊、印刷本文四十三冊を附す）

近世史

外患備豫錄　附煉霞翁年譜　寫　三十六冊附一冊　三二七

服部政世（乘付陳人）編　安政の四とせといふ卯月よき日安穗川の邊に住る桑門白蓮子序　長歌の序　蘭石山人武力游及び信天山人題辭、安政四年丁巳閏五月二十日乘付陳人」の自序、和袋綴薄澁色表紙用紙四周單邊六寸一分四寸四分十二行摺罫紙　七寸五分五寸二分、題簽左肩摺雙邊「外患備豫錄」・「續篇外患備豫錄」・「續々外患備豫錄」内題外題同、「甫庵藏書」

（幕末の外交を中心に政治問題、世相狀態の資料を集成せしもの、正編にあたるは十二支にわけ十二冊、續篇十干にして十冊、續々篇火より土五曜に配して五冊その補遺九冊計三十六冊　男甫庵撰する煉霞翁—政世—年譜刊本一冊を附す、寫は自筆他筆混合するなるべし）

北狄事略　寫　十二冊　三二八

藏用老人著　和袋綴茶色綴縞入表紙　八寸八分六寸一分　九行　一（三圖五頁分）二（十一圖十六頁分）三（五圖六頁分）五（ロシヤ文字二枚）五六（各十七圖十七頁分）九（廿二圖廿七頁分）十一（四圖八頁分）、題簽左肩書名同　内題「戊

申銷夏記」、「手許藏書」
（幕末北邊騷擾の記錄集成）

海防彙議　寫　四十五冊　三二九

鹽田松園編　嘉永二年陽月吉男淳序（第十一冊目）嘉永庚戌端午前二日仙臺齋藤馨序、和袋綴　九寸七分六寸一分、題答左肩書名同
（幕末海防の諸著述諸記錄を選編せしものなり所收次の如し）

卷一　答問十策附沙盾圖　青木定遠
異艦戰法　無名氏
卷二　奉吉田宰相書　蒲生秀實
上北闕書　平山行藏
上執政相公閣下書　同
防海微言　龜井昱
卷三　獻芹微衷　松木斗機藏
卷四　海寇窃策　黑田老矣
鯨戎策　安積雄助
卷五　籌海回循錄附寶島檣妨一件　遠山左衛門尉
佐藤赤井二生議
卷六　戊戌夢物語　高野長英
同評　無名氏
夢々物語　無名氏
佐藤元海紀
卷七　海防策　齋藤德藏
愼機論　渡邊登
卷八　上眞田侯書附火輪船圖　佐久間修理
籌海私議　鹽谷行藏
卷九　呑海肇基論　佐藤元海
海儒芻言　山鹿素水
海防說偕　無名氏
卷十　海防彙議附錄
明訓一班抄外四
（第二編）卷十一　外寇考
武家傳奏より所司代江達書
九鬼式部少輔組中江御達書
近藤石見守組中江達留
卷十二　清英合戰紀略　長山貫
弘化丁未年風說書
卷十三　談心錄
讀海防彙議
卷十四　浪華梅　阪木春貞
阪木春貞建議

漂客次郎吉話
卷十五　夷酋問答
卷十六　海防之義ニ付申上候書付　無名氏
海防辨
卷十七　皆妄作
卷十八　經世秘策　蝦夷地屬島の議　本田三郎右衛門
喝蘭告密　和蘭陀人風說書上　渋川六藏和解
卷十九　隣疝臆議　屠龍居士
卷二十　釣舟物語　上中下　深潛隱居著
（海防編）卷二十一　諸侯防策上書　附柳營秘記　清朝風說書　オロシヤ書翻和解
卷二十二　諸家存意書
卷二十三　久喜万字屋藤吉上書
鈴木莊五郎上書
芬馬齋夢物語
卷二十四　鹽谷甲藏上書
大槻平治上書
卷二十五　防春或問　鹽谷行藏
卷二十六　辻茂右衛門上書
卷二十七　秋帆上書　上下　高島四郎太夫
卷二十八　海防備論上　藤森恭助
卷二十九　海防備論中
卷三十　海防備論下
（補）卷三十一　野叟獨語　杉田玄伯
（補）卷三十二　邊防火技水戰論　穎德太郎
弘化甲辰筒井紀伊守上書
同季　和蘭本國船の記
嘉永己酉海防下問の令
同年筒井紀伊守對策
（補）卷三十三　海防私策　羽倉外記
同評　無名氏
獻芹微衷　大槻平次
同評　無名氏
同辨　大槻平次
（補）卷三十四　嘉永己酉大家同庵上書
卷三十五　內密答問錄　鶴峯彦一郎
嘉永己酉江川太郎左衛門對策
卷三十六　捕影問答（一名英吉利疑問）　大槻玄澤
同　後篇　同人

卷三十七水戰法秘訣抄　佐藤百祐
卷三十八艦不愉綽　土生熊五郎
答千住某問　古賀侗菴
泰西錄話　同人
經濟十二論中防夷兵備論　井潛
卷三十九德丸之記　篠山攝津守
駿德丸之記　無名氏
卷四十　海防論　赤井嚴三
擬對編　清水太郎
卷四十一　海防策　無名氏
不得已辨（一名豈好辨）藤川憲
卷四十二海防策　無名氏
北陸聞見附錄　雋
備魯西亞策　三谷堯民
卷四十三天保庚子高嶋四郎太夫上書
鳥居耀藏建白
同評
松木斗機藏上書　附和蘭寶兩漂民護送英吉利モルリツソン船一條抄譯
草莽陳言
（補綴）卷四十四擬極論時封事　古賀煇

卷四十五嘉永庚戌大冢同菴上書
繩和田孫兵衛議　無名氏

開國の滴續篇　寫　一冊　三三〇

ジョセフ彦著　藤島長敏譯、和袋綴改裝用紙四周赤色雙邊六寸二分四寸四分十行罫紙　八寸一分五寸六分　百九十二丁、題簽なし
（播州彦藏通稱ジョセフ彦が The Narrative of a Japanese の第二卷邦譯なり、第一卷譯は「漂流異譚開國之滴上」として土方久徵譯刊する所なれど、本書は未刊行）

休明光記　寫　二十二冊　三三一

羽太正養著　高阪元禎筆　自序、和袋綴改裝　九寸五分六寸九分、題簽左肩「休明光記(卷數)」「休明光記附錄（卷數）」「邊策私辨」「休明光記總目錄」、「羽太文庫」
奥書
（卷六）文化四年四月羽太安藝守書記高阪龍介源元禎誌并書
（內容續々群書類從第四所收）

朝鮮

朝鮮史略　官板　六卷六冊　三三二

和袋綴淡藍表紙　九寸〇分六寸〇分　四周單邊六寸五分四寸五分　九行十八字、題簽左肩單邊「官板朝鮮史略」柱心朝鮮史略
刊記
文政六年癸未十月　御學問所御藏板　江戸日本橋新右衛門町前川六左衛門芝神明前岡田屋嘉七下谷御成小路堀野屋儀助
（官版書籍解題略上參照）

支　那

後漢書　古活字本　闕七十五卷三十三冊　三三三

范曄（宋）編、和袋綴丹表紙　一尺一寸〇分七寸七分　有界四周雙邊七寸四分五寸六分　九行十七字、題簽なし外題左肩墨書名同　柱心後漢、「端坊藏」
（寛永古活字本にして末一冊を缺く）

前漢書　古活字本　百卷五十冊　三三四

班固（漢）編　班昭（漢）補、和袋綴丹表紙　九寸七分七寸〇分　四周雙邊七寸四分五寸七分　十行十七字、題簽左肩墨「前漢書」二—四「前漢紀（卷數通卷數以下同）」五—十「前漢表」十一—二十「前漢志」廿一—五十「前漢傳」、柱心前漢、「端坊藏」
刊記
寛永第五戊辰曆菊月廿一日　於洛陽本能寺前刊行焉

叢　傳

日本人叢傳

近世畸人傳拾遺草稿　寫　八冊　三三五

和袋綴　書簡控帳等の裏を用ひて紙より綴　六冊　やゝ淨書四十二枚　極淨書一枚　後の二つはつゞらす　淨書は　九寸八分七寸〇分　淨書には「儀邑緒圖」一畫一頁分あり、內題「拾遺畸人傳」「畸人傳拾遺」「續々畸人傳」などともあれど極淨書には「近世畸人傳拾遺」、「堀田次郎」の印
（內容より見るに著者は小川杜水山田丸鐵の友尾陽の人「御代のはな」の著ありと、裏書簡の宛名は渡邊勘兵衛同善兵衛

にして、或は渡邊善兵衛著か、續々畸人傳と題せし下に「天保丙申陽月廿有四日執筆」とあり、天保七年の手習裏を用ひあれば、その頃の著にして未刊なるべし、近世畸人傳拾遺（極淨書）及び拾遺畸人傳初帙乾之卷（淨書）には作蒿溪渡邊幸庵志賀隨應三河滿平孝女曾與忠女なつ智鏡尼小池氏母不食尼戸谷與一和久田要人野本安房藤井幸藏柿本某心越禪師谷崎勾當曾明大德山田丸鏡小川杜水庄屋與兵衛秋篠農夫竹内勾當一得の二十三人、他の稿の中には二十三人中十三人を加へて計五十二人に及ぶ近世畸人傳風の傳記集なり）

○

近世蝦夷人物誌　寫　三卷三冊　三三六

松浦武四郎著自筆　安政五年獨松居士序　安政四年「松浦弘」凡例、和袋綴白茶表紙用紙柱心靜觀草堂四周雙邊五寸八分四寸四分十行罫紙　七寸七分五寸四分　上（四圖五頁分）中（七圖十頁分）下（六圖八頁分）、題簽左肩毘沙門格子入泉色書名同貼紙「書中人物著者松浦北海自筆」、「富岡氏藏書記」

識語

（見返し）此近世蝦夷人物誌者著者松浦北海所藏原本也

鉄槍齋道人識

世說啓微　圓光寺活字本　二卷二冊　三三七

皆川洪園著　皆川簣齋校　文化乙亥春三月東山圓光寺道隱跋

和袋綴毘沙門格子押出模樣表紙　八寸五分六寸一分　有界四周雙邊七寸五分五寸二分　八行十七字、題簽左肩雙邊書名同

（跋によれば縣官所賜十萬有餘の木活字木を以つて洪園の遺稿を刊せしといふ、所謂圓光寺活字版）

帝鑑圖說　古活字本　六冊　三三八

張居正（明）等編　神樹辭叙　張居正呂調陽の進圖疏　玉希烈後序、和袋綴茄子色表紙　九寸〇分六寸二分　有界四周雙邊七寸三分四寸八分　九行十九字　一（十七圖三十四頁分）二（十九圖三十八頁分）三（二十三圖四十六頁分）四（二十一圖四十二頁分）後一（二十圖四十頁分）後二（十六圖三十二頁分）、題簽なし　柱心前（後）、「英王堂藏書」「高取植村文庫」

（慶長十一年豐臣秀頼刊行の承兌の跋文を缺ぐもの、なほ慶長年間刊なるべし、前編四冊後編二冊、各通丁前序七題字二目五本文二百十四丁　後題字二目三本文九十八後序三丁、前二百十三・二百十四二丁の補寫は舊藏者チェンバレンの筆か）

皇室—日本

大內裡之圖　九帖　三三九

折本飛鶴模樣入白表紙　九寸〇分六寸四分、題簽中央書名同

（細目　內裡圖附中和院・京城略圖・太政官圖・八省院圖・大學寮圖・武德殿圖・神祇官圖・豐樂院圖・眞言院圖、裏松固禪の大內裏圖考證の附圖にして、內藤廣前文化年間尾張公の爲に刊する處なり）

〔神武聖天皇荒陵圖話稿〕　寫　一冊　三四〇

日尾英連著　〔熊谷直彦〕筆「安政丁巳九月七日長英連謹識」の荒陵圖話跋（罫入原稿紙二葉）、和袋綴共表紙附表紙萠木色花模樣　九寸〇分六寸一分　二十二丁　二十一行　三圖三頁分、題簽左肩雙邊「畝傍山東北白檮尾上陵圖說稿」なほ題簽らしき短冊形同題字の雙原表紙裏に貼附　內題「神武天皇荒陵圖話全稿」

奥書

（前半皇陵の荒廢をなげく文の末）干時安政辰七月日長英連

（又一文あり）安政三辰秋八月十六日於ニ常州土浦色川三中亡後隱宅一爲レ友ニ書標一而記（和歌一首）日緒山人源英連

（本文末）日緒筑石源英連上　日下部伊三治君机下

（後出一本の草稿、同じく熊谷直彦の筆か、後出本と同題を假に附す、日本書紀云ふ神武天皇御陵の考證をなせしものにして日下部伊三治に送り、更に日尾筑石自ら安政四年跋を附せしものゝ轉寫か、訂正多し）

神武聖天皇荒陵圖話稿　寫　一冊　三四一

日尾英連著　熊谷直彦筆、和袋綴黃色表紙　八寸五分六寸二分　三十二丁（中白紙一）五圖七頁分、題簽左肩雙邊布地書名同

識語

（初丁白紙表師岡節齋中村愼吾宮和田勇太郎の名を貼紙して次に）丸山陵畝日山之東北而長方ヲ北ニ寄諸君論之則御陵田井ヲ是トスル長ナレバ也雖然丸山陵必不可捨余兼テ諸君論是非而却テ憂失眞也是故今亦占丸山御陵之是非以記之升之師其爻離巽離乾長巽今以言靈則爲千子モカゴ也尙占造營則全震其爻離兌長巽離震今以言靈則爲ゴレブサ也尙占御陵田井造營則得全恒其爻兌離震震離今以言靈爲ザレゴサ也

申七月十四日

奥書

口上　今四月廿一日　三條殿エ上ル　柳馬場三條下ル　熊谷直彦持捧□□

右神武天皇陵之儀ニ付當年午十二月廿三日出立和州畝火山ニ罷越候而御社ニ致參詣逗留中廿五日早天右荒陵を奉拜候處廿四日之夜中ニ植候哉小松三四拾本生立人々是を見ニ參怪ミ候風情之處其後廿六日ニ到右松悉〳〵く引去り候故相尋候得者地頭神保三千次郎家來百姓共ニ申付幾度植候とも引去り可申樣致下知候由ニ相聞候ハ右植付候者何人とも知レ不申御座されとも此松丈四五尺位も有之近邊ニケ樣也ル松も無之餘程遠方ゟ持越シ候哉其丹誠中〳〵一人之業ニて調候ニも有間敷候或ハ隣村ノ民右荒陵相樣候を奉恐入松植候哉ニ被察候然ルを地頭ゟ拔去候段天津日嗣之荒陵をも不奉恐入鬼角田畑ニ相成年貢取立屎尿を流し我神日本天一之大神之尊靈をも不顧卑臣の身として奉侮犯候事天下不平之端松蔭害無止事誠ニ歎ケ敷奉恐入候御事ニ御座候何共一日も早く莊殿ニ取立申度志願ニ御座候間皇國御忠志有之ハ君子方へ入御耳ニ度迄右荒陵圖話寫取且又畝火山總躰萬地靈蹟者武家采地と申道理も有之間敷樣ニ奉存候間繪圖面書入奉差上候以上

（前掲書の浮書本、直彦三條家に献上せしもの或は其の寫し

なり）

改正大内裏圖　寫　一帖　三四二

園護孝筆、折本淺葱表紙全裏打　七寸六分六寸二分　開き六尺一寸一分六尺三分、題簽中央「改正大内裏圖安永九季庚子七月園護孝寫」

（筆者の彩色あり、一隅に「安永九季庚子七月園護孝寫」）

聖德太子傳暦　寫　二卷二冊　三四三

取合本上卷袋綴下卷列帖灰色表紙　縱共九寸六分横上七寸〇分下六寸五分　上四十丁下五十四丁　上八行約二十字下五行二十字、題簽なし外題左肩「聖德太子傳上（下）卷」内題上「聖德太子傳暦一卷分成上下」下「聖德太子傳暦卷下一卷分成上下」、「源應藏書」

奥書

（上卷）本云于時文龜三年壬戌十二月日於法隆寺脇之坊雖惡筆悪多爲自他結緣翰染畢永舜

敬田院住於院家僧坊大納言公（此一行別筆）

（下卷）（朱書）太子平氏傳作者之事古來不知菅原爲長自筆

平氏傳奥書曰是堤中納言兼輔卿之選也云祕藏事也此太子傳今高辻家在之

平中納言太子傳古本奥書曰延喜十七年九月藏人頭兼輔撰

又曰此書本兼輔卿貫首之時所撰也云按兼盛者光孝天皇曾孫篤行賜平姓其子兼盛也兼輔者延喜十八八廿八補藏人頭後任中納言右衛門督承平三二十八薨世號堤黄門是也今度應尹宮所望清書此傳加愚點者也　寛元二年八月爲長

此書堤中納言藤原兼輔紙廿丁斗書編殘ノ書ナリ平兼盛續也以爲太子傳題平中納言太子傳者以桓武帝後胤中納言以所持本爲長寫之故不忘其本書平中納言太子傳層云

（下卷は推古十六年四月以後、内容聖德太子奉讃會編本に似る、文體に近き頃の寫と推定、下卷奥書も江戸時代に入らざる頃と思はる、藤原兼輔、平兼盛撰とするは作者定まらざる本書にとつて又一説なり、墨朱の訓點及び別筆註記あり）

各傳

藤田東湖書翰集　三十一通　三四四

（宛名日次次の如し、多くは時附祕密通信と見え暗號多く意通じがたし）

寒緑賢兄（茅根伊豫之助）多氣佞　三月望

寒緑君　（同）　たけき　五月十日

寒緑賢兄　（同）　たけき　六月念二

伯陽大兄　（同）　たけき　十一月十四日

璋翠老兄　竹　十二月廿九日

老璋君御啓　八月十四（子八月十四日分見□十七日着）

老璋君　竹　念七（壬子閏月念七）

六大兄　孤竹

貴右旁　御相談もの　（子閏二月五日夜）

小（川）兄　竹　念二（二月念二八ッ半時過）

柢兄　別紙類通上　斑文　季秋念七

天火同人（上町同人樣）　下同人

（壬子二月廿九日四ッ過到）

二月廿三日（二月念三九ッ時來三通之内）

（二月廿三日九ッ時着三通内）

四月九日（壬子閏二月九日夜逮竹書）二月九日早探三通人

（子壬二月四日　五ノ一）

（子壬二月四日　五ノ一）

（子壬二月四日　五ノ一）

十三日（二月十三日夜竹ゟ）二月十八日

十九コタ案　三ノ一　（子二月）

メテタテ大□　念四

水心町樣　御側衆中　二月廿八

不明八通

那波列翁傳初篇　寫　闕二卷二冊　三四五

リンデン著　小關三英譯　譯者自筆　賴山陽佛郎王歌　丁巳年松岡權識語　菊地武貞畫、和袋綴裏打共表紙　八寸六分六寸二分　十一行　ナポレオン肖像畫一枚、題簽なし外題左肩書名同　内題「那波列翁勃納把爾的傳」、「清風館印」見返し

開板不苦出來之上壹部調所江可相納事

（二、四卷欠、蘭人リンデン著の譯　木活字版同書の稿本）

那波列翁傳初篇　活字本　四卷四冊　三四六

リンデン著　小關三英譯　賴山陽佛郎王歌　丁巳松岡次郎識語　「清風館主人」附言　菊池武貞畫、和袋綴昆沙門格子花模樣瓶覗色表紙　八寸五分五寸八分　四周單邊六寸五分四寸五分　十一行二十二字　波利稔王淡彩像一圖、題簽左肩「活刷那波列翁傳初篇一（—四）」　内題「那波列翁勃納把爾的傳」柱心那波列翁傳、「清風館印」「高山藏書」

（蘭語譯木活字本、邦譯最初のナポレオン傳）

方谷先生遺墨　寫　三卷　三四七

卷子本五寸六分、題簽左肩書名同　天地人三卷

（山田方谷晩年の書簡集にして、松山かじ町守屋幸助宛五十四通、守屋直兵衛宛二十八通、松山南町福山屋岩吉・小間物會所・矢吹君宛各一通、宛名不明一通を收む）

佐久間象山尺牘　一通　三四八

卷子本　八寸六分、題簽左肩「象山先生尺牘」

（象山全集上卷上書の中「ハルマを藩業にて開版せんことを陳す」と題し收められたる一簡なり）

地誌及紀行

萬國地誌

嗚蘭新譯地球全圖　一帖　三四九

橋本宗吉製　長久保赤水閲　錢希明子遠市校「寛政八年丙辰之歳日躔翼宿浪華佛齋居士竹之唯應聖父譔」の序、折本淡黄蘗色表紙　八寸九分五寸六分、題簽中央篆字書名同

刊記

圖會華蠻通志嗣出　寛政八年歳丙辰冬十一月官許印行　毎部印證　彫工大坂安堂寺町西横堀小林平八　書房京師六角通御幸町小川太左衛門　江戸東叡山池之端北澤伊八　大坂高麗橋一丁目淺野彌兵衛　同五町二丁目岡田新太郎

（初めに「水戸赤水長先生閲　浪華橋本直政政伯敏氏製　平安錢希明子遠市校」と、筆彩あり、表紙押出し洋文字なく後刷本なり、日本古版地圖集成參照）

皇清職貢圖　八冊　三五〇

忠勇公傳恒序　乾隆帝乾隆辛巳（二十六）秋日の題詞　諸臣の恭和詩　傳恒等跋、唐袋綴薄玉蜀黍色表紙　九寸一分五寸八分　有界四周雙邊六寸八分四寸五分　八行、題簽なし　柱心皇清職貢國

（乾隆帝勅撰にかゝる外人風俗圖鑑なり、末三丁にわたり皇清職貢圖校刊職名あり）

○

日本支那朝鮮蝦夷世界全圖　五帖　三五一

折本柿澁色表紙　一尺八分六寸七分、題簽各帖中央單邊白紙「大日本全圖」「古今歴代中華地圖」「朝鮮琉球全圖」「蝦夷全圖」「嗚蘭新譯地球全圖」、「金子藏書」

（同帙同裝幀の五圖を合せて假に題す、橋本宗吉「嗚蘭新譯地球全圖」、長久保赤水「古今歴代中華地圖」共他によつて簽に示す如き各地圖を製せしもの）

日本地誌

地誌書目　寫　一冊　三五二

和袋綴　九寸〇分六寸二分　六十丁　十三行、題簽なし外題左肩書名同、「深川文庫」「水島氏所藏印」其他一

奥書

右者以山中鏞義本合書寫了　嘉永元戊申年七月廿一日　重年後日加一校了（朱）

（各所に朱にて書入あるは遠齋屋五一の筆なりと云ふ、國別にして歌枕緣起類をも含み昌平字舍藏・菅沼氏藏・刊本等に印を附せり）

三國通覽圖說　附圖五枚　六冊　三五三

林子平著　桂川甫周序　自跋、和袋綴毘沙門格子兎圖入樓鼠色表紙　八寸七分六寸〇分　四周單邊七寸〇分四寸九分　十行　圖折本「三國通覽輿地路程全圖」「無人島之圖」「琉球國全圖」「朝鮮國全圖」「蝦夷國全圖」、題簽左肩青紙「三國通覽圖說圖五枚附全」、「若樹文庫」「狩野氏圖書記」

刊記

（奥書）天明五年乙巳秋仙臺林子平圖並說
天明丙午夏東都書林　室町三町目須原屋市兵衛梓
（絶版になりたる初版本）
○

東海道分間繪圖　五帖　三五四

遠近道印著　自序　序の末に元祿參歳庚午孟春吉旦作者遠近道印（花押）繪師菱河吉兵衛とあり　自跋（菱川師宣）識、折本紺青地に銀泥にて風景草花を配せし表紙　九寸二分五寸五分、題簽中央書名同　内題「東海道綱目分間之圖」、「大橋藏書」
刊記
大門通新大坂町板木屋七郎兵衛板
（本書に卷末「元祿參年庚午孟春吉旦作者遠近道印繪師菱川吉兵衛新和泉町板木屋七郎兵衛板」とせし別板ありて日本古典全集第四期、日本古版地圖集成に收めらる、本書の方初版か更に元祿十六年萬屋清兵衛版の後刷あり）

大日本惣圖　寫　一帖　三五五

折本、九寸四分七寸二分　開き三尺六寸五分五尺七寸五分
（江戸時代初期寫と推定の海陸交通圖、一々里程をしるす）

大日本圖鑑　一枚　三五六

三尺〇寸九分二尺二寸五分
刊記
此日本國之圖世間數多雖有之今度致吟味委細相改國々大名衆壹万石以上知行高國主城主領主取付其上江戸より長崎迄海上之道筋書加令開板也（中略）干時延寶六年戊午三月吉日
（日本古版地圖集成參照）

官板實測日本地圖　四帖　三五七

折本布地藍表紙　一尺一寸七寸、題簽中央雙邊薄黄色紙「官板實測日本地圖」（外題下に各地方名をしるす）、「大學南校」
（「畿内東海東山北陸」「山陰山陽南海西海」「蝦夷諸島」「北蝦夷」の四部、詳密なり）

日本分形圖　一冊　三五八

和袋綴黒表紙　六寸三分四寸六分　六十七丁缺一丁　四周單邊五寸七分三寸八分　八行　識十六枚、題簽左肩赤「大日本國　廿道内」内題「日本圖」柱心日本圖、所藏印一
（末一丁缺にして刊記不明なれど、寛文六丙午歳八月吉旦吉

田太郎兵衛開板とあるべし、切圖地圖帖として日本圖最初のもの、日本古版地圖集成參照）

日本海山潮陸圖　一帖　三五九

石川流宣識、折本淺葱色表紙全裏打　八寸六分五寸八分　開き三尺四寸一分五尺六寸三分、題簽中央雙邊書名同
刊記
（左下隅雙邊郭内）和朝之圖形先々多今亦道路名所等大概書加令開板者也　干時元祿四辛未年　圖工武江城府下石川流宣　板木江戸相模屋太兵衛
（海陸交通地圖　筆彩あり、間際に諸街道の里程・日本國一ノ宮并郡及び天竺震旦國への通法を記す、左上隅墨肥前地方の地理的記事二條書入あり日本山海圖道大全・日本圖鑑綱目と改題さる、日本古版地圖集成參照）

日本全圖　二帖　三六〇

宮本三平製　結城正明鐫、折本白表紙　一尺二寸九分九寸三分、題簽中央雙邊書名同外題の下に各地方名
識語
（明治十年九月　宮本三平識の長文）
（識語によれば、從來の諸地圖特に伊能忠敬實測圖海軍省治海實測表により作成せし版圖にして文部省藏板、東部西部の二冊　國別彩色あり）

日本圖鑑綱目　一帖　三六一

石川流宣識　折本紺表紙　八寸七分五寸七分　ひらき三尺五寸五尺六寸五分、題簽中央書名同
刊記
和朝之圖形先々多今亦道路名所等大概畫加令開板者也　干時元祿七甲戌年　圖工武江城府下石川流宣　板木江戸相模屋太兵衛
（元祿四年刊日本海山潮陸圖の改題）
○

郡名考　寫　一冊　三六二

青木昆陽著　田中彌一郎筆、明和改元七月十五日自序、和袋綴模様入鼠色表紙　九寸〇分六寸三分　七十五丁、題簽剝脱
「伊藤藏書」「日野貞所藏」「田中子恭之印」
奥書
青木氏モ亦當時ノ大家其人經濟有用ヲ以テ任トス此書ノ如キ又其一端ニシテ實ニ無ハアル可ラサル者ナリ今加川氏ノ藏本ヲ借得テ是ヲ謄ス　寛政四年壬子十月七日田中彌一郎

（青木敦書自序に「郡ノ沿革古今一ナラザルニヨリテ延喜式民部省ニ載ル郡ト今官ノ置トコロノ郡ヲヨビ他書ヲ考ヘ異同ヲシルシテ郡名考ト名ヅクト云」と）

國號考料　寫　圖六冊　三六三

内山眞龍著　屋代昭南筆、和袋綴共表紙附表紙　八寸三分五寸六分、原表紙題簽なし外題左肩書名同共の左肩「西海」「山陽」の如く地方名を書く

奥書

家塾屋代昭南して草本を一わたり書治めさせつ時は文久の三とせ長月なり

（眞龍草稿よりの轉寫　東山西海南海北陸山陰山陽の六冊、畿内東海を欠ぐ）

總國郡鄕考料　寫　八冊　三六四

前田夏繁著自筆、和袋綴毘沙門格子押出模様薄代緒色表紙　八寸六分六寸一分、題簽左肩雙邊書名同外題下に地方名冊數を示す「畿内壹」「東海貳」「東山參」「北陸肆」「山陰伍」「山陽陸」「南海漆」「西海捌」

（一冊目見返し右上隅「文久三年癸亥九月上浣起稿」八冊目末丁裏左下隅同筆にて「文久三年三月一寫終（花押）」　文久三年三月上部に地名のみを一寫し、九月より筆をあらためその下に書紀以下古書に見ゆる所を註記せしなり、同筆にて夏云繁云夏繁按とあり、夏繁が未定稿なりと知るべし）

總國郡鄕名字類聚　寫　三卷三冊　三六五

（前田夏繁）著自筆、和袋綴毘沙門格子押出模様薄代緒色表紙用紙四周單邊六寸四分四寸四分十行摺罫紙　七寸六分五寸三分、題簽左肩雙邊書名同表紙右上方墨にて上「安加佐」中「多奈波」下「麻也良王一字三字雜讀」

（古籍に見ゆる地名を五十音順に配列　國名郡名等註記し、まゝ出典をかゝぐ、裝釘筆跡前掲書に等し）

○

一目玉鉾　四卷四冊　三六六

井原西鶴著自畫「維時元祿二年己巳正月吉辰難波俳林（松壽）（鶴）の二印」の自序、和袋綴灰色表紙　九寸一分六寸四分　四周單邊七寸六分五寸二分、題簽中央卷一欠　二「繪入一目玉ほこ二」三「繪入一目玉鉾三」四「繪入一めたまほこ四」　柱心一目玉鉾

（毎頁上本文下畫、刊記なし後刷、初版には「元祿貳年巳正月吉日　大坂高麗橋心齋橋筋南入町雁金屋庄左衛門板」）

○

奉使日本紀行　寫　十八卷十三冊　三六七

レザノフ著　青地盈譯　高橋景保校、和袋綴廟木色表紙　八寸一分六寸一分　八行、題簽左肩書名同、「手許藏書」

（海事史料叢書第十三卷所收本に比するに　山本鄰の序なけれど、其の序に云ふ十八卷完備して脱漏なし）

日本行記　寫　八冊　三六八

和袋綴共表紙　八寸〇分五寸七分但八冊目のみ八寸八分六寸六分　十行、題簽なし外題左肩「雜之部」帳中秘鑑（未）一（一七）」八冊目「日本行記附考」内題書名同八冊目題簽同、「城東有吉」「原藍」

（ベルリーの日本行紀を意によつて編ぜしもの帳中秘鑑と題せる叢書中の一なるべし

日本行紀　寫　二十冊　三六九

Heine, Wilhelm 著、袋綴模様入茶表紙　八寸七分六寸一分十行、題簽左肩書名同、「手許藏書」

（Wilhelm Heine-Reis om de wereld naar Japan aan boord von het expeditive-eskader onder Commodove Perry in dejaren 1853, 1854 en 1855. Rotterdam, 1856 の譯）

ペルリ日本航海日誌　寫　二十冊　三七〇

〔寺師宗德〕譯、和袋綴改裝薄檜肌色　四周雙邊六寸八分五寸〇分十行原稿用紙　八寸五分六寸一分、替題簽左肩書名同

（「ペルリ提督日本遠征記」の第一卷第七章より第二十五章迄の譯但第十六章をのぞく、恐らくは最初の邦譯なるべし）

遣厄日本紀事　寫　十一卷八冊　三七一

Colonin, W 著 Schultz, Johann 獨譯 Steenbergen von Goor 蘭譯　馬場貞由・杉田豫・青地盈邦譯　高橋景保校　文政七年高橋景保凡例　兀老尹自序蘇登白健般我見序、和袋綴茶色縞表紙八寸七分五寸九分　十行、題簽左肩書名同、「城東有吉」「原藍」

（ゴローニン幽因記獨譯版の蘭語譯より邦譯せるもの、馬場三卷迄譯し斃れ、後杉田青地等續いで譯業を終る、景保序に本卷十二卷附錄二卷とあるも十卷並びに附錄を有するのみ）

○

分道江戸大繪圖　一帖　三七二

石川流宣畫　自跋、折本濃縹表紙　八寸五分五寸七分、題簽

中央「分道江戸大繪圖乾」
刊記
享保十三戊申年江戸乗物町人形町通　書林平野屋善六版
（江戸圖書目提要によれば寶永五戊子年跋日本橋瀕石町書林山口屋須藤權兵衛板にして同名同人壽跋同文の圖あり、本書その後刷なるべし、提要によれば坤は分道本所大繪圖なりと）

○

己巳紀遊　寫　一冊　三七三

貝原益軒著自筆、和袋綴裏打白表紙　八寸〇分五寸八分　七十七丁　十行、題簽左肩水色金箔ちらし「己巳紀遊附南遊紀事　島上紀行」　柱心丹若紀行（南遊紀行、島上紀行）、「怡顔齋」「怡顔齋圖書」「松岡氏圖書」
奥書
（西北紀行）元祿二年八月既望　貝原篤信書
（南遊紀事）元祿二年八月十一日貝原篤信書
（島上紀行）元祿二年八月望日貝原篤信書
元祿五年六月十八日檢閲之了竹洞野宜卿一（朱消）再校
（刊本西北紀行南遊紀行及び續諸州めぐり卷下の一部を内容とす、所々補筆あり補筆により刊本とほゞ同じくなる、齋藤拙堂・川村竹坡・山木亡羊の箱書ありて益軒自筆と傳ふ、すれば益軒小野竹洞に一見を請ひ、又補筆せしか　朱點にて一校あり、松岡恕庵舊藏なり）

京童　六卷六冊　三七四

中川喜雲著　自序、和袋綴藍行成表紙　九寸一分六寸〇分　四周單邊六寸九分五寸一分　十一行　一（十八圖二十頁分）二（二十圖二十一頁分）三（十二圖十二頁分）四（十四圖十四頁分）五（十一圖十頁分）六（十三圖十三頁分）、題簽左肩雙邊「京わらへ」、「坂東藏書」「竹冷挿架」「林直增家藏」
刊記
明暦四戊戌年七月吉日　さはら木町通東のとう院東へ入町　八文字屋五兵衛新刊
（さはら木町通烏丸東へ入町山森六兵衛刊の初版に次で序に記名なき再版本なり、題簽書名の下に「たいりよりたつみの方の名所」の如く各方面をしるせり、内容　この再版本により近世文藝叢書第一所收、和田萬吉古版地誌解題參照）

京童跡追　六卷六冊　三七五

中川喜雲著　自序、和袋綴黑行成表紙　八寸七分五寸八分　四周單邊六寸九分五寸〇分　十一行　一（十四圖十五頁分）二（十六圖十六頁分）三（十六圖十六頁分）四（六圖六頁分）

五（十一圖十一頁分）六（七圖九頁分）、題簽左肩雙邊落葉色「京童あとをひ二（一—六）」卷一剝脱　内題「跡追」、「坂東藏書」
刊記
寛文七丁未年九月吉日　さはら木町通烏丸東へ入町　森山六兵衛刊行
（書肆名に匡廓なき後刷なり、更に平野屋佐兵衛刊本により再版さる、内容平野屋佐兵衛刊本により、近世文藝叢書第一所收）

南都名所道筋記　一冊　三七六

和袋綴鼠色表紙三方裁斷　七寸六分五寸三分　十九丁　四周單邊七寸一分四寸六分　十一行約二十六字、題簽左肩雙邊書名同但原題簽の上に「南都名所記　全」と墨書せし黄紙を貼題簽とす
刊記
此名所集自古數多雖爲板行或者繁而鄙時役亦不成蒙昧便然予頃儲此一卷新令開板竟　貞享元子八月十五日南都樽井町
（高木利太家藏日本地誌目錄、貞享三年刊及び延享年間刊同名異書あるを報ぜり）

南都名所道筋記　一冊　三七七

（前掲と同書、本書七寸八分五寸五分尙三方裁斷あり、鶯色表紙）

南都名所集　十卷十冊　三七八

太田叙親・村井道弘著　皆に延寶三年卯月に村井道弘序、和袋綴淺葱表紙　八寸八分六寸二分　十二行約二十字　一（二十二圖二十五頁分）二（十三圖十四頁分）三（十圖十一頁分）四（十二圖十二頁分）五（七圖七頁分）六（八圖八頁分）七（十二圖十二頁分）八（十圖十頁分）九（九圖十頁分）十（十三圖十四頁分）、題簽左肩九卷目の他破損剝脱書名同　柱心奈良二三四五の四卷はなし、「濱和助」「高木家藏」「溪仙庵」「足々園印」
（内容近世文藝叢書名所記第二所收）

奈良名所八重櫻　十二卷十二冊　三七九

大久保秀興・木林伊祐著　自序〔菱川師宣〕畫、和袋綴鐵色表紙卷六替表紙　八寸九分六寸三分　四單單邊七寸三分五寸五分十四行　一（六圖八頁分）二（五圖五頁分）三（七圖八頁分）四（三圖四頁分）五（二圖三頁分）六（四圖二十五頁分）

七（三圖四頁分）八（四圖四頁分）九（四圖六頁分）十（五圖五頁分）十一（四圖四頁分）十二（四圖四頁分）、題簽左肩雙邊奇數の卷「新板八重櫻一（—十一）」偶數の卷は「新板八重さくら三（—十二）」但六は原題簽なし、柱心八重櫻、「英王堂藏書」

刊記

延寶六年戊午二月吉日　江戸之住大久保念鑑秀興　南都之住木林氏伊祐兩作　江戸小傳馬町三町目柏屋仁右衛門開板

（南都名所記につぐ奈良案内書、師宣と推定される畫風、卷六春日御祭禮行列二十頁にあまる挿畫など見るべし、七・八・九を改題してうねめ物語と云ふもありと　和田萬吉古版地誌解題・高木利太家藏日本地誌目錄續編參照）

和州寺社記　寫　二卷二冊　三八〇

柴田八兵衛丈筆、和袋綴濃色表紙　一尺一分七寸八分　十行題簽左肩布目紙書名同

奥書

（上）柴田八兵衛丈

（下）寛文六丙午年五月廿七日に記畢和州寺社惣軒數合千百拾貳軒　延寶三季乙卯年八月十七日寫之　柴田八兵衛丈

（南都名所記に先んずる一年近世大和案内記の嚆矢上卅一下廿八寺社の案内　高木家藏日本地誌目錄參照）

和州舊跡幽考　二十卷十五冊　三八一

林宗甫著「延寶九年歳次辛酉孟夏吉旦林氏宗甫涉筆和州潘下郡郡山之草舍」の自序「延寶九年辛酉夏之孟懶齋鵜藏書」の跋、和袋綴藍表紙　八寸六分六寸三分　四周單邊七寸一分五寸五分　十三行、題簽左肩雙邊「大和名所記（卷數郡名）」

（内容續々群書類從第八所收）

山城州大繪圖　一帖　三八二

百芽著　下河邊拾水畫、折本濃縹色表紙　八寸八分五寸九分題簽中央雙邊書名同

刊記

作者　洛下百芽　書畫　洛西下河邊拾水　安永七年戊戌正月吉日　京都書肆　姉小路通大宮西江入町矢野長兵衛　一條通大宮西江入町石田治兵衛　間之町御池上ル町林權兵衛　誓願寺通御幸町西江入町小川多左衛門　五條通高倉東江入町北村四郎兵衛　三條通寺町西江入町正本屋吉兵衛

（三條大橋より諸方への道矩、山城國土產名物を附す、日本古版地圖集成によれば書肆のやゝ相違せし版ありと見ゆ）

大和國大繪圖　一帖　三八三

中村敬耳齋著　榕山戈春堂校　高木貞武畫　古川忠兵衛刻、折本茶表紙　八寸四分五寸八分　開き五尺〇寸三分三尺四寸三分、題簽中央雙邊書名同　内題「大和國細見圖」

刊記

享保二十乙卯年六月穀旦　作者和洲中村敬耳齋校合大坂榕山戈春堂　書工同高木幸助貞武　彫刻同古川忠兵衛　同心齋橋博勞町　磐田屋伊右衛門開板

（日本古版地圖集成參照）

○

瓊浦通　寫　六卷六冊　三八四

中岡益著　淺善水筆「嘗文化甲戌秋七月於長崎官邸客舍中岡益叔享識」の自序、和袋綴間似合表紙　八寸八分六寸〇分十一行　一（三圖三頁分）二（一圖二頁分）、題簽左肩書名同、「手許藏書」

奥書

（附言末）維嘗文政七年龍集歳次甲申冬臘月十有一日應内田氏需武陵江都逸士淺善水淨寫並識　武陵江都神田之住内田氏藏書

（文化十一年長崎奉行牧野大和守成傑の醫員として長崎にありし著書が見聞及び官衙の諸記によつて其地の行政經濟風俗地誌一般を記せしものゝ轉寫なり）

長崎大地圖　寫　一帖　三八五

折本　開き三尺四寸七分一丈一尺四寸九分

（彩色を加ふ、長崎灣を廣く町は左方に小さし、海上航路海深灣内の廣さ等詳細、幕末恐らくは當路者の關係してなりしもの又はその寫ならん）

長崎蟲眼鏡　二卷二冊　三八六

江原某著　元祿十六年弄古軒菅秋序、和袋綴替表紙　三寸七分五寸三分　四周單邊三寸〇分四寸八分　上（四圖五頁分）下（三圖四頁分）、替題簽複製本題簽を用ふ左肩書名同　内題「長崎虫めがね」柱心長、「このぬしふじ」「三木文庫」其他一

刊記

元祿十七年申正月吉祥日　大坂高麗橋壹町目富士屋長兵衛板

（内容稀書複製會第八期に刊行）

琉球國志略　十六卷六冊　三八七

周煌（清）著　乾隆甲午仲夏の御製題武英殿聚珍版十韻有序　乾隆二十二年十二月十八日進上辭、唐袋綴絹鐘紺表紙　九寸〇分五寸五分　有界四周雙邊六寸四分四寸〇分　九行、一（圖十九枚）、題簽左肩雙邊絹黄色墨書名同、柱琉球國志（武英殿聚珍版、柱心下に各冊校正者の名を刻す、一・二冊（首・二・三卷）彭元琉、三冊（四・五卷）王錫奎、四冊（六・七・八・九・十卷）吳舒帷、五冊（十一—十四卷）朱攸、六冊（十五卷以下）文寧なり）

唐船來朝圖　一帖　三八八

折本納戸鼠色表紙　七寸一分五寸二分、題簽中央陰刻「唐船來朝圖」（內容　日本古版地圖集成所收、同書解題延寶年中刊にして元和の書籍目錄に見ゆる長崎圖に擬せり）

○

探蝦錄　寫　三冊　三八九

自序、和袋綴縹表紙　八寸八分六寸二分　十行、題簽左肩書名同、「手許藏書」

（安政元年幕府堀利熙に命じて蝦夷を巡視せしむに同伴せし折の漢文紀行、同年三月廿八日出立より十月二十七日迄と、十一月二日松前出立歸路の絶句五十首、歸宅後の感慨再生子傳來墜子記の二文を收む、作者は木墜子記に見ゆる橫井子儒なるべし）

○

朝鮮地圖　寫　闕一帖　三九〇

折本五枚の圖を折疊み各背を貼りて一としたり、八寸六分五寸七分、題簽なし外題左肩書名同、一印あり

例言

（咸鏡北道の圖左下）我國地圖之行於世者不知其數而毋論其模本印本皆從紙面濶狹方圓而爲之故山川道里盡爲相左十餘里之近者或遠於百里數百里之遠者或近於十餘里以望東西南北或易其位若按其圖而欲往遵於四方則無一可據與冥行者無異矣予以是病焉遂作此圖凡山川之險夷道里之遠近以尺爲量隨其自然而爲之以百里爲一尺以十里爲一寸自京師度之以至四方先爲全圖一通使八路之形長短方圓定其體狀然後分之八張以便屏障之成帖若求全形再合其縫則可復爲一矣非若他本之局於紙面雖欲付貼四下經界終不可符合者也第既分各圖宜其八路之各成其一而至於咸鏡道壤地廣遠不可以一幅紙容

載故分其南北二張其如畿甸與湖西則幅員不濶足可並模故以其兩道作爲附圖以備八帖之數且關西之東北一隅最爲廣漠不能盡收於本幅乃以古茂昌麟厚州等地割附於咸鏡道之左又其海島之絶遠如濟州鬱陵黑山紅衣何佳者不屢如其里數而只分其所在方位而附盡於原幅之末又其各道分域處有嶺脊江水者不得不重模而疊寫是不固然之勢或有欲合者須知其模其一而去其一則可不告全形矣其用尺之法若當平夷之地則量百里全用一尺而其於山峽水曲汚回不平處則或以一尺量定百二三十里理勢然也若其施采卞色則京畿純黄濶西紅白濶南純紅嶺南青紅嶺東純青海西純白關西白黑關北純黑山以緑水以青紅線畫水陸大路黄線別左右分界敦形而點紅以記烽燧數壞而留白以表山城營邑有城外施白線驛傑成圈乍分青黄此皆作圖之凡例覽者詳之事

（彩色あり江原・平安・黄海・咸南・咸北の五圖にして識語によれば三枚を缺けり、韓國時代同國人の手になりしなるべし）

アジア誌地

闕里誌　朝鮮活字本　十卷十冊　三九一

陳鋼（明）著　孔允植（明）校　弘治乙丑序　崇禎四年煥祖跋、唐袋綴金茶色表紙　一尺六分七寸〇分　有界四周單邊八寸三分五寸七分　七行、題簽なし外題左肩墨書名同　柱心闕里誌（一冊は圖像集）

ヨーロッパ地誌

泰西輿地圖說　十七卷六冊　三九二

朽木龍橋著　天明己酉之春　江都鳩谷孔平平信敏序、和袋綴薄玉蜀黍色表紙　七寸五分五寸三分　四周單邊六寸一分四寸四分　九行、第六冊（卷十五・十六・十七）全圖入、題簽左肩雙邊書名同剝脫もあり、內題「泰西圖說」柱心泰西圖說

○

北槎聞略　寫　十卷五冊　三九三

桂川甫周編　寛政六年甲寅八月引、和袋綴茶表紙　八寸九分六寸三分　九行、題簽左肩書名同、「手許藏書」（內容は　昭和十二年龜井高孝氏解說飜刻本にあり）

社會科學

法律學

祥刑要覽　古活字本　一冊　三九四

吳訥(明)著　自序大電翁後序、和袋綴朱表紙　九寸七分六寸八分　四十一丁(前後白紙各一)四周雙邊七寸〇分五寸四分十行十八字、題簽左肩剝脫　柱心祥刑

奥書

下卷者卽業陰比事也

(古活字版之研究云ふ元和中刊本、墨訓點朱句讀點をほどこせり)

○

關東御成敗式條　寫　一卷一冊　三九五

和袋綴原表紙共紙附表紙　八寸六分六寸二分　四十丁(中白紙四)原表紙題簽なし

(貞永式目武家側傳本の一、慶長五年二月書寫本と同系かと思はるれど、書體明かに慶長以前の寫にして又別系の一なるべし、墨朱訓、植木直一郎御成敗式目研究參照)

○

武家諸禮集　古活字本　三冊　三九六

和袋綴丹行成表紙　九寸三分六寸七分　十三行、題簽なし

柱心上萬躾(萬躾之次第)請取渡(萬請取わたしの次第)中かよひ(かよひの次第)酌(酌の次第)元服(よめ取のしたひむこ入の事)下書札(書札之次第)文、「長善」の印

(萬躾之次第・萬請取わたしの次第を收めし一冊、かよひの次第・酌の次第・元服の次第を收めし一冊、書札之次第二部を收めし一冊よりなる所謂小笠原七禮の書、末に「右七礼者雖爲武家之秘書依御執心進之候不可有他言者也　小笠原」(刻)とあり同十三行本なれども古活字版の研究に示せる栗田元次氏藏本とはやゝ相違す、元和寛永の刊か)

〔小笠原流禮儀書〕　寫　七冊　三九七

和列帖白茶表紙　八寸〇分五寸八分、題簽なくして表紙左肩墨書「元服之次第」・「(蓬上かき心得)」・「酌之次第」・「書札之次第」・「通之次第同喰樣之事」・「萬躾方之次第」・「萬請取渡之次第」それは各卷頭の條目を示せし後人の手にして中は萬端の條目にわかれたり

(江戸中期の寫、所々に圖示あり所謂小笠原七禮の書なり)

○

寛永行幸記　古活字本　三卷　三九八

烏丸光廣編、卷子本白き草花唐草模樣濃縹表紙　八寸七分一卷四十一尺七寸二卷二十九尺五寸三卷二十六尺、題簽なし表紙裏墨「卷之一」「卷之二」「三卷のみ表紙白紙墨「卷ノ三」

(古活字版之研究云ふ第二種ロに屬す)

○

群書治要　古活字本　闕四十七卷四十七冊　三九九

魏徵(唐)等編　魏徵等奉勅撰序、和袋綴薄媚茶表紙　九寸〇分六寸三分　有界四周雙邊七寸一分五寸二分　八行十七字

題簽なし左肩貼紙墨書卷數のみ　柱心群書治要、「南葵文庫」「紀伊德川氏藏板記」(箱印)「閱麾庵圖書部」「岡本藏書」

(所謂駿河版銅活字本　四・十三・二十欠卷)

風俗及慣習

盲文畫話　寫　一冊　四〇〇

水野盧朝著自筆自畫　自序　自跋、和袋綴附表紙裏打　八寸九分六寸五分　三十四丁　十行　二十六圖二十九頁分、原表紙題簽なし

(一名昔むかし盲文畫話、末に文政十歲次丁亥夏下浣　東都神田柳堤泉橋北巷於攀鱗齋南窓長丘叟盧朝行年八十歲長病床上採毫不顧後嘲書畫畢可笑々々」とあり、複製本の原本なり)

○

萬壽盛典初集　闕三卷二冊　四〇一

趙之垣(清)等撰　自序、唐袋綴斷雲に飛龍の模樣を配せし黃絹布表紙　一尺〇分六寸七分　三周單邊九寸〇分五寸六分、題簽左肩「萬壽盛典初集(慶祝岡壽)(卷數)」軸題簽は富岡鐵齋筆　柱心萬壽盛典初集、「畫禪齋」

(康熙五十二年、帝誕生日の盛典を記す、本書四十・四十一・四十二の三卷はその慶祝壽集)

○

波夫理和射之考　寫　一卷一冊　四〇二

小杉榲邨著自筆　自序、和袋綴　七寸九分五寸四分　六十八丁(中白紙一)、題簽なし外題左肩「はふりわさの考」、「若樹文庫」「杉園藏」

（我が國上代美風のすたれしを明かにせん爲、哭泣・歌儛・棺槨・殯宮・進奠・遊部・誄詞・陵墓之制・埴輪・送葬・祓禊・碑石誌文附喪官廢置・薨卒吊賻・倚廬・服暇・喪服・祭陵靈荷前・宅神祭氏神樂各條にわたり博搜考證せしもの、尙同筆の朱墨補筆增加あり）

○

洞房語園　三卷三冊　四〇三

庄司道恕齋編　元文戊午八月勝日自序　竹門散人逸忘退局庵跋　大夢道人題辭　道恕齋元文三戊午八月吉旦祝言、和袋綴藍表紙　八寸七分六寸一分　四周單邊七寸二分五寸一分、題簽左肩黃雙邊書同名中下剝脫　內題「洞房語園集」、「鯉喜文庫」「蘿齋文庫」其他一

（內容は書物往來叢書花街篇所收）

長崎土產　六卷五冊　四〇四

嶋原金捨著　延寶九辛酉九月吉日長崎住序　辛酉秋九月前愚性大臣嶋原金捨跋、和袋綴深縹表紙　七寸四分五寸四分　十行一（三圖六頁分）二（三圖四頁分）三（二圖三頁分）四（一圖二頁分）五（二圖三頁分）、題簽左肩「長崎土產」一女郎合唐人は合」・「なかさきみやけ二」・「なかさきみやけ三」・「長崎土產四」・「長崎土產五追加名寄」柱心長崎、「掬香」「千葉文庫」「擁書樓千葉氏珍弄印」其他一

（著者を色道大鏡の著者藤本箕山に擬する說あれどいかが、野間光辰「藤本箕山の生涯」—國語・國文九ノ八・十一所收—參照）

浪花鉦　六卷一冊　四〇五

水月菴迷色居士著　延寶八申三月日自序　延寶八季春日一生軒不埒後序　洛下南華軒跋、和袋綴表紙破損　七寸四分五寸〇分　四周單邊六寸二分四寸四分　十一行　一（一圖二頁分）二（一圖二頁分）三（一圖二頁分）四（一圖二頁分）五（一圖二頁分）六（一圖二頁分）、柱心鉦

（好色墨粟鹿子、諸分店諸と改題再三版さる、內容　諸分店諸によつて江戶時代文藝資料第四に所收　たゝし序跋の記名及び不埒の後序を缺けり）

島原大和こよみ　闕二卷二冊　四〇六

和袋綴黃蘗色表紙　七寸三分五寸二分　十一行　一（六圖六頁分）二（六圖六頁分）、題簽左肩雙邊雲母紙「嶋原大和こよみ五人春二」「嶋原大和こよみ五人夏二」內題「嶋原屋まとこよみ」、「金城門東得窓庵印」

（天和三年五月吉日一條通和氣屋長兵衛刊の四冊本の中春・夏の卷二冊、本二冊の內容は近世文藝叢書第十所收、表紙各卷　題簽同紙方形の繪外題あり、一・二共に「いまの世の大じん」の畵）

桃源集　一卷一冊　四〇七

小藤原定家著　自序「承末之春抽三毫干虛白堂鯰田鈍太郎末孫白面書生敬白」の序、和袋綴改裝裁斷　六寸三分四寸六分三十五丁　十行、題簽なし

刊記

政開板

（明曆元年刊、內容は書物往來叢書花街篇所收、末十二丁補寫）

吉原あくた川名寄　一冊　四〇八

とうらくしとんせい坊著　「作者あさちが原かうけつむあんせんしやう山　とうらくしとんせい坊」の自序、和袋綴改裝六寸三分四寸五分　四十五丁　四周單邊五寸三分四寸〇分二圖四頁分俱し各圖半丁二頁分缺、題簽なし外題左肩墨書名同　內題「吉原あくた川名寄」神原文太郎舊藏

刊記

通油町　かめや彥右衞門板

（卷頭五丁にわたり女郎の紋所あり次で吉原遊女の評判三浦屋の部分だりは柱心「三うら」とあり、末「日本六十餘州りいせい棚おろし」四丁「吉原くるわ百とう」二丁に追加一丁あり、貞享延寶頃刊と思はる、菱川風の畵）

〔吉原歌仙〕闕一冊　四〇九

和袋綴改裝裏打　六寸二分四寸五分　二十四丁　四周單邊五寸四分三寸九分　十四行　四圖七頁分、題簽なし

（前後數丁落つ、延寶八年頃刊と推定さる、解說は野間光辰「初期遊女評判記年表付綿屋文庫藏吉原本紹介」—日本文化第十四號—にあり）

吉原酒てんとうじ　二冊　四一〇

寅ノ四月不長德序、和袋綴深縹色表紙　六寸五分四寸五分四周單邊五寸五分四寸〇分　十二行　上（一圖二頁分）下（二圖四頁分）、題簽中央茶色墨「吉原酒てんとうじ上（下）」

（序の日附は貞享三年四月と推定、解題は野間光辰「初期遊女評判記年表付綿屋文庫藏吉原本紹介」—日本文化第十四號—にあり）

○

諺苑　寫　闕五冊　四一一

太田全齋編　百次宣校　寛政丁巳（九）太田方序、和袋綴紙紛色表紙　八寸八分五寸六分　有界四周雙邊六寸九分四寸六分　九行、題簽きらら紙、「百々氏藏書」「足立氏」「萬葉廬」

（五冊目缺、內容は藤井乙男「諺苑より俚言集覽へ」—日本文化第十四號—に紹介あり）

軍事

海國兵談　十六卷三冊　四一二

林子平著　天明丙午夏五月念六仙臺工藤球卿序自序　自跋

石田成壽刻　鎌田朝隆書、和袋綴代赭色表紙　九寸〇分六寸一分　四周單邊六寸六分四寸八分　九行、題簽左肩「海國兵談從一至四（十二）（從五至十二）（從十三至十六大尾）」、「葆光書紀」

刊記

天明六年丙午夏仙臺林子平藏版

寛政三年辛亥四月板刻成彫工仙臺石田榮助藤原成壽筆者同藩鎌田佐吉藤原朝隆

（板木押收を蒙りし原板、谷一六の箱書あり）

○

遠西武器圖略　一冊　四一三

市川恭（齋宮）譯　杉田玄白校　和袋綴雲雷模樣瓶覗色表紙　八寸三分五寸七分　十六丁　四周單邊六寸七分四寸三分、題簽なし外題左肩「遠西武器圖略壹卷」、「中邨佐藤氏藏書記」

刊記

嘉永六年癸丑九月十二日寮准刊行每部無閒者手記之姓字者定爲僞木（書入）杉田成卿

遠西武器圖略　寫　一冊　四一四

市川恭（齋宮）譯　杉田玄白校　和袋綴共表紙　八寸五分六寸〇分　十六丁　四周單邊六寸七分四寸三分、題簽なし外題左肩書名同、「阿之路文庫」其他一

附箋（扉）

藏刻いたし不苦候

奥書

嘉永六年癸丑九月十二日寮准刊行每部無閒者手記之姓字者定爲僞木

（刊本の板下用に認きしかと思はるる稿本）

○

〔番神繪卷〕　寫　闕一卷　四一五

卷子本改裝　九寸六分二十六尺　表紙一尺四寸二分　十一圖、替題簽左肩白紙單邊「番神繪卷天文寫」

奥書

天文十七年戊申十二月大吉日

（初缺、故に書名不明なれど、先づ四季土用を五行說神儒佛混合の立場より說明、次いで日本唐天竺に於ける弓の傳力を語る物語に終る、弓道の傳書なるべし、畫彩色、稚拙なれど雄逞）

○

短册卷　寫　一卷　四一六

秀觀筆、卷子本改裝　五寸三分、題簽なし

奥書

（人名は並列して）小笠原宮內大夫齋藤左兵衞尉花田大和守大熊民部大夫合田彌介賀野包助　文祿五年貳月吉日秀親

（削除）殿相傳之

（「柴つなきノうた」「行つれのうた」等十二の馬術秘傳の歌眞言をしるし、末に「萬此心得ヲ嗜者也」と、人名は相傳の次第なるべし）

自然科學

元和二・三年伊勢暦　二枚　四一七

裏打原物七寸二分三尺九寸八分、九寸四分四尺〇寸四分

（末に陰刻にて十一月一日とあるは元和元・二年の當日にして發行日、「安政」とあるは出版關係者なるべし）

暦　百九冊　四一八

伊勢暦折本黑表紙　八寸六分二寸七分、其他和袋綴假綴共表紙　五寸三分三寸七分

（寛政十年より明治二十年迄天理教祖存命中九十年を第一部とし、其後明治三十九年迄を第二部とす、發行所次の如し）

自寛政十年至慶應三年（伊勢度會郡山田）

自明治元年至同三年（京都大經師）

自明治四年至同五年（大學暦局）

明治六年（文部省天文局）

自明治七年至同十年（太陽暦、頒暦商社刊）

自明治十一年至同十四年（太陽略本暦、頒暦商社刊）

明治十五年（太陽略本暦、頒暦社）

自明治十六年至同卅九年（略本暦　神宮司廳）

奈良暦　五冊　四一九

和袋綴合綴改裝　七寸〇分五寸〇分　一年分は各冊表紙共十丁　四周單邊六寸七分四寸七分　替題答左肩小豆色墨「古暦」

その下所收年次冊數を記す

（寛政五癸丑年暦より嘉永六癸丑年暦迄六十一年間の暦を收む、大經師には　南都陰陽師山村左門・同藤木長門・同中尾主膳・同藤村數馬・同藤木美作の諸家あり、寛政十戊午年暦「藤木長門出す」表紙には「順天密象定作新暦依例頒行四方遵用」、寛政十一年中尾主膳出すには「寛政九年新暦成十月進奏賜名寛政暦」とあり、共れ以前は寶暦甲戌元暦によれり山村左門家天保十五甲辰年暦表紙には、「今まで頒ち行はれし寛政暦は違へる事のあるをもて更に改暦の　命あり遂に天保十三年新暦成に及ひ詔して名を天保壬寅暦と賜ふ抑元文五年申寶暦五年乙亥の暦にことわる如く一晝夜を云は今曉九時を始とし今夜九時を終とす然れとも是まて頒ち行れし暦には毎月節氣中氣土用日月食の時刻をいふもの皆晝夜を平等して記すか故其時刻時の鐘とまゝ遲速の違あり今改る所は四時日夜の長短に隨ひ其時を量り記し世俗に違ふ事なからしむ今より後此例に從ふ」と、以下天保暦に從へり）

○

和蘭天地球圖　銅版　九枚　四二〇

司馬江漢著　本田三郎右衛門校

刊記

（天體圖末）寛政丙辰春正月日　日本銅版創製東都江漢司馬嶋寫并刻　本田三郎右衛門訂正

（天體圖二枚、太陽・月・地球運行圖、大地浮天之圖・測候圖同圖彩色や、相違す二枚・地圖の物理學上の略說を同封す各彩色あり）

○

地球全圖略說　一冊　四二一

司馬江漢著　寛政壬子之冬磐水平茂質（大槻磐水）序、和袋綴落葉色表紙　七寸四分五寸〇分　十五丁　四周單邊六寸〇分四寸二分　十行、題答左肩雙邊書名同　內題「地球全圖略說」柱心畧說

刊記

寛政癸丑春正月　春波樓藏刻

（十二丁裏に春波樓藏版目錄あり）

○

三獸演談　三卷三冊　四二二

神田白龍子著、和袋綴裏打白表紙　七寸五分五寸三分　四周單邊六寸五分三寸二分　十行　上（四圖四頁分）中（四圖四頁分）下（四圖四頁分）、題答左肩單邊書名同　柱心三獸演談、一印

刊記

享保十四年己酉秋七月松會堂壽梓

（象來貢を機とし象牛馬三獸利用故事等を說く談義本調教訓啓蒙書）

象のみつき　一冊　四二三

中村平五（三近）著自畫、和袋綴布目深縹表紙　七寸五分五寸三分　十九丁　四周單邊六寸一分四寸七分　十行　三圖三頁分　替題答左肩縹寫雙邊墨「象のみつきひらかな　全」

奥書

細三近凹凸中書　享保十四年己酉五月吉旦京書林　堀川通佛光寺下ル町並川茜三郎木村市郎兵衛　江戸目十軒店植村藤三郎　大坂　心齋橋筋淡路町角安井嘉兵衛

（中村三近子が享保十三年象來貢に際せる象雜話）

象志　一卷一冊　四二四

題詞半丁、和袋綴納戸鼠表紙　八寸九分六寸〇分　二十一丁四周單邊七寸〇分五寸〇分　十行　一圖半頁分、題答左肩白紙雙邊書名同、「水穗舍文庫」

刊記

京　堀川通佛光寺下ル町並川茜三郎木村市郎兵衛　江戸本石町三町目十軒店植村藤三郎　大坂　心齋橋筋淡路町角安井嘉兵衛

見返し

享保第十四龍集己酉仲夏日象志雜梅芙軒壽陽堂壽梓

（處衛志五雜俎等諸書より象の記載を動物學的條目に從ひ摘出配列せり、享保十三年象の輸入を期しての出版）

○

形影夜話　二卷二冊　四二五

杉田玄伯著　杉田伯元校　石川大浪畫　文化己巳冬十月不肖男杉田勤（伯元）序享和二のとし霜降月武藏と下總とさかひ二國はしの砌り小詩僊堂の主し（玄伯）自序、享和壬戌臘月望日大槻茂質（磐水）跋、和袋綴布目白茶表紙　八寸八分五寸八分　四周雙邊六寸八分四寸八分　十一行　玄白肖像一圖

題簽左肩雙邊書名同、「植松藏本」「松田翼印」「駿州原宿植松與右工門」其他一
刊記
文化七年庚午十一月刻成墻東居藏版（杉田伯元）
（內容は日本文庫第三編所收）

○

重訂解體新書 **銅版全圖** 銅版　一帖　四二六

南西厓・仲伊三郎著　文政辛巳春日西厓南寧一及び大槻磐水跋、折本木地に模樣紙を貼りし表紙　八寸八分六寸〇分　二十三丁半、四周單邊六寸九分四寸八分、題簽中央雙邊篆書書名同、「日高氏藏書」
刊記
文政九年丙戌秋七月發兌　書肆　京都堀川通高辻上ル植村藤右衞門　同寺町通御池上ル鈴屋安兵衞　大阪心齋橋通安堂寺町秋田屋太右衞門　江戸日本橋通壹丁目須原屋茂兵衞
見返し
天眞樓醒刻芝蘭堂再鐫浪華中端（伊三郎の印）千鍾房發行
（重訂解體新書の圖を西厓南寧一の摹圖し中伊三郎の銅版にせしもの）

產　業

耕織圖 一帖　四二七

焦秉貞（清）著　康熙三十五年春二月社日序、折本張込仕立改裝　一尺三寸〇分九寸六分　二十丁　四周單邊八寸〇分八寸〇分　四十六圖四十六頁分、題簽なし
刊記
欽天監五官焦秉貞畫鴻臚寺序班臣朱圭鐫
（各葉耕又は織の圖に御題を書込む、康熙帝の命により所刊）

○

水產博覽會第一區第一類出品審査報告及稿本 二冊　四二八

農商務省農務局著　洋裝假綴　六寸六分四寸六分　二百四十九頁　四周雙邊五寸二分三寸四分　十三行三十二字　七十二圖、題簽中央書名同　稿本和袋綴改裝　半紙本七十丁　替題簽左肩墨假に「水產博覽會第一區第一類出品審査報告稿本」
刊記

明治十八年二月十三日出版屆農商務省農務局藏版發兌東京市日本橋區兜町壹番地製紙分社
（稿本は附圖のみ墨書彩色　刊本に比して生彩あり、說明圖形亦少しく相違ありて詳細なり）

美　術

本阿彌行狀記 寫　三卷一冊　四二九

小杉榲邨寫　和袋綴檜皮色表紙用紙「杉園藏」と柱心ある十二行三十字和罫紙　八寸一分五寸六分　百四十二丁、題簽なし外題左肩書名同、「杉園藏」「夢陵藏書」其他一
奧書
此三冊は東武本阿彌治郎左衞門殿より借用寫置者也右治郎左衞門殿妹おます後剃髮して妙輔と號し卽ち佐々木高輔の妻にて十三歲の時東武より上京予か弟の嫁也此因緣にて寫置者也、寶曆元辛未年初冬佐々木高豐
此書前々より傳來甚可賞物ながら差支餘多他へ貸候事は遠慮あるへきものなり閑空
此本阿彌記三卷は佐々木柯堂子にかりて一覽せしに怪々適實要語多く感賞せしかは柯堂子も臨寫をゆるし給ふ依之余三餘のいとまみつから寫し置なりしかしなから閑空子前にいましめも有事故已後他人へは寫させましきよし誓ひ置く
文化三丙寅年文月中の五日寫し畢侍りぬ　阿部成裕藏書

右の通傳來書有之候所此度さる方より借用珍書故に寫置者也　天保十三壬寅年仲秋終の日寫之畢　岡永受全書同憲仍校

右秘本扨金半圓容易得之讀之樂而頗知所得也富岡鐵齋

この三冊鐵齋が藏本を玉園快應法師かり得たりとて見せつるをいとめづらしければしばしとてかりもて來てよひ〳〵ごとの筆すさびにみづからはしる〳〵寫して藏書とす然るにこゝの跋文のうち文化三年文月に寫畢ぬとしるしつる阿部成裕ハ同藩士にして當昔京都〔別邸〕小官なりしがいまその成裕の孫女滋子余か妻となれりすへてこれらのちなみをおもへば所感いとも〳〵禁へがたし　ことさらに趣味を加へたる珍籍なりさればそのよし一言をそふ明治二十九年九月十三日（花押）

○

法隆寺金堂壁畫　複製　十二卷　四三〇

（軸製大形は約十一尺八寸九尺六寸、表裝をのぞけば十尺二寸八尺六寸にして　第一圖・六・九・十の四卷、小形は約十一尺七寸四分六尺二寸　表裝をのぞけば十尺二寸五尺二寸にして　第二圖三・四・五・七・八・十一・十二の八卷これに屬す、昭和十一年七月京都便利堂の複製にかゝるものなり）

○

平定伊犂銅版畫　銅版　三十四枚　四三一

郎世寧（Castiglione, G.）畫　序二枚、厚紙葉　二尺一寸六分三尺一寸八分　畫六枚　畫面二尺六寸九分二尺九寸五分

（各畫に乾隆皇帝の題詞計十六枚を附す、帝の命により巴里に於て印刷せし初印畫なり）

平定兩金川銅版畫　銅版　一帖　四三二

折本板表紙　一枚の畫を胡蝶裝の如く張込めり　一尺六寸八分一尺四寸六分　畫十六枚

（乾隆皇帝筆題詞を畫面上横に刻入）

○

風鞍　寫　闕一卷　四三三

宮增彌七著　平井藤右衛門筆、卷子本改裝　五寸一分

奥書

此右風鞍は宮增彌七方より相傳也しかりといへとも金春大夫同宮王大夫方よりも色々相傳の大事を風鞍ニ書そへ候也此大事〔共〕れうしニ書進上申候事は有ましき御事にて候へとも今度めしくたされ色々御懇切なる間殘さす移進上申候いさゝかも他言他見御さた有ましく候

永正拾參年仲秋二日　平井藤右衛門（花押）海部左馬助殿樣相傳

（卷初缺、奥書の如く能樂囃子方の傳書、金春太夫宮王太夫は禪鳳及び日吉源四郎をさすか）

神樂考證　寫　六冊　四三四

井坂傳兵衛著〔井坂傳兵衛〕筆　弘化四年三月廿一日自序、和裝綴間似合表紙　八寸八分六寸三分　三（四圖八頁分）四（一圖一頁分）、題簽左肩書名同、一冊目表「井坂丹羽太〔一字不明〕」の印

（著者は卷頭「外宮神樂役人井坂傳兵衛大中臣德辰輯」と、序により自筆弘化四年成か、主に伊勢神宮の御神樂を博搜考證せしもの）

曲林集　寫　一卷　四三五

下村茜助著、卷子本改裝　五寸七分、題簽左肩書名同　內題「晉曲秘傳書十六ヶ條」

奥書

右條樣々心持習努候他は物語有ましきと也依懇望觀に不殘下申聞候處爲後世書記置物也　永祿三年正月日下村茜助

（花押）

（能樂特に囃子方に關せる傳書、句讀點をほどこしあり、轉寫と思はるれど江戸初期を下らざるべし）

箏催馬樂譜　寫　一冊　四三六

和裝綴砥粉色　表紙九寸二分七寸一分　二十九丁（中白紙三）、題簽中央「仁智要錄（破損）催馬樂呂」　內題「箏催馬樂譜」

（仁智要錄中箏催馬樂呂の歌の部、室町末寫と推定さる）

語學

日本語

雅言成法　寫　一冊　四三七

鹿持雅澄著、和袋綴薄鉛色表紙　九寸〇分六寸四分　墨附七十六丁　十二行、題簽左肩白紙「雅言成濟　全」、「大崎藏旺」奥書

「天保六年乙未三月十一日藤原太郎雅澄識」の奥書及び「同十一年庚子正月廿一日加句絶并聊朱書畢」（朱書）

（雅澄門人に淨書せしめ、自ら朱書入をほどこせり、内容は假略・非略・訛略・約言・舒言等語構成に際する音韻上の問題につきてなり）

〇

語例畧語附　寫　一冊　四三八

岡本保孝著自筆、和袋綴白茶表紙用紙四周單邊六寸八分四寸二分十行界紙　七寸六分五寸三分　百丁、題簽なし外題左肩書名同

（同形の熟語百四十二形を五十音順に配列し、其の所在を古典に求めたる手挍、例せば「青師云物ノ熟セサルヲ云」「——ヒレオトコ狹衣一下卅三ウ」「——女房太平記三十ウ」の如し）

草の垣根　寫　一冊　四三九

櫻山相泰著自筆　寛政八年十月朔日稻掛大平序自序、和袋綴紙質に絹布張水色表紙　六百八十五丁（中白紙十一）、題簽左肩書名同

（序云「このふみよおろかなるおのこかこゝろのしをりにもと見るにしたがひまた友とちのくちつからのまゝをしもかいつとへぬるにあやしういとらうかはしうなん」と、雅俗の語をあけ時に古典の例を引き、訓・解・考證種々說明せり）

言靈　寫　十九冊　四四〇

岡本保孝著自筆、和袋綴格子押出模樣黑茶色表紙　七寸八分五寸五分、題簽左肩摺雙邊右上下に貼紙「あ壹」の如く卷數と内容を記す

識語

（一卷見返し）此頃松屋與清が著述目錄をみるに、言靈といふあり、解題をよめハ、おのか物したるすかたにちかしさてハその書を襲踏したるならむとよの人いひおもふへけれハ、今此書名をあらためむとおもふに、又打かへしおもふに、その書はやく梓行した（世にひろまれ）るものならハわか寡聞をも恥へき事ならめと、その書を揷架してある友人もなくしたしくみたりといふ人もきかす、さてハ（こハたゞ與清心ひとつにおもひさためて、あらましに著述目錄にかきのせおきたる物ならん、今此書名をあらたむる（めむ）ハ、いとやすけれと、此後とても人々の著述目錄をみんに、同名有ましきにあらねハ、そのたひとにあらためむハいとわつらはしき事なれは、そのまゝにさしおきつ、安政三年五月八日　岡本保孝識（慶應三年三月今の松屋にあへるとき此言靈といふ書ハいかなるものそと聞たれハ沒後にかゝるものなし松尾外集といふもの若干卷ありされと是ハいろはにわけたるにハあらす雜考とも多しといへり）

（句讀點朱傍線括弧内訂正補記）

（主として中古語を五十音順に配列、出據注釋及び語解參考書名を示せる机邊におきし未定稿辭書、十八冊目は神名地名譬喩等を收め、十九冊目は俗言引用書目等を收むとあれど俗言ほとんどなし）

類聚名義抄　寫　九卷十冊　四四一

吉野隆平筆　新寫類聚名義抄叙として文化十歲次癸酉年八月晦書於平安城下二條堀川官宅伴信友序、和袋綴丹表紙　八寸九分六寸四分　八行、題簽左肩短冊紙書名同

奥書

（第一卷）天保十四年癸卯十一月中旬以伴信友本對校了（朱）

嘉永七年四月上旬以高山寺三寶類字集比校了（藍）黑河春村（四字朱）

舊藏十一卷本奥書

第一卷（三字朱）右十一冊之内七八九十之四冊歡喜菴御老師高田家中某令寫之者也右十一冊之内一二三四五六十一之七冊西念寺現住慧察諸方之學友之乞受力傳寫之者也校合慧察

同書十一卷奥書

類聚名義抄十一卷於京師一古寺竊得見之彌寫之有故姑禁他見者也　文化七年　伴信友（朱）

予固藏十一卷本而有故賣于宮内省上件所記載者則共奥書也　明治十一年五月　黑川眞頼（朱）

（第二卷）天保十四年癸卯端午日以伴信友本對校了　黑河春村（朱）

自第一卷人篇部至當卷田篇部惣計十九篇以高山寺本三寶

類字集缺本比校了(藍)
(第三卷)　天保十四年癸卯初秋十二月以伴信友本對校了
黑河春村(朱)
(第四卷)　天保十四年癸卯晩夏日以伴信友本對校了　黑河春村(朱)
(第五卷)　天保十四年癸卯十一月上旬以伴信友本對校了
黑河春村(朱)
(第六卷)　天保十四年癸卯十一月下旬以伴信友本對校了
黑河春村(朱)
(第七卷)　天保十四年癸卯十月朔日以伴信友本對校了　黑河春村(朱)
(第八卷)　天保十四年癸卯十月念九日以伴信友本合比校了
黑河春村(朱)
(第九卷)　天保十四年癸卯十一月下旬以伴信友本對校了
黑河春村(朱)
(第十卷)　天保十四年癸卯十二月以伴信友本合摹寫了　黑河春村終(朱)
明治三十八年十月廿二日因師黑川翁藏本模寫了　吉野隆平終
(一卷目餘間)　西念寺本一本首丁(朱)　明和四亥楓月廿三日類聚名義抄一

此書全部十一冊者嘗原是善鄉相成之父作而我朝之古書也最大切應所持全篇松之文爵少年之寫本予傳寫之爲因西念寺寶藏之常住物者也
予年來所藏此本而故有以明治十一年五月賣干宮內省　眞賴(朱)
新寫三寶類字集叙
去今三十三年前文化十年予陪故君侯在京之日得摹古本類聚名義抄還江戸後復得類本二種殘缺以校本篇且記附言藏之然後予既致仕息信近嗣信近天保十三年窮冬陪今君侯上京十四年春始家眷從到京故予復再在京適得見或人所秘襲三寶類字集高山寺印識古本殘缺一帖百五帋共本樣齋所摹與名義抄全同而蠹墳亦自相同豈測乎是卽類聚抄附言所論高山寺聖敎目錄載三寶類字集一部六冊之殘缺本也予再來京見其逸本可謂奇遇而已抃喜乞借卽欲摹寫之信近感其難堪以洗沐之寸隙臨寫漸卒業於朱點予親之裝演爲二冊與名義抄相彷珍襲焉他日欲校于本篇云尒
弘化二年十一月五日再在于平安城下二條官宅書伴信友時齡七十又三
嘉永六年十二月下旬乞得伴信近秘藏本比校之蓋自第一人篇至第十九田篇以藍墨附異同者是也　春村(藍)
(序につゞき黑川春村識語信友文政三年十一月の附言ありて

附言には觀智院本西念寺本運成院本及び名義抄そのもの、解題をなせり、以上三本に高山寺三寶類字集をも加へ、信友春村數度の校合によつてなりしものを黑川眞頼事あつて明治十一年宮內省に賣却せり、宮內省實上本により明治三十八年吉野隆平の書寫せしもの本書なり、校合の諸本は朱藍等を以て明瞭に區別されたり)

世俗字類抄　寫　二卷二冊　四四二

和袋綴紙粉色表紙　八寸九分六寸三分　八行、題簽左肩白紙書名同、「立敎館圖書印」「樂亭文庫」「白河文庫」「桑名文庫」
(伊呂波字類抄の祖本とさるゝ二卷本世俗字類抄なり、古典全集伊呂波字類抄山田孝雄解題云ふ黑川春村本系と別に樂翁舊藏本、末に「伊呂波字之終　一成之」とあり、德川中葉の寫)

倭玉篇　寫　一冊　四四三

和袋綴改裝　八寸八分九寸〇分　四十七丁　四周單邊七寸二分五寸九分　八行、題簽なし、「島田藏書」表紙見返し「安壽」と墨書
(倭玉篇の一、日第一月第二人第三言第四木第五火第六土第七金第八水第九白第十風第十一雨第十二目第十三耳第十四鼻第十五舌第十六身第十七久第十八骨第十九手第二十足第廿一鳥第廿二广第廿三虎第廿四心第廿五巾第廿六豕第廿七牛第廿八馬第廿九羊第卅龜第卅一魚第卅二の配列、各字訓少なく推定足利時代寫)

倭玉篇　三卷三冊　四四四

和袋綴改裝　八寸四分六寸七分　有界四周雙邊六寸八分五寸七分　七行、題簽なし外題左肩書名同　柱心和玉篇、圓中に羅馬字を用ひたる朱の一印
奥書
慶長癸仲冬日　開板之
(岡井愼吾氏玉篇の研究云ふ慶長十八年本、匡郭の大きさは不定　上卷目一丁によつて示す)

〔琉球官話集〕　寫　一冊　四四五

和袋綴改裝裁斷裏打原表紙焦茶色)　八寸二分四寸五分　六十五丁(內白紙十五)、題簽なし外題左肩「官話集」、二印あり
(琉球語の會話便覽なり、稱呼類・身體之類・食物之類等に分類して名詞を、次に二字官話・三字官話・四字官話・五字官話として活用語其他と、簡單なる文をかゝげ、漢字の下に發音を片假名にて示す、末部は整理されず單語文等混在し、

末に北京俗話若干、琉球國三十六島に附きての位置說明等を加ふ、江戸前期の寫かと思はれ　單語に於いて一丁につき八十語內外を收む）

支　那　語

平他字類抄　寫　二卷一冊　四四六

和袋綴　九寸五分六寸六分　八十六丁、題簽左肩書名同

奧書

（上卷）嘉慶貳年十一月廿三日於笠取之服藥所爲見如形書寫畢　執筆釋迦院實守

（下卷）嘉慶參年二月十一日於釋迦院部屋町爲後見如形書寫筆　執筆實守

（平他同訓字の次）康應元年五月朔日於釋迦院部屋町西廿ニ書寫畢　執筆實守

此之字類集有三帖秘藏無極者也

右平他字類集三卷全壹冊多年探索スル事久シ今玆高倉殿雜掌木崎數馬ヨリ東都某氏ノ藏書ヲ借リテ贈ラル時ニ豫微疾アリト雖ヘトモ廿日未刻初テ筆ヲトリ今廿五日申下刻ニ至テ寫畢ル　嘉永三庚戌年八月廿五日　神谷克楨　整

二十六日再校了本書誤字多シ）

韻鏡紀聞　寫　一冊　四四七

和袋綴附表紙　七寸五分五寸二分　二十八丁半　十行、題簽原表紙なし外題左肩書名同　內題「韻鑑紀聞」、（替表紙右肩）「山門東塔南谷眞如藏二百八十五定淨敎」（朱）（表紙右下隅）「臥雲鄰盛」（墨）、（表紙裏）「山門東塔南谷淨敎房眞如藏二百八十五（一字不明）」（墨）

（末に「三十六字母切韻法玉篇有之」を附せし、韻鏡の注釋書推定足利時代末寫）

廣韻　元版　五冊　四四八

陸法言（隋）等撰　陳州司法孫愐唐韻序、唐袋綴改裝　九寸一分五寸五分　有界四周雙邊六寸二分三寸九分　十三行

刊記

（序後）元統乙亥中秋日新書堂刻梓

（元朝順宗三年元統乙亥卽至元元年版）

（續群書類從第八百八十七所收本と同系なるべし、內題下に朱「上」として二つにわり「表題ニ上下ヲ別チテ上下ノ字ヲ記シタレハ今コヽニ上下ノ字ヲ加フ下卷コレニナラヘ忠實」と）

山梨稻川先生手稿音學五種

（以下示す五部を同函して假に名づく、箱書あり「稻川先生音學爲我邦絕學笹野君得其手藁五種作匣藏之使余題焉余景仰日久乃喜而書之戊辰十月　後學內藤虎」）

古音譜　寫　一冊　四四九

山梨稻川著自筆、和袋綴改裝　八寸二分五寸四分　十九丁有界四周雙邊六寸三分四寸五分　十行二十字、題簽左肩「初稿本古音譜」　柱心古音譜甲（乙…癸）昆陽基權藏、「笹野文庫」其他一

古聲譜　寫　一冊　四五〇

山梨稻川著自筆、和袋綴柿澁表紙　八寸七分六寸五分　八十五丁　有界四周單邊七寸一分四寸八分　九行、題簽左肩「古聲譜內藤虎敬書」、「笹野文庫」其他二

（山梨稻川集所收原本）

諸聲圖　寫　二卷二冊　四五一

山梨稻川著自筆　文政癸未六月自序、和袋綴改裝　八寸五分五寸七分（序のみ）有界四周單邊七寸一分四寸八分　八行、題簽左肩書名同、「笹野文庫」其他一

見返し

文政癸未新纂諸聲圖　華陽精舍

（山梨稻川集所收原本）

考聲微　寫　三卷三冊　四五二

山梨稻川著自筆、和袋綴柿澁色表紙　九寸一分六寸五分　有界四周雙邊七寸二分五寸二分　七行、題簽左肩白紙「考聲微上（中下）」、「笹野文庫」

（山梨稻川集所收原本）

古音律呂三類　寫　二卷二冊　四五三

山梨稻川著自筆、和袋綴　九寸一分六寸〇分　有界四周單邊七寸四分四寸二分　八行、題簽左肩書名同、「笹野文庫」其他一

（山梨稻川集所收原本）

○

大廣益會玉篇　三十卷七冊　四五四

顧野王（梁）撰、和袋綴栗皮色表紙　九寸二分六寸〇分　有界四周雙邊七寸三分五寸五分　八行、題簽左肩雙邊書名同一冊

目上部破損　柱心玉

奥書

此漢玉近代往々雖在之或點或文字共誤不可勝斗今鎖譯改字證以令刊正之者也寛永廿一季甲申曆林鐘吉辰

（題簽外題下卷數を示せり、至正本の覆刻たる慶長九年刊本系、岡井慎吾玉篇の研究參照）

大廣益會玉篇　三十卷五冊　四五五

顧野王（梁）撰、和袋綴格子模様胡茶色表紙　八寸七分六寸一分　有界四周雙邊六寸九分四寸二分　十一行、題簽左肩書名同　柱心玉、「金獅峰松壽林大乘常住」

奥書

此書是蕭梁顧野王先生所選爾來支桑見卷於羨增者也雖然厥板行少干世童蒙者時々苦昏迷故道本祖轉兩翁傾心以鏤於梓正運純孝兩匠盡力既工畢矣藏置諸京師四條云伏希庚鹿無疑寸陰訪耀心之白日蒐蒐不感萬年永廓胸之青天矣慶長九甲辰夏五月日鐵山叟宗鈍漫書其後[印]

（題簽外題の下卷數を示す、慶長九年至正本覆刻本甲に相當す、玉篇の研究參照）

大廣益會玉篇　三十卷五冊　四五六

顧野王（梁）撰、和袋綴栗皮色表紙　八寸五分五寸四分　有界四周雙邊六寸九分四寸二分　十二行、題簽左肩雙邊「玉篇」柱心玉、「命敎」の印

奥書

（慶長九年刊本と同じ鐵山叟宗鈍の奥書）

（題簽外題下卷數を示す、至正本を複刻せし慶長九年本の覆刻本、玉篇の研究刊年推定元和中か寛永初期を越えずと）

字鏡　寫　五冊　四五七

和袋綴金泥雲龍模様薄灰色表紙　一尺三寸二分九寸三分、題簽なし外題中央書名同、「飾磨縣官立古學藏書印」「はりま。ひめぢはるやま」「好古堂圖書部」

奥書

（二卷末）　癸酉歳以世尊寺中納言殿手書原本校合畢

（三卷初）　因世尊寺中納言殿手澤原本以黒點校合

（附錄末）　字鏡附錄二十又五枚因　世尊寺中納言殿手澤原本校合畢　歳次癸酉

（國語學書目解題にある書と同系なるべし）

字鏡集　寫　二十卷七冊　四五八

（菅原爲長）撰、和袋綴　一尺一寸五分七寸九分、題簽左肩

書名同、「秋葉義之印」「下總崎房秋葉孫兵衛藏書」

奥書

寛元三年四月二日小川法印承澄示云朱點東宮切韻黒點唐玉篇也自支胎至干灰咍又舌内也　寛元三年五月十日尙成云墨點不審字也朱點詳之無不審字也

已上七冊自一至七

右字鏡集全部廿卷七本以故狩谷望之所藏古鈔本令謄寫畢天保十二年歳次辛丑晩夏　日藤原春村

識語

（希覯典籍莵集會刊本字鏡集に寫眞版としてのる春村の識語一丁あり）

（希覯典籍莵集會刊本の一底本なるべし、朱にて白川本と校合）

新撰字鏡　寫　十二卷十二冊　四五九

昌住著　高橋廣道筆　序三丁、和袋綴　一尺一寸六分八寸四分、題簽左肩書名同、「秋葉義之印」

奥書

（第一）　天治元年甲辰五月下旬書寫之畢法隆寺一切經書寫之次爲字決諸人各一卷書寫之中此卷是五師靜因之分以朦筆所寫了

安政二年二月念二日以禿筆模寫了　藤原春村

（第）　天治元年甲辰五月二日戊寅書寫畢法隆寺一切經普義新也爲自他法界平等利益勸進僧林幸

（三）　安政五年七月自志日書寫訖　春村

文久三年竹醉日　應秋葉氏之需匆々轉寫了　廣道（朱）

（四）　天治元年五月十一日法隆寺東室八室書了

新撰字鏡殘缺第二第四卷文政八年九月摹寫功了（源伴信友の印）

天保十三年壬寅八月十六日以伴信友本影寫六十九卷老人　螢澤齋圖（二字不明）武

同年十月以圖氏本令摸寫了　黒河春村

（五）　天治元年四月廿九日爲全法久住法隆寺一切經藏判書寫執筆任覺發之　一交了

安政第四天歳次丁巳端午前一日謄寫了　藤原春村

（六）　安政第四曆藝賓十七日全模寫訖　藤原春村

（七）　一交了　天治元年才永甲辰五月十九日交了

（八）　沙門昌住撰集之文

一校了

天治元年甲辰四月六日書寫畢　執筆僧隆進

安政四年丁巳季冬念廿八日成功訖春村

（九）　一校已　僧覺印

天治元年甲辰四月廿七日甲戌巳刻書寫已畢
各一卷書之今此卷　僧覺印書之
安政五年如月五日書寫了　藤原春村
（十）天治元年五月十日　書寫了　東寺僧應順
安政第五曆歲次戊午晩夏廿日謄寫了　春村
（十一）なし
（十二）天治元年甲辰五月十日書寫了
右新撰字鏡中古久湮晦矣其顯干近世者誰不珍重之而其書
僅一卷而已其序曰昌泰年中改張乃成十二卷也由之觀之其
顯現者蓋抄出本而非原本也予蚤歲得天治元年之古寫本第
二第四之兩卷其不爲全部也遺憾甚矣爾後搜之索之三十餘
年干玆至嘉永甲寅會有攝人某得之而非古寫本同有天治元
年書寫之跋言而缺予所得之兩卷若夫第十一之卷素斯之無
也當時蓋得天治本私所副寫者也其原本及十一之卷其散佚
不可得而知也故某就予乞補其兩卷予欣其同志何得不許之
予亦將以彼本補予缺也交易而寫之互以爲全本矣嗟呼天憫
年來之深志而賜與者也歟非人力也大幸哉大幸也自今以往
更得見原本及十一之卷則死且不朽矣書以爲跋安政二年乙
卯十有二月　中臣朝臣連胤
再書新撰字鏡後
乙卯年豫以攝人所得古寫本與予所舊藏相照得互補其缺深
以爲幸但恨攝人所得者非天治本而猶缺第十一卷以爲宇內
已絕不可得復見何意丙辰年攝人又得其原本者與予所藏者
正相同而併第十一卷皆有於是此書初全得復天治之舊觀嗚
呼亦奇矣前日之所爲幸自今而視之則未足以爲大幸而今日
之所爲幸者則足以爲眞大幸回再書以志喜安政四年丁巳二
月
右天治元年鈔本新撰字鏡十二卷者往年出於大和國斑鳩寺
一切經藏中矣皇國無二之奇書而希世之典籍也但其第二第
四二卷者京師鈴鹿氏（筑前守中臣連胤）所藏故伴氏（源信友）傳摹之余亦
嘗就伴氏本旣得摹之其他十卷者攝津國岸田忠兵衞（西成郡北傳法村農家云々）秘藏而未流布手人間然頃年鈴鹿氏百計得傳摹之余
復懇請而借閱其摸本以昨今兩年間漸卒全寫之功矣實可謂
生前之幸倖也因不勝抃躍之至記由來于卷尾以諗後昆云爾
安政五年秋七月下旬藤原春村
（鈴鹿連胤伴信友黑川春村と謄寫して文久三年高橋廣道秋葉
氏の需によりて轉寫せしもの、朱の訂正あり）

字典浪記　寫　一冊　四六〇

平旦昭著自筆　文政丙戌正月念五平旦昭翁跋、和袋綴飴色表紙　七寸九分六寸二分　五十六丁（墨附五十）有界四周雙邊六寸八分四寸二分　九行、題簽左肩雙邊書名同「八田氏之

譯鍵　三冊　四六一

藤林淳道著　文化七庚午年二月藤林淳道凡例　文化庚午季春
海上陳人（海上隨鷗）跋、和袋綴紺表紙　七寸七分五寸六分
四周單邊六寸八分四寸七分　附錄は和袋綴落葉色表紙　八寸
〇分五寸五分　四周單邊六寸五分四寸七分　十行二十一字、
題簽薄柿色上に（Nederduitsche TAAL）下に譯鍵と記し中
央上部横にあり附錄は上に凡例附錄として下に譯鍵とあり
（小森桃塢と共に海上隨鷗のハルマ和解より三万語をえらび
編す）

洋學指針　寫　一冊　四六二

伊藤圭介著自筆、和袋綴改裝　八寸三分五寸七分　十一丁
有界四周單邊六寸三分四寸四分、替表紙題簽右肩白紙「洋學
指針伊藤圭介稿本」
（見返しに「天保庚子刊行」の文字あり、天保十一年刊行の
予定に作りしものなるべし、又「萬寶叢書中收入洋字篇」の文
字も見ゆ、和蘭語入門書）。

〔蘭語譯撰〕（Nieuw Verzameld Japan en hollandsche Woordenboek）　五卷一冊　四六三

奥平昌高著　文化七年蘭文自序　文化庚午仲秋邦文棠序、
洋袋綴改裝　八寸六分六寸〇分　二百九十七丁（本文二百八
十八白紙四序五）有界四周單邊六寸六分四寸三分
（世に中津版蘭語譯撰と稱す）

蘭和辭彙（Nieuwe-Gedruct Bastaar dt Woorden-Boek）　二卷二冊　四六四

奥平昌高編　蘭文自序、洋袋綴濃縹表紙　八寸五分五寸八分
有界四周單邊六寸六分四寸三分　十五行、題簽和紙印　刷
「Bastaardt Woorden Boek. I (II) Deel」「雙梁館圖書記」
（一八二二年卽文政五年江戸に於て出版さる）

文學

日本文學

和歌

永言格　寫　三冊　四六五

鹿持雅澄著自筆、和袋綴布張藍表紙　九寸〇分六寸三分　十一或は十二行、題簽左肩白紙單邊書名同、「原氏家藏」

識語

（卷末）我友越のみちのしり新發田のさとの人原宏平大人のもとより鹿持雅澄翁のかけるものあらハ得まほしきよしいひおこせられしか此ころさるゆゑありて翁の著書かれこれ得つる中に此永言格ハ翁のかゝれしものとおぼゆれはおくりまいらすとて共よし書そふるになん明治三十二年十二月十五日　土佐國高知人　今井貞吉（君山の印）五十のかみ十年あまりしひとひらはこれしるせとの心なりけん　たゝよし

（卷初）贈呈武島大人　大正七年一月　（八十一翁宏平の印）

（總論凡例の末に「天保六年乙未三月十八日　藤原雅澄識」と、識語により自筆かと云へど、門人の淨寫に雅澄の朱筆を加へしものか）

〇

萬葉代匠記初稿本　寫　十八冊　四六六

契沖著、和袋綴　八寸九分六寸四分、題簽なし　內題「万葉集抄」又「萬葉集」等一定せず、「克己齋足立氏圖書之記」「家當」其他一

（代匠記初稿本の所謂流布本なり、二冊目末「一本校合了」として所々朱筆校合あり、卷十の中表紙見返しに「荷田東麻呂書」と貼紙あり、共意明かならず、たゞし少なくとも二筆を混ず）

古萬葉集　活字本　二十卷二十冊　四六七

今村樂・横田美水校　享和三年八月今村樂序　土左之久奴智奈流横田美水跋、和袋綴山吹茶表紙　八寸八分六寸一分　四周單邊六寸六分五寸四分八行十八字、題簽左肩雙邊書名同但一・十三破損　柱心古萬葉集、「眞」の印

（今村樂發起美水の校せしもの、古體にかへる意に基くと云ふも、通行本を基とし恣意の變更多し、活字なるを珍とすべし、各卷　出雲寺改芳山堂改嘉膺堂改と三行の一印あるは藏版元か發賣所か）

萬葉集　古活字本　二十卷十冊　四六八

和袋綴毘沙門格子兎模樣入丹表紙　九寸一分六寸九分　四周雙邊七寸八分五寸五分　八行十八字、題簽なし　內題「萬葉集卷第一（—二十）」柱心萬葉集、「大和二名伊與松山」「平安堀氏時習齋藏」

識語

此万葉集之點者妙壽院惺齋公淺野紀伊守幸長公所望ニヨリテ門人伯（卽）ト云能筆ニ命メ寫サセ點ヲ改奉之御本之點ノ寫也可秘之　西川安之　紙數九百卅三丁

（慶長中刊無訓本活字本なり、全卷墨書の訓は識語によれば冷泉家傳來なるべく藤原惺窩が加へたるものの寫と云ふ、奥書元寛の頃か十冊共目錄は墨書、卷四は凡て補寫なり）

萬葉集分類　寫　七冊　四六九

みなもとのよしみつ著自筆「文化と（の）きこゆる（消）とを（とせあ）まりみつのとしの（とせといふ）しものふるつきのもちはかりになん（かく）いふはみなもとのよしみつ」序（傍線括弧內訂正）、和袋綴薄藍色表紙四周雙邊七寸一分四寸八分十一行摺用紙　八寸五分五寸九分、題簽左肩摺雙邊書名同、「萬葉廬」

（序凡例によれば萬葉集略解の訓に從ひ各歌を假名書にて、天地歲次に大別更に類題にわかちたるもの、但短歌のみ、壹之上壹之下天之部、貳之上貳之下地之部、三之上三之下歲次之部、外題下にその由をしるす、序凡例斧正の跡存す）

萬葉集句分　寫　六冊　四七〇

度會正兌編　興平筆、和袋綴布張裏藍色表紙　九寸〇分六寸四分　十二行、題簽左肩白紙書名同、「櫻山文庫」

奥書

（一）以度會正兌神主之本謄寫訖焉天保六年閏七月十六日興平（興平之印）

（二）以度會正兌神主之本謄寫訖焉天保六年八月七日興平（印）

（三）以度會正兌神主之本謄寫訖焉天保六年八月二十九日興平（印）

（四）以度會正兌神主之本謄寫訖焉天保六年十月九日興平（印）

（五）以度會正兌神主之本謄寫訖焉天保七年二月十五日興

平（印）

（六）以度會正兌神主之本謄寫訖時天保七年七月五日興平

（印）

（歌書綜覽に解説あり、一は安行　二は可行　三は佐・多行　四は奈・波行　五は麻・也行　六は良・和行を收む）

萬葉集問目　寫　七冊　四七一

賀茂眞淵・本居宣長著、和袋綴丹表紙　八寸九分六寸三分十行、題簽なし外題左肩書名同、「足立氏」

（歌書綜覽に云ふ萬葉問目一萬葉再問一萬葉集疑條五を收む宣長の問は墨書眞淵の答は朱書）

萬葉集採葉　寫　六冊　四七二

栂取魚彦編「自筆」、和袋綴落葉色表紙　七寸九分五寸四分、題簽左肩摺水色雙邊書名同二・三冊目のみありて他は剝脱

奥書

（一末）右阿行五十張安永六年七月十二日栂取魚彦艸

（萬葉語彙を摘出五十音順に配し各音に屬する中にて、國郡地名或は海浦發語等に分類し、寛永板本により、その所在を示せり）

萬葉集詞解　寫　五冊　四七三

和袋綴水色表紙　九寸八分六寸九分　七行、題簽左肩書名同、「村上治郎」

（萬葉集の語彙をいろは順に配列　右に訓下に略解とその所在をしるす、所々正準云の朱書入あり、歌書綜覽參照）

萬葉集作主履歷　寫　九卷九冊　四七四

海北若沖著、和袋綴薄納戸表紙　九寸〇分六寸一分　十行、題簽左肩薄黃色紙書名同、「村上治郎」

（契沖全集第九卷三七五頁參照）

萬葉集作主履歷　寫　九卷五冊　四七五

海北若沖著　高橋廣道筆、和袋綴布目裏葉色表紙　七寸九分五寸三分、題簽左肩白間似合紙墨書名同外題下所收卷數を二卷づゝ示す但し五冊目は九のみ、「秋葉義之印」「下總崎房秋葉孫兵衛藏書」「崎房文庫」

奥書

（朱）天保十四年卯南呂十四日寫畢　高橋廣道　原本ハ淺草庵薄齋翁藏一二三ハ少シ宜シキ本ニテ四ヨリ九迄甚誤脫多キ惡本也ナリフシ梅居ガ藏本ヲ借テ參見スルニコレモアヤマリハアレド大カタハ宜シダナレバ其ヨシト思フカギリヲ本文ヘマジヘ出シツイ本トアルモコレナリ但シイ本ニハアラズ寫シノヨキ也

萬葉集類詞抄　寫　二十八冊　四七六

大伴宣光編　文久の波自米の歳の彌生のもちの日桑樹園の主人羽田野敬雄序文久元年三月從五位下近江守藤原朝臣宣隆序文久はしめのとしやよひのなかは從五位下阿波守大伴宿禰宣光男宣政序（二十四末）文久とあらたまれる年の十二月中山繁樹跋文久元年辛酉霜月宮路常雄跋、和袋綴布目深川鼠表紙七寸八分五寸五分　十行、題簽左肩牡丹色書名同

附箋

（卷頭）一類詞抄壹部二十八冊こは羽田文庫へ納つる本の草稿にておのか家に殘しおく携本なれはわきて誤字落字等多かるへし見給わん人は其心得あるへし但し落字誤字見あたり給ふまに〳〵其よしそこに書入給へかし　香案園主人申

（二十八冊目初と末に「此書を羽田文庫に納むる時によめる」と詞する同趣の長歌を萬葉假名にて書く、末のは朱にて改訂す、萬葉の語彙をいろは順にならべその所在を示せしもの二十四冊を正編とし二十五・六の二冊は冠辭之部、二十七・八の二冊は伊藤春元の著をかりて名所之部にあつ、その末に「此名所の部二卷は遠江人伊藤春元かはやくえらひおきたるよしにて石川依平かもたるを同學草鹿砥宣隆かゝりて寫しもてるをおのれまたうつしたるなり但し假字はみな本書のまゝなからを初まなびの目やすからんかために例の平假字にかきあらためたるまてたり　大伴宣光いふ」同筆と見ゆる墨朱の補筆あり序跋は各々自筆なり）

萬葉答問錄　寫　五冊　四七七

田中道麿編、和袋綴褐色表紙　八寸六分六寸五分　十行、題簽左肩黃色雙邊書名同

（卷一卷頭「田中道麿問」とあり、內容萬葉集の疑問を師に正せしものに師の答を合せ揭ぐ、師は本居宣長、歌書綜覽「萬葉集問答書三卷寫」として收めたるとも同物なるが如し）

萬葉和歌集　二十卷二十冊　四七八

和袋綴青表紙　八寸八分六寸二分　四周雙邊七寸四分五寸六分　八行十八字、題簽左肩雙邊書名同　內題「萬葉集」柱心萬葉、「笹野文庫」「小栗藏書」其他一

刊記

嘉寶永六丑季春吉辰　御書物屋出雲寺和泉掾

奥書

右萬葉集二十卷以景山屈先生家藏本校正之至如冠註旁註亦皆據其本已此本也先生所自校正蓋以契沖先師代逝記爲據如其稱師云斯今并似閑翁之說也翁亦契沖之門人也　先生與似閑之門人樋口老人宗武友善是故　先生以其本校正訓點冠註旁註之則實契沖傳說之義不待代逝記而明焉者也故予深崇信之以餘力寫之藏巾笥爲秘珍矣後之閲者勿忽諸爾寶曆七年丁丑五月九日卒業于平安室坊寓居　神風伊勢意須比飯高霧庵本居宣長謹

文化九年申四月十日去未春師石塚龍麿翁之許與理校本乎借置斯遠校合畢　阿良禮布理遠津淡海稻植留豐田國御民小栗氏平廣伴(花押)

天保十三年寅五月縣主の翁說書入校本もてふたゝび校正をくはへ畢りぬ又こゝかしこおのが考へをもかき入れぬ

(奥書の如く寶永版本に小栗廣伴の書入しものなり)

萬葉和歌集校異　二十卷二十冊　四七九

橋本經亮・山田以文校、和袋綴　八寸七分六寸二分　四周雙邊六寸九分五寸五分　八行、題簽左肩雙邊書名同　内題「萬葉集」　柱、心萬葉、「時習堂圖書章」「田上」「陳鴻」其他一刊記

右以元曆校本并諸本校訂異同標上層訖梅宮繩宜正五位下橘經亮　右橘亮曾校正此書未卒業而卒今轍其志再校　文化二年八月　吉田社公文所藤原以文　寶永六年丑季春吉辰　御書物師　出雲寺和泉掾　出雲寺文治郎　文化二年乙丑之冬

(校異本萬葉集に何人か不明なれど、諸家の諸書の說もて、墨朱縱横の書入あり)

○

後撰集燈　寫　一冊　四八〇

富士谷御杖著自筆、和袋綴用紙一頁十二行の有界四周單邊黑罫紙　七寸九分五寸五分　三十九丁(内白紙一)、題簽なし外題中央「後撰和歌集第十四戀六」

(鹿嶋正二「富士谷御杖の後撰集燈稿本について」—日本文化第十四號—參照)

○

後水尾院御集　寫　一冊　四八一

後水尾天皇御著　(雜波宗量)筆、和袋綴金泥にて花鳥を配せし水色表紙　九寸〇分六寸四分、八十五丁、題簽左肩布地金泥にて菊花を配す書名同傳靈元天皇御染筆

奥書

此一帖者
後水尾御集也依小田原侍從正通朝臣所望而不顧禿筆令書寫之并加奥書秘不可被出兩底者也　天和三稔初春夏上旬候
黄門侍郎□□宗量

(一古齋のきはめありて雜波宗量筆と傳ふ)

賀茂翁家集　寫　一冊　四八二

賀茂眞淵著　村田春海筆、和袋綴淺葱色表紙　八寸八分六寸四分　五十丁、題簽なし外題左肩「かもの翁歌集」、「本卷不可出闕外書而不可貸於他書也殿村雅綱」其他二

(刊本に比して大差なけれど長歌等に於て若干少なし、表紙右肩朱「平春海翁自筆」家集の編者春海の筆なり)

歌謠

古本神樂歌　寫　一冊　四八三

和袋綴　九寸〇分六寸三分　五十一丁、題簽左肩摺草邊書名同、「居山齋藏」「橘守部印」「池庵」其他獅子印

奥書

右神樂歌古本甚珍重也今以師賀茂縣主本書寫畢可秘　明和六年己丑四月廿五日本居宣長判　(駿河歌の次)右駿河歌一篇以一本校合宣長

(眞淵宣長傳來本の一にして、青朱校合あり)

和漢朗詠集　寫　二卷一冊　四八四

藤原公任編、和列帖織物表紙表紙裏金色布目紙　七寸四分五寸五分　百六丁　五行、題簽なし外題中央「朗詠和漢集全」

(室町末の寫か、漢詩には反點送假名を附す)

宴曲・舞曲・謠曲

伏見常盤　奈良繪本　寫　二冊　四八五

袋綴濃藍地金泥の松に金細片を配せし表紙見返し金細片あり五寸四分八寸〇分　十三行　上(五圖五頁分)下(四圖四頁分)、替題簽中央外題なし、「宮邨家藏」其他

(幸若三十六番の一伏見常盤の奈良繪本、江戸時代に入りての謠風)

白樂天　嵯峨本　一冊　四八六

雲母摺を用ひし乳白色表紙　七寸九分六寸〇分　十丁、替題簽左肩煙草色墨書名同

(光悅本謠曲所謂第一種本なり)

杜若　嵯峨本　一冊　四八七

雲母摺を用ひし瓶覗色表紙や、色あす　八寸〇分六寸〇分
十二丁、題簽左肩剝脱
（光悅本謠曲所謂第四種に屬す）

柏崎　嵯峨本　一冊　四八八

表紙剝脱　七寸九分六寸〇分　十六丁、題簽なし
（光悅本謠曲所謂第四種に屬す）

清重　古活字本　一卷一冊　四八九

和袋綴改裝　八寸五分五寸八分　十六丁　十行約二十字　七圖七頁分、題簽中央白紙「清しけ」内題「きよしけ」柱心清重
（幸若三十六番の一、寛永十二年刊本の一）

〔金春流謠本内外二百番〕　八卷四冊　四九〇

和袋綴改裝用紙薄葉　三寸九分四寸九分　十四行、題簽なし
朱書内或は外のみ　柱心内（外）、「筒井氏」（墨）
刊記
（二冊目）右下歴百番謠者今春太夫以章句寫之加秘改正令刊板者也　元祿十三龍集庚辰孟陽日書肆梓行
（四冊目）右下歴外百番謠者今春太夫以章句寫之加秘密改正令刊板者也寶永第二龍集乙酉仲夏吉日洛下宣風坊書肆梓行
（朱にて拍子其の他書入）

〔幸若舞曲三種〕　寫　一冊　四九一

和改裝兩面書一枚づつをかさね綴　五寸八分八寸五分　二十二丁（内墨附十九）十五行約十六字、題簽なし
奥書
（清重）九丁目表　幸若六世桑門無人齋慶長拾貳年三月日
舊遺（花押）
（畠山六郎）十一丁目裏　幸若大夫慶長十二稔姑洗日（織）
安（花押）
（四國落）二十一丁目裏　幸若大夫慶長十二曆彌生日（織）
安（花押）
（清重四國落の他に畠山六郎水練の手並により賴朝に稱せらる一單編、こゝに假題して畠山六郎と云ふを收む、「カ、ル」「同音」「ツメ」「クトキ」等節譜あり各奥書本文と異筆、清重奥書又異筆）

大職冠　奈良繪本　三冊　四九二

袋綴濃藍地に金泥にて上卷松中卷梅下卷萩を配せし表紙見返し毘沙門格子に諸花を圓形圖案化模樣と配せし金紙五寸七分八寸一分、十三行　上（六圖八頁分）中（七圖八頁分）下（六圖八頁分）、題簽中央白茶色金泥にて草花を配す「たいしよくわん」
（幸若三十六番の一、大職冠を奈良繪本にせしもの、作成は江戸期に入りても後なるが如し）

富樫　寫　一冊　四九三

和列帖共表紙附表紙　七寸七分六寸三分　二十二丁　九行約十五字、原表紙題簽なし外題左肩「冨士（トガシ）一番」
奥書
墨付二十丁　慶長六辛丑仲春仲旬八〔源〕一郎永政　伊藤助左相傳
（墨の節譜、朱の振假名あり、本文寛永刊本とかしと大略等しけれど細部の相違あり）

朝長　嵯峨本　一冊　四九四

雲母摺を用ひし瓶覗色表紙　七寸九分六寸〇分　十六丁（中白紙一）、替題簽左肩煙草色紙書名同
（光悅本謠曲所謂第一種に屬す）

しだ　二卷二冊　四九五

和袋綴毘沙門格子に龍の丸模樣を配せし薄鼠表紙　八寸七分五寸九分　四周單邊七寸二分五寸五分　十五行約三十二字
上（四圖六頁分）下（五圖五頁分）、題簽左肩雙邊「新板しだ上（下）」
刊記
寛文九年五月吉日　江戸大傳馬三丁目山本九左衛門板
（幸若三十六番の一、世に云ふ寛文九年版）

〔謠曲百番〕　嵯峨本　百冊百冊　四九六

表紙種々　七寸九六寸〇分
（第二種本に屬するものは高砂、田村、江口、斑女、鵜飼、難波、兼平、千手重衡、辛都婆小町、紅葉狩、井筒、賴政、三井寺、天鼓、白樂天、實盛、楊貴妃、玉葛、融、清經、朶女、朝長、姨捨、柏崎、阿漕、志賀、鵜、梅ヶ枝、誓願寺、蟻通、忠度、熊野、遊行柳、藤戸、景清、矢卓鴨、俊寛、松風、西行櫻、浮舟、吳羽、八島、鸚鵡小町、葛城、當麻、海士、鞍馬天狗、東岸居士、龍田、夕顔、角田川、春日龍神、